

ノデアリマス、次デ之ニ對シマシテ政府ノ意見ヲ
 タノデアリマス、政府當局ニ於キマシテハ、
 何レ普通選舉ガ通ツタコトデアルガ故ニ、之ニ關係スル所ノ法律案ノ改正ハ澤山アル、今直ニ此
 一事ノミヲ改正セズトモ、何レ改正シナケレバナラヌカラト云フ御意見デアッタノデアリマス、
 次デ然ラバ政府ニ於キマシテハ、治安警察法第五條ノ女子ノミヲ許ス積リカ、或ハ第二號、第三號
 ニ記載サレテアリマス、神官、僧侶、學校ノ教員、生徒ニ對シマスル所ノ結社ノ自由ヲ許ス意思ハ
 ナイカト云フ御尋ガアッタノデアリマス、政府ノ方ニ於キマシテハ、何レ是モ改正スベキモノト
 信ズルト、斯ウ云フ御答辯デアッタ、質問應答ハ先ヅ大要斯ノ如キモノデアッタノデアリマス、デ
 此案ニ對シマシテ委員中ノ原夫次郎君、大石大君ヨリ修正ノ動議ガ提出サレマシタ、ソレハ即チ
 治安警察法中ノ第五條第一項第三號ヲ削リ、同條第一項第四號ヲ削リ、同條第一項第五號ヲ削
 リ、同條第一項第六號ヲ第三號ニ、同條第一項第七號ヲ第四號ニ改ムト云フ修正動議デアッタノ
 デアリマス、即チ第五號ノ女子ノミニ結社ヲ許スト云フ範圍デハ少イ、之ヲ擴張シテ神官、僧侶、
 又學校教員、生徒ニモ是非結社ノ自由ヲ許スト云フ趣旨ノ修正案デアッタノデアリマス、ソコデ
 此修正案ニ對シマシテ疑問ノ生ジタト云フコトハ、先ヅ第一ニ於キマシテ、本議場ニ於キマシ
 テ委員會ガ付託サレタル範圍デアリマス、其範圍ハ女子ノ集會結社ヲ許スト云フ問題ノミデアッ
 タノデアリマス、ソコデ神官、僧侶、學校ノ職員、生徒ニ對シマシテハ、發案者ノ趣旨ガサウ云フ
 趣旨デナカッタモノデアリマスカラ、委託サレタル範圍外ニ互ルモノデハナイカト云フ議論ガ出
 マシテ、ソコデ此修正案ヲ審議スベキヤ否ヤト云フコトノ問題ニ移ッタノデアリマス、デ委員長
 ニ於キマシテハ此事ヲ委員會ニ諮リマシタ所ガ、委員會ハ審議スベカラズト云フ結果ニ陥リマ
 シタノデアリマス、ソコデ此修正案ハ審議セズシテ終リマシテ、所謂原案デアアル所ノ改正法律案
 ノ採決ヲ致シマシタ所ガ、滿場一致ヲ以テマシテ原案ガ通過致シタノデアリマス、以上ヲ以テマ
 シテ此委員會ノ經過竝ニ結果ノ御報告ニ致シマス

院議起立採決ノ結果起立者多數ヲ以テ本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀

會ヲ省略シテ委員會報告ノ通可決確定シ即日之ヲ貴族院ニ送付シタルモ同院ハ議決ヲ爲スニ至ラ
 サリキ

二二 恩給法中改正法律案

恩給法中左ノ通改正ス

第百三條第一項中「屯田兵ノ現役」ノ下ニ「及之ニ準スヘキ屯田兵ノ服役」ヲ加フ

附 則

本法ハ大正十二年十月一日ヨリ本法ニ該當スヘキ者ニ之ヲ適用ス

右ハ十四年三月三日松實喜代太君外三名之ヲ提出ス三月二十三日本案ハ淺川浩君外六名提出恩給
 法中改正法律案(二六)ト一括シテ其ノ第一讀會ヲ開キ提出者(松實喜代太君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯
 明セリ

此法律案ハ、北海道屯田兵ニ關スル恩給ノ件デアリマスガ、最早時日切迫ノ折柄デアリマス
 カラ、詳シイ事ハ省略致シマス、併ナガラ此說明ヲ保留スルノ意味ニ於テ、茲ニ私ガ説明セシ
 トシテ作ッタ所ノ原稿ガアリマスカラ、之ヲ御許シテ速記ニ御登載ヲ願ヒマス、是デ終リマ
 ス

次テ本案ハ(二六)案ト一括シテ東武君外十一名提出北海道農地特別處理法案(二三)外一件委員ニ

併セ付託スルニ決ス委員會ハ審査ニ著手シタルモ報告ヲ爲スニ至ラザリキ
〔参照〕

屯田兵役服務證明書

小官ハ明治二十三年屯田歩兵第四大隊長トシテ赴任明治二十八年臨時第七師團制定ニ際シ輜重
縦列長ニ轉任

屯田兵ハ家族制度ニシテ其任務ハ單ニ兵員ノミナラス家族モ亦服務ノ義務ヲ有シ其編制屢ニ變
更セラレ豫備役滿期ニ至ルマテ現役大隊ニ編入中隊長以下現役將校ヲ配屬シ特殊ノ取扱ヲ爲シ
タルハ要スルニ軍事教育ノ訓練及指揮監督ノ必要然ラシメタルナリ

豫備役ハ一日六時間已内ノ演習ハ手當ヲ支給セスシテ現役ト共ニ時々演習ノ義務ニ服シ之レヲ
義務演習ト名稱セリ

故ニ屯田兵ノ豫備役ハ一般師團兵ノ豫備役トハ事實ニ於テ大ナル相違ナリ獨リ服役ノ相違ノミ
ナラス身上ノ拘束モ更ニ嚴重ナル規定ニ據リ拘束セラレタルモノナルヲ以テ名ハ豫備役ナルモ
其服役義務ノ情況ハ現役同様ト認ムルヲ適當トス

右證明ス

大正十二年十一月

明治二十三年ヨリ屯田歩兵第四大隊長タリシ

陸軍歩兵中佐 栃 内 元 吉印

大正十二年十一月

法律顧問

證明書

小官ハ明治二十年室蘭屯田兵獨立中隊附トシテ赴任シ永山屯田歩兵第三大隊副官ヨリ第七師團
副官ニ轉シ屯田兵制廢止ニ至ルマテ其事務ヲ專任セリ
屯田兵ノ豫備役ナルモノハ必任義務役ノ豫備役トハ全然其赴ヲ異ニシ豫備役滿期ニ至ルマテ現
役隊ト共ニ軍隊編制下ニアリテ大隊長中隊長小隊長等ノ現役將校ヲ配屬シ指揮監督ヲ受ケ平常
各自ニ武器被服及裝具ヲ貸與シアリテ軍事訓練ハ勿論衛兵當番等ノ諸勤務ニモ服役セシメタル
モノナリ
殊ニ明治二十六七年日清戰役前ノ豫備役中當時ハ東洋ノ風雲急ナリシヲ以テ軍事訓練ニ一層重
キヲ置カレ規定ノ軍事教育ノ外ニ屢々義務演習ヲ(一日六時間以内ノ訓練ニハ手當ヲ支給セス)
實施シアリ尚ホ身分ノ取扱モ規定ニヨリ常ニ拘束セラレタルモノナルヲ以テ其服役義務ノ實ニ
於テハ名ハ豫備役ナルモ殆ント現役ト同様ト認ム

大正十二年十一月

元第七師團副官

陸軍歩兵中佐 大塚嘉輝

證明書

小官ハ明治二十年屯田歩兵第三大隊長トシテ赴任シタリ
 屯田兵豫備役中ノ服務ハ現役ト同様中隊ヲ編成シ中隊長小隊長等ノ現役將校ヲ配屬シ曹長給養係兵器係ヲ置キ各自ニハ武器被服其他ノ携行品ヲ給與シテ軍事訓練ヲナシ其他衛兵當番等ノ諸勤務ニ服務セシメタリ
 屯田兵豫備役中ノ軍事教育ハ當時東洋ノ風雲穩カナラズ訓練ノ一日モ忽諸ニ附スヘカラス規定以外ニ義務演習ト稱ヘ召集手當ヲ支給セス一日六時間以内ノ軍事教育ヲ實施セリ故ニ現役ト同様ニ何等異ラス一面寧ロ以上ノ苦痛ヲ與ヘタルハ事實ナリ
 而シテ屯田兵豫備役中ノ服役ハ一般常備師團兵ノ豫備役服務トハ全然其赴ヲ異ニセルモノナリ右證明ス

大正十二年十二月

明治二十年ヨリ元屯田歩兵第三大隊長タリシ

陸軍歩兵大佐 野崎貞次

證明書

屯田兵ノ豫備役ナルモノハ必任義務兵ノ豫備役トハ全然其赴ヲ異ニシ豫備役中ト雖現役中ト同様軍隊編制下ニアリテ大隊長中隊長小隊長等現役將校ノ指揮監督ヲ受ケ各兵器及附屬品等ヲ給與セラレ軍事訓練ハ勿論衛兵當番等ノ諸勤務ニモ服役セシモノナリ日清戰役數年前ヨリ東洋ノ風雲急ナリシヲ以テ内地師團ヨリ優秀ノ將校ヲ轉屬セシメラレ一層軍事教育ニ重キヲ置カレ特ニ訓令ヲ發シテ日時ヲ増加シ訓練セシモノナリ
 以上ハ小官ガ屯田歩兵第三大隊長タリシ當時ノ事實ナル事ヲ證明ス

大正十二年十二月

元屯田歩兵第三大隊長タリシ

陸軍少將 渡邊水哉

認定書

屯田兵ナルモノハ豫備役中ト雖モ現役中ト同様軍隊編制下ニアリ軍事教育ヲ受ケ特ニ日清戰役

前後ニ於テハ一層訓練ニ重キヲ置キタルコト各證明者ノ言ノ眞正確實ナルコトヲ認定ス
大正十二年十二月

前屯田兵團參謀長後東部都督部參謀長

陸軍大將 男爵淺田 信 興

二三 北海道農地特別處理法案

第一條 北海道地方費ハ北海道拓殖ノ爲自作農業者ヲ扶植シ土地ノ利用ヲ増進スル目的ヲ以テ
私人所有スル土地ヲ買收シ三十年内ノ年賦支拂方法ニ依リ之カ賣拂ヲ爲スコトヲ得

第二條 本法ニ依リ買收スル土地ノ代金ニ充ツル爲北海道地方費ハ總額一億萬圓ヲ限り公債ヲ
發行スルコトヲ得

前項公債ノ利率ハ年六分以内トス

第三條 本法ニ依リ處理スヘキ土地ノ選定買收價格土地ノ整理改良又ハ賣拂等ハ農地特別處理
委員會ニ付議シテ之ヲ決定ス

農地特別處理委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 本法ニ依リ賣拂ヲ爲ス土地ノ面積ハ一戸十五町歩以内トス

第五條 本法ニ依ル土地ノ買受人ノ資格ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 土地ノ買受人カ土地代金ノ一割以上ノ金額ヲ支拂ヒタルトキハ其ノ所有權ヲ取得ス但
シ殘額支拂ノ擔保トシテ該土地ニ抵當權ヲ設定スヘシ

第七條 土地ノ買受人カ買受條件ニ違反シタルトキ又ハ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ直ニ土地
ヲ返還セシメ又ハ土地代金ノ殘額ヲ一時ニ支拂ハシムルコトヲ得

第八條 土地買受人ハ買受代金ノ金額ヲ支拂ヒタル後ニ非サレハ其ノ土地ヲ他人ニ貸付又ハ讓
渡スルコトヲ得ス但シ行政廳ノ承認ヲ得タル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第九條 本法ニ依ル土地ノ買收及賣拂ニ付テハ印紙稅及登錄稅ヲ免除ス

第十條 政府ハ本法ニ依リ買收スル土地代金ノ百分ノ五ニ相當スル金額ヲ毎年度豫算ノ定ムル
所ニ依リ北海道地方費ニ補給スルコトヲ得

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

右ハ十四年三月三日東武君外十一名之ヲ提出ス三月十日日本案ノ第一讀會ヲ開キ提出者(東武君)ハ
左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

第二章 議事

第四節 議案

第二款 議案ノ討議

第四項 法律案

只今上程ニナリマシタ北海道農地特別處理法案ニ付キマシテ、提案ノ理由ヲ極メテ簡單ニ説明スル考デアリマス、併シ此問題ハ議員提出ノ法律案ト致シマシテ、可ナリ重要ナ問題ト考ヘテ居ルノデアリマスガ、極ク簡單ニ申上ゲル積リデアリマスガ、十分間位ノ時間ハドウシテモ御願申サナケレバ其趣旨ヲ述ベルコトガ出來ナイノデアリマス、此案ハ北海道農地處理法案ト云フ極メテ妙ナ名前ニナッテ居リマスルガ、一言ニシテ申シマスレバ、北海道ニ自作農制ノ法案ヲ施行致シタイ、斯ウ云フ趣旨ニ外ナラヌノデアリマス、而シテ此法案ハ四十五議會以來我黨ノ議員ヨリシテ三回許リ議院ニ提出致シマシテ、本院ハ可決ヲ致シテ居ル、唯名前ガ地代農地法ト稱シタコトモアリマスルシ、或ハ自作農制ト稱シタコトモアルノデアリマスガ、今回提出シタル此特別處理法ト云フノト異肢同體デアアルノデアリマシテ、内容ハ同ジクナッテ居ルノデアリマス、自作農ノ維持創定ニ付キマシテハ我國ニ自作農ヲ創定シヤウト云フコトハ、殆ド農界ヲ通ジテノ識者間ニ於ケル確定的ノ議論デアルガ、今日マデ未ダ曾テ我國ノ自作農ノ創定案ヲ實行スル機運ニマダ到達シナイト云フコトハ、我が農業界ノ爲メ、農業社會ノ爲ニ甚ダ遺憾ヲ禁ズル能ハザルモノガアルノデアリマス、我國ノ自作農ノ維持創定ニ付キマシテハ、屢學者或ハ論客ニ依テ議論ヲサレテ居ルノデアリマスガ、我國ノ自作農ハ近年遞減ヲ致シテ居ルコトハ諸君御承知ノ通りデアリマス、大正元年ヨリ大正九年マデノ間ニ、我國ノ自作農ノ減少シタコトハ約九萬戸ニ達シテ居ル、年々一萬戸以上ノ自作農ト云フモノガ減少シ、其影ヲ失ヒツ、アルト云フ事實デアアルノデアリマス、是等ノ事實ハ之ヲ我國ノ社會的現象トシテ如何ニ見ルカト云ヒマスレバ、是ハ吾々ハ國家ノ大患デアアルト實ハ考ヘテ居ルノデアリマス、丁度大正元年ニハ「バーセンテーヂ」カラ申シマスレバ二・四四デアリマシタモノガ、大正九年ニハ三十一「バーセン」ト「エハ」マデニ遞減致シテ居ルノデアリマス、戸數ハ即チ百七十萬戸ノモノガ、大正九年ニハ百六十八萬戸トナッテ居ルト云フヤウナ減少率ヲ示シテ居ルノデアリマス、若シ私共ガ率直ニ申シマスレバ——國家ノ大體ノ國策カラ申シマスレバ、此我國ノ自作農制ト云フ、吾々ガ今提案シタ法案ヲ日本全國ニ行ヒタイト云フ考ヲ持ッテ居ル、ケレドモ、此事ハ非常ナ勇斷ヲ以テ、雄

大ナル政策ヲ行フニ非ズンバ、是ハ容易ニ行フコトハ出來ナイ、農商務省ノ當局者ノ調査ニ依リマスレバ、四十五億圓ノ金ヲ以テ、百六十五年間ニ日本ノ全部ノ小作農ヲ無クスルト云フ調査ガ出來テ居ルコトヲ吾々ハ承ッテ居ルノデアアル、是ハ諸君モ御存ジノ如ク、斯様ナ自作農制ト云フ案ガ出來テモ、百年河清ト云ヒマスケレドモ、百年河清以上ノ永遠ヲ期サナケレバ此ノ理想ハ實現スルコトハ出來ナイノデアリマス、ソコデ吾々ガ色々考ヘタ結果ニ依リマシテ、兎ニ角日本ニ於テ自作農ノ此創定ト云フコトハ、朝野ノ國論ニナッテ居リマスガ、先ヅ此驅ト致シマシテ、之ヲ最モ行ヒ易イ所ノ北海道ニ之ヲ行ヒタイ、斯様ナ案ガ即チ今回吾々ガ提案シタル所ノ此特別處理法案ノ内容デアアルノデアリマス、何故ニ北海道ニ此事ヲ行ヘバ實現シ易イカト申シマスルト、此自作農制ニ反對スル所ノ論者ハ、内地府縣デ之ヲヤラウト致シマシテモ地價ガ高イ、田畑ノ地價ガ高イカラシテ、ドウシテモ是ハ内地府縣ニ行ナッテモ、小作人ガ年賦償還ノ方法ニ依テ之ヲ完全ニ所有權ヲ移轉スルト云フコトニ付テハ、多大ノ負擔ガ重クナルカラシテ出來ナイ、斯ウ云フノデアリマス、即チ勸業銀行ナドノ調査ニ依リマスルト、内地ノ田ノ一段歩ノ價ガ六百二十圓畑ガ一段歩ノ價ガ三百六十圓ト云フコトガ、是ガ普通ノ地價ニナッテ居ル、之ヲ國家ガ買上ラシテ分割ヲシテモ、小作人ハ到底此小作料以上ノ負擔ヲシナケレバ出來ナイト云フノデ、是ハ到底不能デアアル、斯様ナ議論ニ依テ自作農制ト云フモノニ反對サレテ居ル、齟ッテ北海道ハ如何カト考ヘテ見マスルト、北海道ノ田畑ハ勸業銀行ノ調査ニ依リマスルト百二十圓、サウシテ畑ハ三十圓デアアル、又北海道ニハ非常ニ大地主ガ多イノデアリマシテ、日本ノ五十町歩以上ノ大地積ノ所有者ガ總計三千二百二十軒アルノデアリマスガ、其内ニ北海道ハ約三分ノ一、即チ一千六十軒ト云フモノハ北海道ガ此大地積ヲ持ッテ居ル所ノ大地主ガ占有シテ居ルト云フ、斯様ナ事實ニナッテ居ルノデアリマス、故ニ北海道ニ自作農制ヲ布クト云フコトハ、サマデノ苦痛ガナクシテ、非常ナ自作農ニナル、小作者ノ負擔ガ増加セズシテ、自ラ之ヲ自作農ニスルコトガ出來ル見込ガ立ッノデアアル、是ニ於テ北海道ハ百二十萬町歩許リノ小作面積ガアリマスガ、此内ニデス、今農家ガ幾ラアルカト申シマスルト十七萬戸アル、十七萬七千三百五十戸ト云フモノニ

ナツテ居リマスガ、是ガ小作人ト地主、大地積ヲ持ッテ居ル地主ト小作人トドウ云フ比例ニナツテ居ルカト申シマスルト、自作者ノ百分率ノ三十七ト云フモノハ自作者デアツテ、アトハ自作兼小作、純小作ガ六十二「パーセント」即チ約七割ノ小作人ガ北海道ノ地面ヲ耕作シテ居ルト云フコトノ現狀ニナツテ居ルノデアリマス、北海道ニ移住ヲ奨勵シテ——國家ハ色々ノ保護特典ヲ與ヘテ北海道ニ移住ヲ奨勵シテ、其行ツタ者ハ自分ノ墳墓ノ地ヲ捨テ、北海道ニ移ッテ悉ク是ガ小作人ニナルト云フコトハ、如何ニシテモ社會狀態トシテ甚ダ感服シナイ、此制度ノ誤ッテ居ルコトハ既往ノ大地主ヲ保護シ、或ハ家族保護ニ依テ土地ノ占領ヲサシタト云フコトヲ、其制度ノ宜シカラザルト云フコトハ、今日カラ是ハ非難ヲスレバ相當ノ議論ガアリマスケレドモ、非難ヲシテ見テモ是ハ到底何ノ役ニモ立タナイ狀況デアアルデアリマシテ、是ハ小作者ガ七割以上ヲ占メテ、此土地ノ非常ニ多イ所ニ於テ、七割以上ノ小作人デ、サウシテ土地ニ安定ヲシ、土著シテ生産能力ヲ増加スルト云フコトハ、到底是ハ不能ナ事實デアアル、故ニ吾々ハ北海道ノ此廣キ面積ニ於テ、墳墓ノ地ヲ遠ク移住シタ所ノ農家ノ全體ガ、約七割ハ小作人デアルト云フヤウナコトハ、眞ニ北方開發、北海道開發ノ眞ノ事情トシテハ、甚ダ不満足ノ點ヲ免レヌモノト考ヘテ居ルノデアアル、此自作農制ヲ北海道ニ行フト云フコトハ、一見非常ナ理想或ハ空想ノ如ク見エマスケレドモ、決シテ吾々ハ左様ニハ考ヘテ居ラナイ、此事ニ付キマシテハ人間ハ——此故國ニ生レタ人間ハ何人ニテモ土地ヲ所有スル所ノ權利ヲ持ツト云フコトハ、是ハ丁抹ノ偉人ガ既ニ此事ハ唱ヘテ居テ、此丁抹デハ獨立農ノ奨勵ト云フコトニ依リマシテ、今日ノ世界的ノ獨立農業模範國ヲ作り出シテ居ルノデアリマス、又英國ノ農政學者「アーサーヤング」ハ即チ所有權ハ如何ナル砂礫モ黃金ニ爲セルト云フコトハ、是ハ千古ノ金言デアアル、小作人ニ於テ土地ヲ改良シ、或ハ開發シテ眞ニ生産ノ能率ヲ上ゲルト云フコトハ、是ハ求メルコトハ出來ナイ、デアルカラシテ此點ニ於テ此所有權ヲ與ヘ、所有慾ヲ満足セシメ、又所有慾ノ満足スルト同時ニ、其生産ハ必ズ倍加シテ參ッテ、此食糧政策ノ上ニ於テモ多大ノ貢獻ガアルト云フコトハ、是ハ疑ナイ事實デアアル、故ニ歐羅巴各國、亞米利加大洲、其他ニ於キマシテモ世界全國ヲ通ジテ、自作農制定ノ爲ニ國家ガ色々ノ

保護政策ヲ執ラヌ國ハ無イノデアアル、英國ニ於キマシテハ諸君御承知ノ通り、英國ニ小地主條例ト云フモノガアリマス、是等ニ付テ矢張大キナ土地ヲ分割シテ、或ハ牧場デアルトカ、狩獵地デアルトカ、或ハ貴族ノ所有地デアルト云フヤウナモノヲ開放シテ、サウシテ「スモールゼンダクタ」即チ此小作條例ニ依テ英國ガ此農業振興ヲ圖ツテ居ルト云フコトモ是モ事實デアアル、又獨逸ノ如キハ內國植民ト稱シテ、殆ド今ヨリ五六百年前カラシテ此制度ヲ行ツテ居ルノデアアル、南獨逸カラ北獨逸ヲ開發シテ、內國植民ト稱シテ之ヲ獨逸ガ多年ヤツテ成績ヲ舉ゲテ居ツタ、此農業立國ノ基礎ヲ作ツテ居ルト云フコトモ、是モ顯著ナル事實デアアル、又獨逸ノ是ハ私ハ能ク存ジマセヌガ、「レンテンギユーター」ト稱シテ、地代農地ト稱シテ古クカラ此法制ヲ行ツテ、土地ヲ分割又讓與致シテ、サウシテ自作農制度ヲ行ツテ居ル、又亞米利加ノ如キ此大キナ面積ヲ持ッテ、日本ノ十倍以上ノ大面積ヲ持ッテ居ル所ノ亞米利加ニ於テスラ——一個ノ單位ノ面積ハ、殆ド亞米利加ハ日本ト違ッテ、日本ハ一町一反歩デアアルガ、亞米利加ハ五十町以上ノ單位デアアル、斯ウ云フ大キナ面積ヲ持ッテ居ル亞米利加デスラ、是デモ矢張各州ニ於キマシテ自作農制定ノ上ニ於テ國家ガ保護政策ヲ執リ、之ニ就テ種々ナ法制ヲ以テ矢張今日行ヒツ、アル、又丁抹ノ事ハ是ハ申スニ及バズ、丁抹ハ國ヲ舉ゲテ、即チ國家ノ國策ト致シテ、サウシテ此自作農制定、所謂獨立ノ保護ニ付テハ徹底的ニヤツテ居ル、此丁抹ハ國ヲ舉ゲテ國格ノ力ノアラシテ限リヲ舉ゲテ大地主ノ分割ヲシ、サウシテ貴族或ハ其他ノ大面積ヲ分割致シテ、サウシテ建築家屋或ハ土地ノ買收費ニ、日本ノ邦貨ニ致シマスルト一萬圓以上ノモノヲ、一個ノ單位ニ貸付ヲ致シテ、之ヲ自作農ニ引直シテ居ルト云フ、之ニ依テ世界ニ丁抹ノ如ク農業ノ眞ニ發達シタル國ハ無イト云フコトニナツテ居ルコトハ諸君御承知ノ通りデアアル、又濠洲、新西蘭、是等ノ方面デ斯様ナ大キナ面積ヲ持ッテ、一方哩ニ僅ニ二十六七人シカナイヤウナ所ニ於テスラモ、此制度ヲ行ヒツ、アル、日本ハ今農業ガ行詰ッタト稱スルガ、農業ノ行詰ッタ眞ノ原因ハ何處ニ在ルカト言ヘバ、或ハ企業ノ上ニ於テ一ツノ企業ヲ個人ガ單位デヤツテモ、其利益ノ收支ガ合ハヌト云フノガ普通ノ狀態デアアル、況ヤ農業ハ收支ノ計算ガ合ハナイモノデアアル、其單位デヤツタ企業ニ對シテ、其利益ヲ地主ト小作デ兩分ヲ

スルト云フノデアアルカラシテ、到底農業ノ計算ガ合フ譯ガナイ、故ニ小作爭議ガ起ツテ來ル、利益ヲ一人デ取ツテモ尙ホ十分ニ收益ノ満足ヲスルコトガ出來ナイ者ガ地主ニ半分ナル、勞働スル者ガ地主ニ地代利益ヲ拂ツテ行クノデアアルカラ、到底日本ノ如キ此島國、帶ノヤウナ長イ火山國、土地ノ面積ノ少イ國デ立行ク譯ハナイ、故ニ永遠ノ策トシテ種々ナル方法ヲ講ジナケレバナラヌガ、差當リ此國策トシテ自作農制定ノ案ヲ作ルコトハ、國家ノ國本トシテ是ハ諸君ト共ニ大ニ研究スル價ガアルモノデアルト吾々考ヘテ居ルノデアアル、故ニ吾々ハ、先ツ取敢ヘズ北海道ニ此自作農制定ノ方針ヲ立テ、サウシテ著々日本ノ本州ニ於テモ之ヲ實現ヲ致シタイ、世界各國ノ農業趨勢ヲ見マシテモ、斯様ナル日本ノ如ク五年モ十年モ議論ヲシテ議論倒レニナツテ居ル國ハ何處ニモ無イ、各國皆行ツテ居ルノデアアルカラ、我國ニ於キマシテモ是等ノ點ニ付テハ政府當局者モ少シク達眼達識ニ依テ國策ヲ考ヘル必要ガアルト吾々ハ考ヘテ居ル、又其意味ニ於キマシテ我國ニ其自作農ノ制定ヲシテ、幾分デモ農業經濟ノ上ニ農業社會政策ノ上ニ、農業文化ノ上ニ、勞働問題、人口問題、食糧問題ト云フモノハ、是ヨリ出發シテ是等ノ解決ヲ見ナケレバナラヌコト、考ヘテ居ルノデアアル、故ニ吾々ハ、此法案ヲ提出シタノデアアリマスガ、此北海道ノ農地、所謂自作農地制定ニ對シテハ、之ヲ國家ニ要求シテモ——國家ガ之ヲ五千萬圓乃至一億萬圓ノ金ヲ國家ニ出セト言ツテモ出シヤウガナイ、故ニ主體ハ國家ニ要求セズシテ、北海道ガ主體トナツテ是ハヤル案デアアル、北海道ガ主體トナツテドウ云フコトヲスルカト云ヘバ、是ハ金ハ要シナイ唯北海道ガ道債ヲ起セバ——北海道ノ法人ニ依テ道債ヲ起ス、道ガ公債ヲ發行シテ、サウシテ地主ノ不良土地、所謂未開ノ土地ヲ詰リ任意ニ買收ヲ致シテ、サウシテ買收ニ應ジタ者ニ對シテハ、詰リ此北海道債ヲ交付スルノデアアルカラシテ、金ハ要ラナイ、何ニモ金ハ要ラナイ、此案ハ一億萬圓デ約三十萬町歩許リヲ開放スルト云フ案ニナツテ居ルノデアアリマスガ、之ハ一億萬圓デアアツテモ、一億萬圓ヲ一年ヤ二年デアアルコトガ出來ナイ、二十箇年ニ互ツテ之ヲヤルト云フノデアアルカラシテ、年々五百萬圓カ乃至三百萬圓宛ノ公債ヲ北海道ガ發行致シ、其發行シタ其公債ヲ地主ニ渡シテヤツテ、サウシテ地主ハ其公債ヲ受取ト同時ニ利子ヲ受取ル、小作人ハドウデアアルカト云

ヘバ、又一割ノ益金ヲ出セバ速ニ抵當權ヲ設定スル所ノ權能ヲ與ヘテ、サウシテ地主ハ小作人ニ所有權ヲ渡シテシマウ、サウスルト紙ノ上ノ取引ガ行ハレル、紙ノ上ノ取引デアアツテ現金ヲ要シナイ、唯北海道ガ公債ヲ募集スルコトサヘ出來レバ、此仕事ハ出來テ行クノデアアル、唯茲ニ吾々ガ此法案ヲ提出シタニ付テ、國家ニ要求スル點ガ一ツアル、是ダケノ事業ハ國家事業デアアル、國家ガ當面ヤルベキモノヲ北海道ノ法人ガヤルノデアアルカラシテ、之ニ對スル公債ノ金額ニ付テ五分ノ補給ヲシテ吳レ、斯ウ云フ案ニナツテ居ル、五歩ノ補給ヲスレバドレダケノ金ガ要ルカト申シマス、是モ五歩ノ補給デハ大シタ金ハ要セナイ、唯初年ニハ十萬圓、ソレカラ十五萬圓、二十萬圓ト云フダケノモノデアアツテ、此發行價格ニ對シテモ五歩ノ國家ガ補給ヲ——補助ヲスルト云フコトガ、詰リ國家ニ御厄介ニナルト云フ法案ニナツテ居リマスガ、詳シイ事ハ尙ホ委員會ニ於テ提案者ヨリ説明ヲスル筈デアリマス、私ハ大體ニ於テ此提案ノ理由ヲ説明スル譯デアリマスガ、滿場ノ諸君ニ於カセラレマシテモ、是ハ私ハ可ナリ重大ナ問題デ、我が帝國ノ國策ノ上ニ重大ナル問題ト考ヘテ居ルノデアアル、全ク是ハ地主ノ保護デモナイ、小作者ヲ救護シ、社會ヲ安定スルト云フ案デアアルト思ツテ提案シテ居ルノデアアリマス、昨年即チ、十三年度ノ貿易ハ、六億四千萬圓ノ輸入超過ヲシテ居ル、六億四千萬圓ノ輸入超過ノ中デモ、何ガ金額ガ多イカト云ヘバ、食糧ノ缺乏デアアル、私ノ調査シタ所ニ依ルト、此食糧ノ爲ニ海外ヨリ輸入シタル所ノモノハ小麥ガ七千萬圓、米及粳ガ七千八百萬圓、豆類ガ六千萬圓、鶏卵ガ千五百十二萬圓、砂糖ガ六千三百萬圓、油粕ガ一億二千萬圓、罐詰、乳製品其他ノ食糧品ガ約一千萬圓、之ヲ合スルト三億四千萬圓ト云フモノヲ、我が帝國ハ海外ニ食糧品ヲ仰イデ居ルノデアアル、如何ニ輸出組合ヲ設ケテモ、貿易振興ノ策ヲ樹テヤウトシテモ、口舌ノ下ニ於テハ此輸出入ノ逆調ヲ防グコトハ出來ナイ、國際ノ關係ヲ滑ニシテ、サウシテ我國ガ輸出超過ニナラナクトモ、此國際貿易ノ平調ヲ保ツト云フコトニ付テハ、何ガ一番急務デアアルカト云ヘバ、取リモ直サズ食糧ノ充實ト云フコトガ一番急務デアアルコトハ申スマデモナイ、是ハ議論ヲシテ徒ニ空論ヲシテモ國家ヲ救ウコトハ出來ナイ、眞ニ國家ヲ憂フル者ハ、貿易ノ狀況ヲ見レバ明デアアル、我國ハ海外ヨリ三億圓以上ノ食糧品ヲ輸入シテ居

ル、如何ニ百萬通議論ヲ闘ハシテモ、何等國家ニ貢獻スルコトハ出來ナイ、故ニ吾々眞ニ國家ヲ憂フル者ハ、此貿易ノ平調ヲ滑ニシテ輸出入ノ平均ヲ取ツテ、之ヲヤルニハ一段歩デモ一町歩デモ耕作ヲ獎勵シテ、サウシテソレニ依テ農産物ヲ多ク生産スル方法ヲ講ズレバ、ソレダケ一鐵ヲモ國家ノ爲ニ貢獻スルノデアル、ソレデナケレバ此状態ヲ見テ御互ニ肌ヲ寒カラシメザルコトハドウシテモ出來ナイノデアル、故ニ吾々ガ農業振興ヲ叫ビ、成ハ農地整理ノコトヲ叫ブト云フコトハ決シテ空論デハナイ、國家ハ之ニ依テ救済スルヨリ外ニ途ガ無イト信ジテ疑ハヌノデアリマス、然ルニ當局者等ハ其日ノ政務ニ忙シイカ、利那主義、其日主義——ホンノ其日主義ニ送ツテ、サウシテ國家ノ永遠ノ大策ト云フコトニ付テハ餘リニ多クノ考慮ヲ費シテ居ラナイコトヲ、吾々ハ平素遺憾ニ思ツテ居リマスカラ、諸君ト共ニ此議會ニ於テ四百六十人ノ代議士諸君ト共ニ、或ハ普選問題モ必要デアアル、又婦人參政權モ必要デアリマスケレドモ、國家ノ當面ノ急務ト致シマシテハ、是等ノ事ニ付テ少シシ眼光ヲ輝カシテ、眼孔ヲ此點ニ注入シテ、サウシテ國家永遠ノ經綸、大策ヲ樹立スルト云フコトハ、是非非常ニ必要ナ事ト考ヘテ居ル次第デアリマス、一言以テ私ハ提案ノ理由ヲ述ベル次第デアリマス

次テ本案ハ議長指名(九名)ノ委員ニ付託スルニ決シ即日議長之ヲ指名ス委員ハ翌十一日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末原案ヲ修正スヘキモノト決シ三月二十三日報告書ヲ議長ニ提出セリ

(委員會報告書)

(小字及——ハ委員會修正)

北海道農地特別處理法

第一條 北海道地方費ハ北海道拓殖ノ爲自作農業者ヲ扶植シ土地ノ利用ヲ増進スル目的ヲ以テ

私人ノ所有スル土地ヲ買收シ三十年以内ノ年賦支拂方法ニ依リ之カ賣拂ヲ爲スコトヲ得

第二條 本法ニ依リ買收スル土地ノ代金ニ充ツル爲北海道地方費ハ總額一億萬圓ヲ限リ公債ヲ

發行スルコトヲ得

前項公債ノ利率ハ年六分以内トス

第三條 本法ニ依リ處理スヘキ土地ノ選定買收價格土地ノ整理改良又ハ賣拂等ハ農地特別處理委員會ニ付議シテ之ヲ決定ス

農地特別處理委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ定ム

第四條 本法ニ依リ賣拂ヲ爲ス土地ノ面積ハ一戸十五町歩以内トス

第五條 本法ニ依ル土地ノ買受人ノ資格ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 土地ノ買受人カ土地代金ノ一割以上ノ金額ヲ支拂ヒタルトキハ其ノ所有權ヲ取得ス但シ殘額支拂ノ擔保トシテ該土地ニ抵當權ヲ設定スヘシ

第七條 土地ノ買受人カ買受條件ニ違反シタルトキ又ハ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ直ニ土地ヲ返還セシメ又ハ土地代金ノ殘額ヲ一時ニ支拂ハシムルコトヲ得

第八條 土地買受人ハ買受代金ノ金額ヲ支拂ヒタル後ニ非サレハ其ノ土地ヲ他人ニ貸付又ハ讓渡スルコトヲ得ス但シ行政廳ノ承認ヲ得タル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第九條 本法ニ依ル土地ノ買收及賣拂ニ付テハ印紙税及登録税ヲ免除ス

第十條 政府ハ本法ニ依リ買收スル土地代金ノ百分ノ五^{以內}ニ相當スル金額ヲ毎年度豫算ノ定ムル所ニ依リ北海道地方費ニ補給スルコトヲ得

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

三月二十四日本案ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長齋藤珪次君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

本案ハ北海道農地特別處理法ト題シマシテ、窮窟ナル名義デゴザイマスルガ、御承知ノ通り此内容ハ自作農ノ制定デアリマシテ、而モ其自作農ハ今日社會政策ノ一斑ト致シテ、内地ニモ本州ニモ之ヲ爲サントスル議論ハ多々アルノデアリマスルガ、ソレヲ率先シテ北海道ガ實施セントスルノデアリマス、故ニ其方法モ今迄唱ヘラレテ居ルガ如ク、國費ヲ以テ之ヲヤルト云フニ非ズシテ、北海道ノ地方費ヲ以テ公債ヲ募集シ、而シテ其ノ公債ニ依テ土地ヲ買ッテ之ヲ自作農ニ與ヘ、其利子ハ國費ヲ以テ補給シテ貰フ、併ナガラ其利子ト雖モ總テニ非ズシテ、小作人ヨリシテ出ル所ノ其費用ノ利子ト、ソレカラ公債ノ利子トノ差額ヲ國費ヨリシテ補給シテ貰ヒタイ、而シテ又此法ヲ實施スルニ當ッテ、之ヲ實施スベキ委員會等ヲ組織シテ、而シテ勅令ニ依テ總テノ規定ヲ定メル、是等ノ事務費ト云フモノモ國費ヨリシテ補給シテ貰イタイト云フノガ本案ノ主旨デア
ルノデアリマス、而シテ其公債額ハ、最初此原案ニ於テ一億萬圓ト提示サレタノデアリマシタガ、政府ニ於キマシテモ目下財政計畫ニ對シテ斯ノ如キ巨額ノ公債ニ應ズルコトガ——之ヲ承諾スルコトハ困難デアルト云フコトデアリマシテ、是等ノ爲ニ本案ヲ議スルニ當リマシテハ、幾

多ノ折衝交渉ヲ必要ト致シマシテ、今日マデ祕密會若クハ懇談會ヲ開クコト數回デゴザイマシタ爲ニ、日子ヲ費シタル割合ニハ速記録ガ甚ダ少ウゴザイマス爲ニ、速記録ニ依テ此狀況ヲ御覽ヲ願フト云フ事柄ガ頗ル困難デアリマス、サリナガラ此本題ニ付キマシテハ、之ニ對シテ反對ノ方モゴザイマス、又贊成ノ方モアリ、討論ノ次第モゴザイマスカラ、是等ノ御方ニ依テ詳細ハ盡スデアラウト考ヘマスカラ、私ハ大體ヲ御報告申上ゲマスルガ、右様ナ次第デアリマシテ、一億圓ト云フコトニ付キマシテハ、政府ハ何分ノ同意ヲ表サナイノデアリマス、爲ニ幾多交渉ノ結果、本案ハ修正ヲ致スコトニナリマシタ、第一條ニ於キマシテ修正ヲ致シテ居リマス、ソレハ「自作農者ヲ扶植シ土地ノ利用ヲ増進スル目的ヲ以テ」云フ所ニ於テ、「シ土地ノ利用ヲ増進」ト云フ此九字ヲ削リマシテ、而シテ「自作農者ヲ扶植スル目的ヲ以テ土地ヲ買收シ三十年以內ノ年賦支拂方法ニ依リ之カ賣拂ヲ爲スコトヲ得」斯ウ修正ニナリマシタ、ソレカラ第二條ハ前刻申上ゲマシタ北海道地方費ノ總額一億圓ヲ限ッテ公債ヲ發行スルトアリマシタノヲ「二千萬圓ヲ限リ」トシ一億圓ガ二千萬圓トナリマシタ、ソレカラ第十條ニ至リマシテ「政府ハ本法ニ依リ買收スル土地代金ノ百分ノ五ニ相當スル金額ヲ毎年度豫算ノ定ムル所ニ依リ北海道地方費ニ補給スルコトヲ得」トアリマシタ原案ヲ「百分ノ五以內」ニト云フコトニ改メマシタ、即チ是ガ全體ニ付テ修正デアリマシテ、之ニ就キマシテハ、第一條ノ修正ハ「自作農業者ヲ扶植スル目的トス」ト致シマシレバ「土地ノ利用ヲ増進スル」ト云フノハ、説明ニナリマスガ故ニ、字句上モ扶植スルト云フコトデ、之ヲ區切りマスガ穩當デアラウト云フ趣意カラ、此「土地ノ利用ヲ増進スル」ト云フ説明ノ文字ヲ削ッタノデアリマス、ソレカラ其下ノ「私人ノ所有スル」ト云フ七字モ削リマシタ、之ヲ削ッテ「目的ヲ以テ土地ヲ買收シ」ト云フコトニナリマシタ、此「私人ノ所有スル」ト云フ文字ヲ削ッタ理由ハ、北海道ニ於テハ是等ノ目的ニ對シマシテハ、獨リ私人ノ所有地ノミナラズ、國有地モ、御料地モ、公共團體ノ共有地モゴザイマス、是等ノモノヲ買フトカ買ハヌトカト云フコトヲ限ルノハ面白クナイト云フ爲ニ、私人ト云フコトモ廢スルト同時ニ、國有地若クハ御料地、若クハ公共團體ノ所有地モ、時ニ依テ買收シ得ラレル、斯様ニ廣イ範圍ニ於テ之ヲ改メマシ

タノデゴザイマス、ソレカラ第二條ニ於キマシテノ二千萬圓ハ説明ヲ申サハルモ、前刻申上ゲマシタ政府ノ財政計畫上、斯ノ如キ多額ノ公債募集ヲ許可スルコトハ困難デアルト云フノデアリマス、二千萬圓デアッテ議會ガ協賛ヲ爲スナラバ、其時ハ又政府ハ十分ノ考慮ヲ爲スト云フコトニ政府モ答ヘテ居ルノデアリマス、ソレカラ第十條ノ百分ノ五「ニ相當スル」ヲ「以內」ト致シマシタノハ斯ノ如ク致シマスレバ、政府ノ補給スル金額モ幾分少額ニナルノデアラウト云フ點カラ、之ヲ修正致シタノデアリマス、右ガ即チ修正デアリマシテ、本修正ニ對シマシテハ、特別委員ノ一人ヲ除クノ外ハ全部賛成ヲ致サレマシテ、是ガ成立ヲ致シタノデアリマス、而シテ一人ノ委員ノ方ハ本案ヲ否決スルノ議論デアリマシタ、其議論ハ大體ニ於テ、本案ノ法文ガ不備デアアル爲ニ、之ヲ實施スルナラバ弊害百出ノ虞アリトノ理由ノ下ニ反對ヲ致サレタノデアリマシタガ、是ハ一人ダケデゴザイマス、而シテ是等ノ内容ハ討論ニナリマスカラ、此以上私ハ申シマセヌ、要スルニ斯ノ如ク決定ヲ致シマシタ大體ハ、本案ノ要旨ニハ觸レナイノデアリマス、假令一億圓ガ二千萬圓トナリマシテモ、二千萬圓デ事足ルト云フノデアリナイ、兎ニ角ハ初メテノ試ミデアアルガ故ニ、先ヅ二千萬圓ノ額ヲ以テ茲ニ公債ヲ發行シテ、之ヲ最初ノ計畫二十年ノ中ノ十年ナリ、五年ナリ、或ハ其以下ノ年ナリ、適當ナル範圍ニ於テ之ヲ發行シ、土地ヲ買受ケ又ハ之ヲ自作農ニ賣渡スト云フコトニ致スノデアリマス、故ニ此試ニシテ果シテ效果宜シキヲ得レバ、益公債發行ノ許可ヲ得、サウシテ多々益辨ズルノ方針ヲ執ルト云フノガ趣旨デアリマス、二千萬圓ヲ以テテハ、幾多疑問モゴザイマシタ、之ニ就テハ果シテ此實行ヲ完全ニ爲シ得ルヤ否ヤト云フコトハ、幾多議論ノアルコトデアリマス、即チ祕密會ニ於テモ、懇談會ニ於テモ出タ議論デアリマシガ、要スルニ是等ノ事ヲ處理スル爲ニハ、農地特別處理委員會ト云フモノヲ設クルノデアリマシテ、而シテ其委員會ノ規程ハ勅令ヲ以テ定メルノデアリマスカラ、ソレニ於テ、十分嚴格ニシテ周到ナル規程ヲ設ケタナラバ、必ズ其弊ハ防ギ得ラレルト内務ノ政府委員等モ言明シタノデアリマス、之ニ依テ、ソレ等ノ疑惑モ諒解セラレタノデアリマス、爲ニ本修正案ハ一人ノ外殘ラズ

ノ贊成ヲ以テ成立シタ次第デゴザイマス、此以上ノ事ハ各討論者諸君ヨリ御辯明ヲ申上ゲルデアラウト存ジマスカラ、私ハ是ダケニ止メマス、何分諸君ノ御協賛ヲ願フ次第デアリマス

右ニ付岡田溫君、丸山浪彌君ハ政府ニ對シ質疑ヲ爲シ土岐政府委員及三土政府委員之ニ應答ス

岡田溫君ノ質疑

本案ハ北海道ノ拓殖ニ關スル法案デアリマスルガ、其内容ヲ窺ヒマスルト、北海道ノ拓殖上ニモ、又内地ノ農業策上ニモ、至大ノ關係ノアル問題デアリマシテ、私共根本ニ付テニ三ノ疑義ガアルノデアリマスカラ、ソレヲ御伺シタイノデアリマス、先ヅ内務當局ニ御伺致シマスガ、第一ノ質問ハ、北海道ノ拓殖移民ノ方針ハ、開拓使以來自作農扶植主義デアッタノデアリマシテ、小作經營主義デハナカッタ筈デアリマス、併シソレガ何カノ都合ニ依テ、自作農扶植主義ヲ改メラレタノデアリマセウカ、若シ改メラレタトスルナラバ、其理由ハ如何ナル理由ニ依テ、自作農扶植主義ヲ改メラルカト云フコトヲ伺ヒタイノガ第一デアリマス、第二ハ既往モ現在モ、矢張自作農扶植主義デアッテ、別ニ改メタノデアリナイ、小作經營方針ヲ執ツタコトハ無イトシタナラバ、然ラバ北海道ノ如キ、國ガ自由ニ土地ヲ處理シ得ルトキニ、自作農ノ扶植主義デアリマシタナラバ、大地主ノ生ズル筈ハナイノデアリマス、所ガ今日ハ段々ト土地ノ併有者ガ出來テ來マシテ、自ら支配シ得ズ、經營シ得ザル土地ノ兼併者ガ、即チ大地主ガ出來テ來タヤウニナッテ居リマスルガ、ドウシテサウ云フヤウナ事ニナッタノデアリマセウカ、ソコニ吾ヒハ分ラナイ所ガアリマスカラ伺ヒタイノデアリマス、第三ニ北海道ノ拓殖方針ハ、何モ自作農扶植主義ヲ捨テタノデナケレバ、大地主ノ生ジタト云フノハソレハ北海道ノ拓殖政策ノ當然ノ結果カラ起ツテ來タノデハナク、ドサクサ紛レニサウ云フヤウナガ出來テ來テ、要スルニ變體的ノモノデアッタトスルナラバ、主トシテ其所有地ヲ國家又ハ北海道廳ノ斡旋援助ニ依テ處理スルト云フコトヲシマスルト云フト、其名義ハ自作農ノ創設デアリマスケレドモ、事實ハ從來ノ自作農扶植政策ノ信用

ヲ失ヒ、却テ土地ノ兼併者ヲ擁護スルヤウナコトニナツテ來テ、益土地兼併者ヲ誘致スルヤウ
 ナコトニナリハセヌカ、結局北海道ノ當初以來ノ自作農扶植方針ガ破壞サレルヤウナ結果ニナ
 テ、提案者ノ御精神ノ反對現象ヲ起スヤウニナリハシナイカ、是ハ北海道拓殖ノ上ノ重大問題デ
 アリマス、根本ノ問題デアリマスルカラ、此點ヲ御伺シタイノデアリマス、要スルニ此第三ノ私
 疑義ハ、自作農創設ト云フコトガ却テ土地兼併者ヲ誘致スルヤウナコトニナリハシナイカト云
 フ疑義ガアルノデアリマス、第四ハ新開地ニ於ケル自作農創設獎勵ニハ、其必須條件トシテ農業
 經營ノ具體的設計ガ前提デアアルノデアリマス、私ハ先日豫算委員會ニ於テ、北海道ノ農業經營ニ
 屬スル事業ハ、最早之ヲ農商務省ノ所管ニ移シテハドウカ、其方ガ産業統一上ニ都合ガ好クハナ
 イカト云フ質問ヲシマシタ時ニ、今ハマダ其時機デナイト云フ御答ヲ得タノデアリマス、然ラバ
 拓殖ノ根本策タル所ノ農業經營ニ一定ノ方針ガナケレバナラヌ管デアリマスガ、内務省ニ於ケ
 ル農業經營ノ方針ハ、如何ナル御方針デアアルカト伺ヒタイノデアリマス、ト申シマスルノハ、私
 ハ一昨年北海道ヲ廻ッテ見マシタガ、何處ヘ行ッテ見マシテモ、北海道ノ天然要件ヲ基礎トシタ所
 謂北海道式ノ農業經營ト云フモノヲ見出スコトガ出來ナカッタノデアリマス、無論端カラ端ヘ全
 部行ッタノデアアリマセヌカラ、何處カニハ無論ソレモアリマセウガ、私ノ目撃シタ所ハ、殆ド全
 部ガ内地ノ農業法ノ延長ノヤウデアリマシテ、其時ニ私ハ密ニ、若シ是デ行ッタナラバ、近キ將來
 ニハ北海道ニハ、却テ内地以上ニ深刻ナル農村問題ガ起リハシナイカ、ドウシテモ北海道式ノ農
 業經營ガナケレバナラヌ管ダガ、ソレノマダ研究ガ——設定ガ十分ニナツテ居ナイヤウナ感ジガ
 シタノデアリマスガ、其點ガ伺ヒタイノデアリマス、其當時マダ到著ヲシテ居リマセナンダガ、彼
 ノ丁抹カラ篤農者ヲ入レテ、サウシテ丁抹農法ヲ手本ニシテ、北海道拓殖事業ノ新生面ヲ開カレ
 ルト云フ御計畫デアッタノデアリマス、二三ノ關係者ニ御目ニ懸ッテ御意見ヲ伺ヒマシタトキニ、
 大分ノ御期待ヲ承リマシタガ、ソレハ洵ニ良イ計畫デアリマセウ、丁抹ノ農法ハ、殊ニ組合事業
 ノ如キハ世界ニ範トスルニ足ルベキ良イ組織ガ澤山アリマスケレドモ、併シ一番丁抹ノ農業ノ
 進歩ニ對シテ學ブベキ所ハ、基礎教育ガ進歩シテ居ルガ爲ニ、農業者各自ガ隨所ニ適當ノ最良ノ

經營ヲ爲シ得ルガ如キ智能ヲ持ッテ居ルト云フコトガ、丁抹ノ農業ヲ今日ニ至ラシメタノデアツテ、
 農法ノ形式デハナイト思フノデアリマス、故ニ形式ノミヲ入レタノデハドウデアラウカ、今一ツ
 丁抹ノ農業ノ形式ノ進ンダノモ、倫敦ト云フ大消費地ガ御隣ニアルト云フコトガ大關係ヲ持ッテ
 居リマスガ、北海道其モノニ於ケル天然ノ要素ヲ基礎トシタ所ノ、北海道式ノ農業經營ノ方針ガ
 定マリ、形式モ纏ラナケレバイケナイ筈ダト思フノデアリマスガ、私共ハソレヲ伺フコトガ出來
 マセナンダノデアリマス、若シソレガ無クシテハ自作農創設政策ヲ施サレテモ、其割合ニ效果ガ舉ラナ
 イノデハナイカト云フ疑義ヲ持ッテ居ルノデアリマスガ、其邊ヲ御伺シタイノデアリマス、第五ニ
 ハ此法案ヲ見マスルト云フト、政府ハ之ニ對シテ今御説明モアリマシタガ、土地代金額ノ百分ノ
 五以内ノ金額ヲ補給スルト云フヤウナコトニナツテ居リマスガ、御同意爲サレルノデアラウカド
 ウカ、是モ伺ヒタイノデアリマス、次ニ第六トシテ今一ツ、是ハ農商務省ノ當局ニ御伺シタイノ
 デアリマス、此法案ノ精神ハ英獨等ニ行ハレマシタ所ノ地代農法ノヤウナモノデアリマシテ、大
 體伺ヒマシタ所ノ自作農ノ創設政策デアリマスガ、是ハ内地デアリマシタナラバ寔ニ結構ダト
 思ヒマスガ、以上ノ如キ多少其根本ニ於テ疑義ノアル所ヘ、之ヲ直グニ持ッテ行クノハドウデアラ
 ウ、併ナガラソレモ宜イトシマシタ場合ニ、自作農創設ノ必要ハ今日北海道ヨリモ内地ノ方ガ更
 ニ急要ニ迫ラレテ居ルヤウナ所ガ多イノデアリマスガ、農商務當局ハ全國ニ斯様ナ方針ノ自作
 農創設政策ヲ行フノ意思ガアルヤ否ヤト云フコトヲ伺ヒタイノデアリマス、若モ先ヅ北海道ニ
 於テ之ヲ行ヒ、内地ハ適當ノ時機ヲ見テ斯様ナ政策ヲ施行スルノダト云フコトニ假ニシテ見マ
 スルト云フト、ソレハ容易ナラヌ事デハナイカト思ヒマス、第一農業政策ノ大ナル不統一ヲ來ス
 コトニナリ、混亂ヲ來スコトニナリハシナイカト考ヘルノデアリマス、要スルニ今後ノ農政問題
 ノ支障ヲ來シマス、明年度ヨリハ農林省モ獨立セラレ、之ヲ一轉機ニシテ作振ヲサレルト云フ時
 デアリマスカラ、餘程大事ナ時デアリマシテ、其第一歩ノ時カラ、重大ナル斯様ナ農業政策ガ若
 シ甚シク不統一ナ事ニナリマスルト云フト、容易ナラヌ事ト思ヒマスカラ、此點ニ對シテ農商務
 當局ノ明晰ナル御答辯ヲ願ヒタイノデアリマス、此六箇條ガ私ノ質問デアリマスカラ、ドウゾ御

答辯ヲ願ヒマス

土岐政府委員ノ應答

只今ノ岡田君ノ御質問ニ御答致シマス、北海道ニ於テ大地主ノ存在スル所以ハ何デアレカト云フコトデゴザイマシタガ、是ハ明治ノ初年開拓使、即チ當時各舊藩士ニ大地積ヲ附與致シマシテ開墾ニ從事セシメマシタトキニ始ツテ居ルノデアリマス、而シテ此舊藩士ガ相當ノ農場ヲ經營スルニハ、少クモ二百町歩バカリノ面積ヲ持タナケレバナリマセヌ、是モ當初北海道ノ開拓ノ專ラ範ヲ米國ニ取リマシテ、大農法ヲ開拓ヲシヤウト思ヒマシタカラ、廣イ面積ヲ附與シタノガ其原因ニナツテ居ルト思ヒマス、近來ニ於キマシテハ、專ラ小地主ヲ創定スル目的ヲ以テマシテ移民ニハ五町歩ノ土地ヲ與ヘ來タノデアリマス、ソレカラ北海道ト致シマシテハ、ドウシテモ家畜混同ノ農法ヲ行ハシムル必要ガアリマス、五町歩デハ狹イト云フノデ、今日デハ五町歩乃至十町歩ノ土地ヲ附與スルコトニナツテ居リマス、而シテ此法案ニ於テハ先ヅ一戸十五町歩以內ト云フ見當デ提案者ガ見込居ルヤウデアリマス、是ハ今日ノ北海道ノ執テ居リマスル農業ノ方法ト先ヅ合致スルモノト云フテ宜カラウト思フノデアリマス、サウシテ北海道ハ今日獨逸ナリ、或ハ丁株ノ農民ヲ入レテソレト經營サレテ居リマスガ、是モ矢張五町歩當リトカ、十町歩當リトカ十五町歩當リトカアルノデアリマス、是等ハ目下研究シツ、アル農法トモ合致シテ居ル次第デアリマス、是ダケ御答致シテ置キマス

丸山浪彌君ノ質疑

本法案ハ北海道ノ土地處理法案トシテアリマスルナレドモガ、其實質ニ於テハ實ニ我が帝國ノ食糧政策ニ關スル重大問題デアルト私ハ信ズル者デアリマス、然ルニ此大切ナル法案ガ提出セラレテ以來、今日マデノ委員會ヨリ此本會ニ移リ、且ツ委員長ノ御報告ニ依リマシタル經過ノ上ニ於テ、私ハ政府當局ノ御意見ヲ御伺シテ置ク必要ヲ認ムル者デアリマス、諸君モ御承知ノ如ク、

此法案ハ一度委員會ニ於テ筐底深ク開カラ閣ニ葬ラレテ、無期延期ニナルト云フコトノ事實ヲ見タ悲ムベキ運命ニ接觸シタル所ノ法案デアリマス、其法案ガ昨日突如又委員會ガ開カレマシテ、而シテ其昨日ノ委員會ニ於ケル經過ハ、既ニ今日ノ新聞紙上ニ於テモ諸君ハ御承知デアルト思ヒマスルガ、憲政會ノ一柳君ト政友會ノ東君、而モ東君ハ提案者トシテ、説明者トシテ最モ熱烈ナル本案ノ維持者ノ一人デアリマスルガ、此憲政會ト政友會トノ間ニ一大激論ノ交換サレタルコトニ付キマシテ、私ハ此法案ノ前途ノ上ニ於テ、此實行ノ熱力如何ト云フコトノ上ニ於テ聊カ疑ヲ懷ク者デアリマス、私ガ今此法案ニ對スル斯ル質疑ヲ爲ス所以ノモノハ、決シテ反對センガ爲デハナイ、成ベク此法案ノ效力ヲ實際ニ於テ有效ナラシムル爲ニ、此間ヲ發スル者デアリマス、而シテ此法案ハ北海道人ニハ最モ直接ノ影響ヲ來ス所ノ法案デアリナガラ、北海道選出ノ代議士タル坂東幸太郎君ハ、此法案ニ反對セラレテ居ルデハナイカ、只今委員長ガ報告セラレマシタル所ノ反對者ノ理由ハ何デアレカト云フト、斯ノ如キ法案ガ此儘ニ通過スルト云フト、弊害ガ百出ナスガ故ニ——其虞ガアルガ故ニ反對ヲ爲スト云フト言ウテ居ラレル、是ニ於テ私ハ先刻此質問ヲ發スル以前ニ、内務大臣及大藏大臣ニ要求ヲ致シテ置キマシタガ、未ダ御見エニナリマセヌカラ、先以テ北海道廳長官ニ向ッテ一ノ質問ヲ試ミテ見タイト思フノデアリマス、此特別處理法案ノ第三條ニ於ケル所ノ特別處理委員會ト云フモノハ、實ニ本法案ノ骨子ト認メルノデアリマス、蓋シ坂東君ノ反對セラレタルノモ、此特別處理委員會ナルモノガ勅令ヲ以テ之ヲ定ムトアルガ故ニ、勅令ナルモノ、其實質ハ北海道廳當局ノ上申ニ基クモノニシテ、即チ道廳ノ手如何ニ依テ現ハレ來ルモノデアアル、此故ニ道廳當局ハ此第三條ノ特別處理委員會ナルモノハ如何ナル組織ニ依テ、世間ノ疑惑ヲ招カザルベク最モ至公正ナル委員會ノ組織ヲシナケレバナラヌノデアアルガ、道廳長官トシテハ此委員會ノ組織ニ付テ如何ナル腹案ヲ持セラレルヤ否ヤ、此事ヲ質問スルノデアリマス、次ニ委員長ノ御報告ニハ、一億萬圓ヲ二千萬圓ト減額爲シタルガ故ニ、政府モ之ニ同意ヲ與ヘタルガ如ク御辯明ガアリマシタ、果シテ政府ハ一億萬圓ヲ二千萬圓ト減額爲シタルガ故ニ同意ヲ與ヘラレタルヤ否ヤト云フト御尋シタイ、若シ同意ヲ與ヘラ

レナイモノデアルトシタナラバ、私ハ茲ニ一大疑惑ニ襲ハレザルヲ得ナイノデアリマス、昨日ノ
 委員會ニ於テ東君ト——所謂憲政會ト政友會トノ一大衝突ノ結果ニ於テ此二千萬圓說ノ協調ガ
 現ハレタノデアリマス、即チ政府與黨ノ三派ノ是ハ協調案デアリマス、若シ此協調案ニ對シテ政
 府ガ例ノ非募債主義ノ方針ノ下ニ於テ、假令二千萬圓デモ、一億萬圓デモ、五十歩百歩デアアル、斯
 ノ如ク公債ヲ募集スルコトニ付テハ同意ヲ與ヘナイト云フモノデアラナラバ、現政府ハ政府ノ
 與黨ナルモノヲ認メルヤ否ヤ、即チ現政府ハ政黨ニ基礎ヲ置クノ政府デアアルヤ否ヤト云フコト
 ノ私ハ疑ヲ懷クノデアアル、此故ニ政府ハ果シテ此二千萬圓ニ對シテ承諾ヲ與ヘラレタルヤ否ヤ、
 唯議會ガ強要スルガ故ニ已ムナク此法案ニ對シテ反對ヲ唱ヘナイト云フ程度デアアルカ、政府モ
 三派モ共ニ是ハ現代ノ要求トシテモ必要ナルモノデアアルガ故ニ、之ヲ實際ニ遂行スルノ勇
 氣アルヤ否ヤト云フコトヲ政府ニ向ッテ質問ヲ試ムル者デアリマス、尙ホ此答辯ニ依テ更ニ御伺
 シタイコトガアリマスガ、大臣ノ出席ハ他ノ關係デムツカシイサウデアリマスカラ、幸ニ三土政
 務次官ガ居ラレマスニ依テ、此質問ニ對シ代表的ノ御答辯ガ出來ルコトデアレバ、三土政務次官
 ヨリ御答辯ヲ煩シマス

土岐政府委員ノ應答

只今丸山君ノ御質問中、私ニ御尋ニナッタ部分ニ付テ御答致シマス、此法案ガ貴衆兩院ヲ通過致
 シマシテ、御裁可ガアツテ法律トナッテ發布セラレマシタ後、初テ此勅令案ガ起草サレルノデア
 リマス、其勅令決メラレルコトデゴザイマシテ、判定ニ際シマシテハ無論私ノ意見モ徵セラレ
 ルコト、思ヒマスガ、今ノ所何等ソレ等ノ準備ハアリマセヌ、左様御承知ヲ願ヒマス

三土政府委員ノ應答

先刻ノ岡田君ノ御質問ニ對シマシテ御答致シマス、他ノ機會ニ於テ既ニ申上ゲマシタ通り自作
 農ガ段々ニ減少ノ傾ヲ以テ居ルト云フコトハ、政府ト致シマシテ憂慮致シテ居ルノデアリマス、

隨テ自作農ノ創定竝ニ維持ニ付キマシシテハ、慎重ニ考慮致シテ居ルノデアリマスルケレドモ、
 如何セン財政ト離ルベカラザル問題デアリマスルガ故ニ、今日マダ如何ニスルカト云フコトヲ
 申上ゲル次第ニナッテ居リマセヌ、北海道ニ於キマスル問題ハ農商務省ノ所管以外デアリマスカ
 ラ、私ヨリ茲ニ申スコトヲ避ケマス、ソレカラ丸山君ノ御質問デアリマスガ、私ハ農商務所管事
 務ノ政府委員ヲ仰付ケラレタノデアリマスカラ、他ノ事ニ付キマシテハ申上ゲルコトヲ避ケタ
 イト思ヒマス

討論ニ入り坂東幸太郎君ハ原案及委員會報告ニ反對、栗林五朔君及松實喜代太君ハ執レモ委員會
 ノ報告ニ贊成ノ演說ヲ爲ス

坂東幸太郎君ノ反對演說

私ハ本案ニ對シマシテハ委員長ノ御報告、原案、共ニ反對ノ意見ヲ有スル者デアリマス、其理由ハ
 先程齋藤委員長カラノ御紹介モアリマシタガ、私ハ此自作農ノ創定ト云フコトニ付キマシテハ、
 其主義ニ於テ何等反對ノ意見ヲ有スル者デアリマセヌ、併ナガラ此法律ガ出來タ場合ニ、之ヲ
 實行スルニ當リマシテハ、幾多ノ障礙ガ生ズルト云フコトハ、是ハ見易キ道理トナッテ居ルノデア
 リマス、偕此委員會ハ先程丸山君モ言ハレタ通りニ、秘密會ガ三回アリマシタ、公開ノ委員會ハ
 二回デアッタノデアリマス、其委員會ノ經過中ニ私ハ非常ニ不愉快ニ感ジタ事ガ二三アル、ソレ
 ハ私ガ北海道長官ニ向ヒマシテ二三或ル參考書ノ提出ヲ要求シテ居ッタノデアアル、其參考書ハ此
 案ノ贊否ヲ決スルニ付キマシテハ相當重要ナモノデアリマシタガ、而モ遂ニ其提出ヲ見ルニ至ラ
 ナカッタノデアアル、又私及他ノ委員諸君モ此内務、農商務、大藏ノ各當局ノ出席ヲ求メテ置イタノ
 デアリマスガ、大藏當局ノ出席ハアリマシタガ其他ノ政府、委員ハ北海道長官以外ノ方ハ遂ニ出
 席ガ無カッタノデアアル、公開ノ委員會ガ二回デアリマスルカラ、其機會ヲ得ナカッタ、是ハ委員會ノ
 審査上ニ付キマシテ非常ニ蹉跌ヲ來シタ所ノ傾ガアル、又昨日ノ委員會ニ於キマシテ實ニ容易

ナラヌ事ガ一ツアル、是ハ重大問題ナルガ故ニ一言致シマスルガ、ソレハ何カト申シマスレバ、此法案ノ制定ニ十數年ノ間熱心ニヤツテ居ル北海道ニ於ケル大地主、此法律ガ出來マスレバ或ハ其買収ヲ受ケルベキ地位ニ在ル田中清輔君ガ記者ノ徽章ヲ著ケテ休憩中ト云ヒナガラ委員會ニ出入シテ、サウシテ修正案文染ミタモノヲ委員ノ間ニ持廻ッテ居ッタ、是ハ私ハ甚ダ宜クナイ事柄デアアルト思フ、過日聞ク所ニ依リマスルト、藥劑師法案ノ委員會デ、藥劑師ガ一二名記者ノ徽章ヲ著ケテ入ッテ居ッタガ、ソレハ傍聽致シテ居ッタバカリデアアル、ソレヲ片岡政務次官ハ退出サシタト云フコトデアリマス、昨日ノハ而モ此法案ニ奔走シテ居ル地主、ソレガ委員會ノ間ニ休憩中ト云ヒナガラ、自分ガ此修正案文ヲ作ッテ持廻ルト云フコトハ、實ニ非常ナル綱紀ヲ紊亂スルモノデアアルト私ハ考ヘル、斯ル不愉快ナル經過ノ下ニ委員會ハ、遂ニ私ヲ除ク八名ノ同意ヲ以テ此修正案ヲ通過シテ居ルデアリマス、諸私ガ此案ニ反對スル所ノ根本ハ、ソレハ從來ノ北海道ノ開拓ノ障礙ヲ爲シテ居ルモノハ、何カト申シマスレバ、一二回申シタコトガアリマスガ、非常ニ官有地ガ多イ、即チ御料地ガ九十三萬町歩、陸軍用地ガ十萬町歩、其他百二十萬町歩ノ官有地ガアル、是ハ確ニ一ノ障礙デアリマス、第二ノ障礙ト見ルベキモノハ、惡ク申セバ山師地主ガ多イト云フコトデアアル、ソレヲ現法律ニ依リマシテ、一人ニ耕地ナラバ五百町歩、牧場ナラバ八百町歩、植樹地モ八百町歩ト云フガ如ク、一人ニ多クノ土地ヲ所有セシムル法律ガアル、其結果ト致シマシテ北海道ニ實ニ數千町歩ノ地主ガ澤山存在シテ居ルデアリマス、其大地主ノ中ニ於キマシテモ、著實ナル人ハ其條件ニ基イテ、サウシテ立派ニ農場ヲ經營シテ居ルデアアル、或ハ蜂須賀農場ノ如キ、松平農場ノ如キ、其他澤山ニ相當ノ資本ヲ投ジタ農場ガアリマス、是等ノ農場ノ成績ハ宜シイ、併シ其多クノモノハ所謂山師地主デアアル、之ヲ得ンガ爲ニハ有リト有ユル運動ヲシテ、サウシテ之ヲ手中ニ收ムルヤ、其立派ナル山林ヲ伐採シテ、サウシテ耕作ヲセズシテ打棄テ、措ク、恐ラク北海道ヲ視察サレタ内地ノ議員諸君ハ御承知ノ事デアラウト思フ、是ハ確ニ北海道ノ開拓ヲ妨ゲテ居ルデアアル、現在牧場トシテ千町歩ノ許可ヲ受ケタトキニ、其周圍ニハ形バカリノ棚ガ出來ルデアアル、サウシテ検査ノ時分ニハ形バカリノ馬ヲ置ク、或ハ借リテ來テ

デモ置クデアアル、一タビ検査ヲ受ケテソレガ所有地ニナルヤ、即チ馬ハ居ラヌデアアル、牧場ト云フモノハ百萬町歩ノ土地ハ處分シテ居ルデアアルガ、北海道二十萬頭ノ馬ハ、ソレハ個人ノ所有デアツテ、牧場ノ馬ハ僅シカナイデアアル、斯ノ如ク牧場ニ付キマシテモ、或ハ耕作地ニ付キマシテモ、實ニソレガ大地主輩ノ爲ニ此北海道ノ開拓ガ障礙サレテ居ルト云フコトハ、是レハ隱レモナイ事實デアアル、故ニ此根本ノ弊害ヲ芟除スルニハ、法律ヲ改正シテ一人ニ數百町、或ハ團體ノ場合ニハ尙ホ五倍デアアル五五二千五百町モ一會社ニ處分シ得ル現法律ヲ變ヘルト云フコトガ一ツノ根本問題デアアル、今後尙ホ處分スベキモノハ四十三萬町歩殘ッテ居ル、或ル一面ニ大地主處分ノ弊害ヲ生ジ、而モ一面ニ於テ其四十三萬町歩ガサウ云フ大地主處分ヲ爲シタ場合ニハ、其弊害ハ滔々トシテ盡クル所ヲ知ラナイデアアル、故ニ此處分方法ヲ改正スルト云フコトガ根本デナケレバナラス、即チ此大地主ノ亂暴ナル仕方其經過ヲ見マシタナラバドウデアアルカ、北見ノ方ニ參リマシテモ數里ノ間其立派ナル樹木ハ伐去ラレテ居ル、サウシテ耕作スベキ義務ヲ抛ッテ居ル、殆ド暴君ガ通過シタ跡ノ如クニ其跡ハ荒レテ居ルデアアル、是ハ實際北海道ノ狀況デアアル、所ガ此法律案ガ出來タ結果ハドウナルカト申シマスレバ、是ハ實ニ經營シテ居ル地主ハ賣ラス、確ニ私ハサウ思フ、私ハ三十五年間北海道ニ居リマスガ、立派ニ農場ヲ經營シテ居ル者ハ決シテ賣ラス、之ヲ買ッテ貴ヒタイ人ハ只今申シマシタヤウナ側ノ地主デアアル、是ハ私ハ斷言シテ憚ラヌデアアル、サウシテ之ヲ買フ場合ニ於キマシテハ、價格ガ問題デアアル、先程ドナタカ申シマシタガ、値段ガ一番ノ問題デアリマス、例ヘバ此法律ガ出來マシタナラバ、恐ラクソレ等ノ惡イ土地荒廢セントシテ居ル所ノ土地ハ、五割或ハ倍ニ騰貴スルデアリマセウ、所ガ此法案ニ依リマスト、其價格場所等ハ勅令ニ依ル委員會デ以テ決メルト書イテアルデアリマス、然ラバ今日一萬圓ノ農場ガ、其委員會ガ價格ヲ決定スル場合ニハ、二萬圓ニナル、ソレデモ其委員會ノ決定ハ不法デヤナイデアアル、決シテ不法トハ言ヘヌデアアル、所ガ其一萬圓騰貴ト云フモノハ、經濟的ノ自然ノ理法ニ依ル所ノ騰貴ナラバ恕スベキデアアル、而モ法律ノ力ニ依テ價格ヲ騰貴セシマテ、サウシテ其利益ヲ其地主ニ與ヘルト云フコトハ、決シテ公平ナルモノデヤナイ、私ハ固ク

ソレヲ信ジテ居ルノデアアル、斯ク申シマシテモ、決シテ私ハ勅令ヲ信ジナイト云フ意味デヤナ
 イ、勅令ヲ信ジナイ譯デハアリマセヌガ、苟モ斯ノ如キ他ノ府縣ニ例ノ無イ日本最初ノ大キナ法
 律ヲ作ル場合ニハ、勅令ヨリハ尙ホ一層權威ノアル所ノ法律ノ條文ノ中ニ於テ、此價格ヲ決定シ
 テ置クト云フコトガ必要デアルト思フ、例ヘバ過去數年間ニ於ケル地代ニ基イテ價格ヲ定メ
 ナリ、或ハ地租、若クハ反別割ニ基イテ價格ヲ定メルナリソレハ法文ニ明確ニ規定シテ置カナケ
 レバナラヌノデアアル、所ガサウデナク單ニ勅令ニ一任シテ居ルノデアアル、サウシテ長官ガ其委員
 ヲ任命スルノダ、斯ウ云フコトヲ言ウテ居ルノデアアル、私ハ長官ヲ信ジナイト云フ意味デヤナイ
 ケレドモ、北海道ニ於キマシテハ、此長官ト申シマシテモ、或ハ周圍ノ力ニ依テ如何ナル途ヲ執
 ルカモ知レヌ、是ハ少シ言過ギカ知リマセヌガ、從來北海道廳ガ伏魔殿ト稱セラレタコトガア
 ル、ソレハ即チ土地ノ賣拂其他ニ付テ、大ナル勢力ノアル者ガ長官ヲ強要スル、サウシテ土地拂
 下運動ヲスル、是ガ即チ北海道ガ伏魔殿ト稱セラレタ所以デアアル、其長官ガ委員ヲ任命シテ、其
 委員ガ價格ヲ定メ、人ヲ定メルト云フニ至リマシテハ、ドウシテ危險ヲ感ゼズニ居ラレマセウカ、
 私ハ此一點ニ付キマシテモ、此案ニ贊成ガ出來ナイノデアアル、又第二ニハ、買收地ニ付テ提案者
 ノ説明ガ一致シテ居ラヌ、或ル提案者ハ土地ヲ買フノハ、小作ガ現在這入ッテ居ル土地バカリ買
 フノダ、斯ウ申シマシタ、サウスレバ私ガ疑ノ起ルノハ、北海道ハ多クノ人ヲ要求シテ居ル、内地
 カラノ移住ヲ歡迎シテ居ルノデアアル、現在這入ッテ居ル所ノ小作ニ土地ヲ與ヘルコトヨリ、内地
 カラ多クノ移住者ナル者ヲ招來セントシテ居ルノデアアル、故ニ、ソレナラバ大シタ必要ハナイ、
 斯ウ者ヘル、所ガ或ル一人ノ提案者ハサウデハナイ、ソレハ茲ニ一ツノ地主ノ千町ノ農場ヲ買フ、
 茲ニ五百町歩ノ不耕地ガアッテモ之ヲ買ッテ、ソレカラ分讓スルノデアアル、斯ウ云フ所ノ説明ヲシ
 タノデアアル、所ガ是ハ非常ニ結果ガ違フノデアアル、即チ一ツノ農場ヲ買ッテ、サウシテ分割シテ之
 ヲ賣ル場合ニ於キマシテハ、其値段ト云フモノガ非常ニ違ッテ來ル、若シ一ツノ農場ノ中デ、小作
 ガ居ル所ノ土地ヲ撰リ買セントスルナラバ、地主ハ必ズ高クナケレバ賣ラヌト云フコトニナルノ
 デアル、ソレヲ全部買ッテ分讓スル場合ニ、其分割土地ト土地トノ間ニ非常ニ價格ガ違フ、是ハ

即チ提案者ノ説ガ一致シナイ所デアアル、第三ニ此管理ノ費用ト云フモノガ見テナイ、最初ノ原案
 ニハ實ニ一億圓ノ公債ヲ募集スルト云フコトデアアル、一億圓ノ公債ヲ發行シテ、サウシテ三十年
 ノ年賦デ以テ土地ヲ買收スルナラバ、是ハ一億圓ノ債權者ニ北海道ノ地方費ハナルノデアアル、サ
 ウシテ若モ其金ヲ全部納付シナイ場合ニ、北海道地方費ガ自ラ農場ヲ經營シナケレバナラヌノ
 デアル、假ニ千町ノ農場ヲ買ッテ、其處ガ五百町荒レテ居ルナラバ、其買手ガ付クマデハ地方費デ
 自ラ耕作ヲシナケレバナラヌト云フ結果ニナルノデアアル、サウスルト一億圓ノ時ニ方リマシテ
 ハ、少クトモ一箇年ニ二十萬圓乃至五十萬圓ノ經費ヲ要ルノデアアル、ソレニ對シテ何等提案者
 ガ言及シテ居ラナカッタノデアアル、今日修正案ハ二十萬圓トナッテ居リマセヌガ、私ノ計算スル所デ
 ハ一箇年ニ六萬圓乃至十萬圓ノ費用ガ要ルノデアアル、此費用ハ昨日提案者ハ、ソレハ土地ヲ少シ
 高ク賣ッテ、其利益ヲ以テ之ヲ支拂フト云フコトヲ申サレマシタ、併ナガラ苟モ自作農ヲ創定セ
 ントスル場合ニ、北海道ノ地方費ガ土地「プロローカト」ノ如ク高ク賣ッテ、其利益ヲ以テ管理スル
 ト云フコトハ、是ハ自作農創定ノ精神ニ反シテ居ルト私ハ考ヘルノデアアル、然ラバ其費用ト云フ
 モノハ、國家ガ負擔スルカ、若クハ北海道地方費ガ負擔スルカト云フ問題デアアル、國家ノ負擔ハ
 早速次官モ贊成ノ意ヲ表シテ居ラナイ、北海道地方費ノ負擔ハ道會ノ決議ニ依ラナケレバナラ
 ス、斯ル難關ヲ控ヘテ居ルノデアアル、然ラバ此管理費ハ事實ニ於テ出所ハ無イト云フコトニナ
 ル、道會ガ贊成スレバ宜シイガ、ソレハ不明デアアル、次ニハ北海道地方廳ニ於テ公債ヲ發行スル
 ト云フコトハ、是ハ道會ノ自由デアリマス、併シ此法律ガ出來タ場合ニハ、此二十萬圓ノ公債ヲ
 發行スルコトヲ、此法律ハ強要スルト云フコトノ嫌ガアル、又大藏省、内務省ハ、地方ノ公債ニ對シテハ、
 之ヲ許可スルモ許可シナイモ自由デアアルガ、此法律ノ結果トシテハドウシテモ許可シナケレバナラ
 ス、言換ヘレバ此許可ヲ強要スル所ノ嫌ガアルノデアアル、是ハ早速次官モ昨日サウ申サレマシタ、
 斯ウ云フ所ノ結果ニナル、然ラバ北海道會ハ自ラ其信ズル所ニ依テ財政其他ノ計畫ヲスルノデ
 アルガ、此法律ノ結果トシテハ財政經濟ノ如何ニ拘ラズ、二十萬圓ノ公債ヲ發行シナケレバナラ
 スコトニナル、是ハ北海道ノ財政計畫ニ付キマシテモ、由々シキ大事デアルト私ハ信ジテ疑ハヌ

ノデアアル、又此法律ハ政府ト何等ノ協調ガナカッタノデアアル、斯ク申シマスレバ賛成論者ハ議會ガ法律ヲ作ルニハ政府ノ賛成ハ要ラヌ、斯ウ申スカモ知ラナイ、併ナガラ苟モ二千萬圓ノ公債ヲ募集スルニハ、政府ノ許可ヲ要シ、又其他尙ホ政府ガ百分ノ五以内ノ交付金ト云フ所ノ規定モアリマスガ、其交付金ハ固ヨリ政府ガ出スノデアアル、然ラバ政府トノ協調ガドウシテモナケレバナラヌノデアアルガ、不幸ニシテ其協調ガナイト云フコトハ、十分ニ委員會デ分ツテシマッタノデアアル、殊ニ早速政務次官ハ此交付金ニ絶對ニ賛成ガ出來ナイト云フコトヲ明言シタノデアアル、又公債ノ發行ニ付テモ法律ガ出來レバ、ソレニ對シテ無視ハシナイガ、併シ其場合ニハ再三再四考慮シテ見ナケレバナラヌト云フコトヲ明言シタノデアアル、然ラバ此政府ト直接ノ關係ガアル法律デアアルニ拘ラズ、政府トノ協調ガ附イテ居ラヌト云フコトハ、確ニ此法律ノ缺陷デアラウト私ハ考ヘテ居ルノデアアル、賛成論者ハ歐羅巴ニ於ケル所ノ自作農創定ノ成效ヲ誇ツテ居ルノデアアル、吾モソレヲ見テ居ル併ナガラ歐羅巴諸國ノ成效ハ國家ガ自ラ之ヲ經營シ、サウシテ或ル程度マデハ強制買收ノ方法ニ據ッタノデアアル、此法律ハ強制ヂヤナイ、任意ニ買收スルノデアアルガ故ニ、安ク買ハントスレバ地主ニ應ゼズ、高ク買ッタ場合ニハ高ク土地ヲ小作ニ賣ラナケレバナラヌト云フコトニナルカラ、決シテ外國ノ如クニ成效ハシナイ、此自作農制定ノ實現ヲ期セントスレバ、北海道ニ於テ非常ニ荒廢ニ歸セシメテ願ミナイヤウナ、サウ云フ地主ノ所有權ニハ制限ヲ與ヘテ、サウシテソレヲ或ル價格ヲ限定シテ強制的ニ買收スルナリ、或ハ強制的ニ牧場ヲ經營セシムルナリ、或ハ強制的ニ耕作セシムルナリシナケレバ、到底其目的ヲ達スルコトハ出來ナイト思フ、自分モ北海道民ナルガ故ニ、北海道ノ開拓促進ニ付キマシテハ、決シテ人後ニ落チナイ、少クトモ他ノ北海道ノ議員諸君ト同一ノ程度ニ於テ、熱心ヲ持ツテ居ル者デアアル、ケレドモ此法律ガ現ハレタ結果トシテ、實ニ弊害ガ百出シテ、却テ北海道ノ開拓ヲ阻碍スルコトガアリ、或ハ是ガ動機トナツテ、北海道ノ各種ノ問題ガ疑惑ノ眼ヲ以テ見ラレルヤウナコトガアリマシテハ、是ハ自由シキ大事デアアルト信ジテ居ルノデアアリマス、今ヤ正ニ會期ガ切迫シテ居ルノニ、故ラニ政府委員ガ出席ヲ忌避スルガ如キ、或ハ故ラニ種々ナル運動ヲ以テ此法律案ノ通過ヲ圖ルガ如キハ、私

ノ與シナイ所デアアル、私ノ所ニモ數名、宿所ニ此事ニ付テノ賛成運動ニ來タ者ガアルノデアアリマス、併シ私ハ之ヲ答メハシマセヌガ、兎ニ角北海道ノ開拓ハ如何ニ促進ヲ要スルトハ申シナガラ、斯ウ云フヤウナ種々ナル議論ガアリ、又世間ニ疑惑ノ眼ヲ以テ見ラレテ居ルトキニ、強テ通過ヲ圖ラレルヨリモ、尙ホ十分ニ研究ヲ積マレ、完全無缺ナル法律案ヲ來年提出スル方ガ私ハ宜カラウト信ジテ居ルノデアアリマス、決シテ一年ヲ爭フ問題デハナイ、サウシテ此價格ノ點、サウシテ買收スル土地、サウ云フ點ニ付テモ法律ニ十分ニ規定ヲ設ケタナラバ、天下何ゾ疑惑ノ眼ヲ以テ見ルコトガ出來マセウ、私ハ北海道ノ立場カラ今ソレヲ強テ作ルト云フコトハ、却テ各種ノ問題ヲシテ益疑惑ノ念ヲ深カラシメ、延イテハ北海道ノ開拓ヲ阻碍スルモノナリト信ズルガ故ニ、私ハ此案ニ反對スル者デアリマス、其自作農ノ制定ニハ賛成デアリマスガ、ドウカ提案者諸君ハ完全無缺ナル所ノ法律案ヲ制定シテ、明年ノ議會ニ提出アラントヲ希望スル者デアリマス

栗林五朔君ノ賛成演説

私ハ本案ヲ賛成致シマス、且ツ本案ノ修正ヲ主張致ス者デアリマスカラ、茲ニ單簡ニ賛成ノ趣旨及修正ノ趣旨ヲ申上ゲタイト思フノデアアリマス、本案ハ即チ自作農創定ノ義デゴザイマスガ、此事ハ今日ニ起リマシタ事ヂヤナイ、十數年前カラ屢兩院ニ於テ請願ハ採擇サレ、又建議案ト致シマシテモ、大正二年及大正十一年、大正十二年ニ於テ、本議會ハ一致デ此建議案ヲ可決致シテ居リマス、而モ大正十二年ニ於テ建議致シマシタ際ニハ、本案ト殆ト等シイ案ヲ添ヘマシテ、建議ハ通過致シテ居リマス次第デゴザイマス、又地方ニ於キマシテモ、北海道會ハ滿場一致ヲ以テ此趣旨ノ建議ヲ致シテ居リマスノミナラズ、各政黨政派ノ北海道支部ハ、何レモ本案ノ趣旨ヲ賛成致シマシテ、各支部ノ決議トナツテ居リマスコトデゴザイマスカラ、何レノ方面カラ見マシテモ、輿論トシテノ異論ノナイコト、存ジテ居リマス、私ハ此案ハ完全ノモノトハ認メマセヌ、併ナガラ大體ノ趣旨ニ於テ、自作農創定ハ北海道ノ拓殖ヲ進メマス上ニ、健全ナル發達ヲ期シ得ラレル

ト存ジマスノデアリマス、又農民ヲシテ安定セシメ、全ク此北海道ノ拓殖ノ基礎的方策デアリマス。トニ確信致シテ居リマス。デゴザイマス、殊ニ現下我國ノ状態カラ見マスレバ、最モ憂フベキ所ノ人口ノ調節、隨テ食糧問題、是等ノ事柄ハ延イテ小作爭議トナリ、種々ナル不祥ナル生存競争ガ各地ニ起ツテ居リマス。トハ事實デアツテ、益劇甚ニナラントスル傾向ヲ有シテ居リマス、此際ニ於テ之ヲ緩和スル途ハ、獨リ此政策アルノミト存ジマス。次第デゴザイマス、又私共ハ此直接ノ結果デアリマセズトモ、北海道ノ拓殖ヲ速成スルト云フコトハ、我國ノ國策トシテ重大ナル意義ヲ有スルモノト存ジマス。デゴザイマス、北海道ノ收容スベキ人口ハ現在二百五十萬デアリマスガ、更ニ二、四百萬人ノ者ハ、確ニ北海道ニ移住シ得ラレル餘地ヲ存シテ居ルト存ジマス、然ラバ五百萬人、若クハ六百萬人ニ近い人口ヲ——六、七百萬マデノ人口ヲ北海道ガ收容シテ、北海道ノ拓殖ガ完成致シマシタ時代ニハ、此寒帯地方ニ於テ拓殖ニ從事シ、種々ナル事業ニ經驗ヲ有シ、體驗ヲ有シマシタ者ガ、對岸露領、即チ西伯利、薩哈噠、勘察加ト云フヤウナ、我國ノ領土ノ二倍モ大面積ノアリマスモノヲ、是等ハ當然國交ノ恢復シマシタ以上ハ、是等ヲ開拓スルコトハ我國ノ使命ト存ジマス、此任ニ當ル者ハ北海道ニ於テ、寒帯地方ニ經驗ヲ有スル者ガ之ニ當ルコトガ當然ノコト、存ジマス、然ラバ北海道ノ開拓ヲ促進シ、國富ノ増進ヲ圖ル上ニ於テ、最モ急務ナル法案ト存ジマス。次第デゴザイマス、併ナガラ只今板東君ノ御説、及委員會ニ於テモ種々ナル法案實行ノ上ニ付テ御懸念ノアリマシタ御方モアリ、吾々モ多少其憂ヲ共ニ致シテ居リマス。デゴザイマス、故ニ原案ハ一億圓トナツテ居リマス。デゴザイマスガ、吾々ハ之ヲ五分ノ一ノ二千萬圓ニ修正シテ、而シテ之ヲ試驗的ニ實行シ、實行ニ當リマシテ種々ナル研究モ要シ、更ニ進ミマシテハ地方公債デナク、只今板東君ノ御説ノ如ク、獨逸及丁抹アタリノ組織ノ如ク、國家ガ直接ニ之ヲ經營シ、而シテ土地ノ收用ナドモ、強制收用ニ依ルコトガ最モ宜シト存ジマス、併ナガラ今日俄ニ斯ル事ヲ國ニ求メルコトハ出來得マセヌ爲ニ、吾々ハ此事業ヲ速ニ實現サセタイ多年ノ主張デアルガ故ニ、茲ニ諸君ノ御同意ヲ求メマス、又吾々モ熱心ニ本案ニ賛成スル所以デアリマス、尙ホ本案ノ通過致シマシタ以上ハ、殊ニ政府ニ向ッテ希望ヲ申述べタ

イト存ジマス、本案ノ實施ハ勅令ニ依テ種々ナル細則ヲ設ケラレルコトデアリ、又此法ノ運用ハ土地處理法委員ヲ設ケマス。次第デゴザイマス、此委員ノ選定ガ若シ公正ヲ缺キ、或ル勢力ノアル一派ニ左右セラレルヤウナ事ガアリマシタナラバ、實ニ板東君ノ述ベラル、如ク、由々シキ事柄ガ起ルト存ジマス。事デゴザイマスカラ、此點ニ於テハ十分勅令及委員選定ノ上ニ注意ヲセラレシコトノ附帶ノ希望ヲ申上ゲテ賛成致シマス。次第デアリマス。

松實喜代太君ノ賛成演説

諸君、私ハ只今上程サレタル北海道農地特別處理法案ニ付キマシテ、委員長ノ御報告ヲ賛成致シマス、其理由ヲ極メテ簡單ニ申述べテ、諸君ノ御清聽ヲ煩シタイト思フノデアリマス、先ヅ私ハ劈頭ニ於キマシテ只今委員長カラ御報告ノアツタ、即チ委員會ニ於テ修正ヲ致シタ所ノソレニ對シテ、提案者ト致シマシテ賛成ヲ致シマシタ理由ヲ少シク申上ゲナケレバナラヌノデアリマス、ソレハ即チ公債發行額ハ、最初ハ一億圓ト書イテアツタノデアリマス。ガ、是ハ先刻來御話ノ通り二千萬圓ト修正サレタノデアリマス、是ハドウ云フ譯デ吾々ガ同意シタカト申シマス。ト云フト、最初ノ一億圓ト云フノハ吾々ノ腹案ニ依ルト、凡ソ二十箇年ニ之ヲ發行スルト云フ考デアツタノデアリマスガ、今回二千萬圓ニ修正ヲサレテモ、是ニハ別ニ年限ヲ附シテナイノデアリマス、即チ成績ガ佳良デアレバ或ハ五年デモ、七年デモ之ヲ發行シ、又法律ノ改正ノ結果續イテ五千萬圓ナリ、或ハ三千萬圓ナリヲ追加スルコトモ決シテ不可能デナイト云フコトヲ信ジマシテ、即チ此法案ハ我國ニ於テ初メテノ試ミデアルカラシテ、先ヅ此金額デヤツタヲ宜カラウデハナイカト云フコトデアリマシタカラ、吾々ハ其趣意ニ於テ何等相違ノ點ヲ見出スコトハ出來ナイノデアリマスカラ、之ニ賛成ヲ表シタノデアリマス、其他ノ修正ニ至リマシテハ、別段此處デ彼此レ申述べルダケノ必要ハナイノデアリマス、諸君、農村振興ト云フコトハ今ヤ我國ノ輿論デアリマス、サウシテ其農村振興ハ如何ナル方法ニ依テ振興ガ出來ルカト申シマス。ルト、種々ナル方法ガアリマス。ルデセウガ、先ヅ其中ノ主ナルモノハ自作農ノ創定デアルト云フコトヲ斷言

シテ差支ナイト思フノデアリマス、天下ノ輿論デアル、天下何人モ異議ナイ所ノ此自作農ノ創定ガ、今尙ホ今日行ハレズニアルト云フノハドウ云フ譯デアカト申シマスルト、農商務省ノ調査ニ依リマシテモ、五億萬圓ノ金ヲ以テ約七八十年間ヲ費サナケレバ、今日ノ小作農ヲシテ悉ク自作農ニナスト云フコトハ至難デアルト云フコトデアリマスルカラ、此一端ヲ考ヘテ見マシテモ、中ノ内地府縣ニ於テ自作農創定ヲ行フト云フコトノ至難デアルト云フコトハ、能ク明瞭ニ分ルコトデアリマス、恰モ大化ノ革新、若クハ明治維新ノ如キ雄大ナル意氣ヲ以テ之ニ當ラナケレバ、決シテ此府縣ノ自作農創定ト云フコトハ實行ハ期シ難イト私共ハ信ジテ居ル、然ルニ幸ニモ北海道ニ於テハ土地ガ廣ク又其地價モ極メテ安イノデアリマス、即チ日本勸業銀行ノ調査ニ依リマスルト、府縣ノ田ノ一段歩ノ平均地價ハ六百三十圓、又畑ノ一段歩ハ平均地價ハ三百六十圓ト云フ高價デアリマスルケレドモ、北海道ニ於キマシテ北海道廳ノ調査、拓殖銀行其他種々ナル機關ノ調査ニ依テ之ヲ綜合シテ考ヘテ見マスルト云フト、北海道ハ田一段歩ノ平均地價ハ約百二十圓、畑ハ同ジク三十圓ヲ超エナイノデアリマス、サウ致シマスルト云フト、現今ノ自作料及公課金ヲ以テ負擔ヲ差引キマシテ、サウシテ其殘リヲ以テ此年賦償還ノ元利ニ充ツルコトガ出來ルノデアリマス、少シク數字ニ涉リ甚ダ諸君ノ御倦怠ヲ買フ虞レガアリマスガ、是非申上ゲテ見タイト思ヒマス、今北海道ノ是モ矢張農商務省ノ調査デアリマスルガ、田一段歩ノ自作料ハ十四圓二十二錢ト云フコトニナツテ居ル、ソレカラ公課、地租、地方稅、町村費等ガ二圓十八錢、ソレニ土功組合費ノ二圓九十六錢ト云フモノヲ加ヘマシテ、サウシテ先程ノ小作料カラ差引キマス、九圓二十四錢何厘ト云フ殘金ヲ得ルノデアリマスガ、此金ヲ以テ元利ノ年賦償還金ニ充テルト云フト、年五分ノ利率ト假ニ定メマシテ、サウシテ買受代金ハ一段歩ヲ百二十圓ト計算スルナラバ、二十四年掛レバ此元利ヲ全ク返還シ得ルコトニナルノデアリマス、三十箇年賦トスレバ一段歩ニ百四十二圓出シテ宜シイト云フコトニナルノデアリマス、又畑ニ付テ云フナラバ、畑ノ小作料ハ二圓八十八錢デアリガ、地租、地方稅等ノ公課ヲ合セルト六十二錢四厘、之ヲ差引キマス、ト二圓十五錢六厘ト云フ殘金ガ出ル、之ヲ以テ年賦償還ニ充ツルナラバ、年五分ノ利率ト致シマ

シテ、買受代金ノ一段歩三十圓ト云フモノニ對シテハ、二十五箇年ニ元利ノ完済ヲ得ルト云フコトニナルノデアリマス、斯ノ如ク北海道ノ土地ハ府縣ニ比シテ遙ニ安イノデアリマス、年賦償還ノ利率ヲ年五分以内ニ止メルトシタナラバ、現在ノ小作料以上ノ負擔ヲセシメズシテ、三十箇年以内ニハ元利ヲ全ク完済シ得ルト云フ計算ニナルノデアリマス、斯様ナ次第デアリマスルカラ、比較的實行ノ容易ナル北海道ニ於テ先ヅ自作農創定ヲ行ヒ、サウシテ其範ヲ示シ、應テハ全國的ニ自作農創定ノ機運ヲ促進致シタイト云フ考デアアルノデアリマス、諸君、北海道ニ於ケル土地ノ分配、或ハ利用ノ現狀ハ如何デアカト申シマスナラバ、北海道ニハ國有地ノ外ニ御料地、公共團體ノ所有地、大學林等ノ名ノ下ニ封鎖サレテ、即チ民間ノ個人ニ是ガ私有ヲ許サナイ所ノモノガ澤山アルガ、其外ニ現在民有ニ歸シテ居ル土地ガ經營宜シキヲ得ズシテ、荒蕪ニ委セラレタルモノガ、約百二十萬町歩アルノデアリマス、是ハ道廳ノ調査決シテ間違ハアリマセヌ、其中ニハ所謂過大農場トカ、若クハ不在農場ト云フモノガアリマシテ、サウシテソレ等ノ大面積ノ土地ガ荒蕪ニナツテ居ル、サウ云フノガ所々ニアルノデアリマスカラ、ソレガ既成部落ト奧地トノ間ヲ遮斷シテ居ルカラ、奧地ニ立派ナル土地ガアリマシテモ、移民ノ招來ヲ妨ゲ、拓殖ノ進捗ヲ阻止スルト云フコトニナル、斯ウ云フヤウナ現狀デアアルノデアリマス、此原因ハドウ云フ事デアカト申シマスレバ、地主ガ資金缺乏シテ、サウシテ此開墾ヲ進メルコトノ餘力ガナイト云フコトガ一ツデアリマス、他ノ一ツハ、而モ其主ナル原因ト吾々ガ考ヘテ居ルノハ、土地分配ノ平衡ヲ失ツタ事デアアルノデアリマス、此土地分配ノ平衡ヲ失ヒタル理由ハ、開拓ノ初ニ於テ大ナル資本ト大ナル力ノ人ヲ招致スル必要上、大面積ノ土地ヲ附與シタコトガ、其主ナル原因ト信ズルノデアリマス、先程坂東君モ此點ニ付テ縷々論及サレタノデアリマスガ、先ヅ多クハ開拓ノ初ニ於テ斯ノ如キ處分ヲシタノデアアル、今日カラ申セバ此土地ノ處分ト云フモノニ付テハ、餘程ノ議論ガアルノデアリマスケレドモ、併ナガラ是ハ過去ノ事デアアル、今ヨリ彼此レ議論ヲ致シマシテモ效ハ無イノデアリマス、唯今日ニ於テハ之ヲ如何ニスルカ、之ニ處スルノ途ハドウ云フ方法デアアルカト云フコトヲ研究スルヨリ途ハナイト私ハ信ズルノデアリマス、即チ之ニ處スルノ途如何ト申

セバ、本法ノ如キ制度ヲ設ケ、サウシテ之ヲ整理シ、分割シ、分配ヲ適當ニシ、一方ニ於テハ土地ノ利用ヲ完フシ、國富ノ増進ヲ圖ルト同時ニ、他ノ一方ニ於テハ、實質剛健ナル所ノ自作農ヲ扶殖スルニアルト申スヨリ外ハナイト私ハ信ジテ居ルデアリマス、論者ハ或ハ申シマス、此案ハ地主救済デアルト、先刻モサウ云フ意味ノ御話ガアリマシタ、今地主ガ困難ニ陥ッテ居ルノハ自業自得デアアル、斯様ナ地主ヲ救済スル必要ハナイデハナイカト云フ議論ガアルデアリマス、是ハ一應尤ト考ヘルノデアアル、確ニ半面ノ眞理ハアルデアリマス、併ナガラ此法案ノ如キ制度ヲ採ラズシテ、何時迄モ此大面積ノ土地ヲ抛擲シタト考ヘタナラバ、如何ナル結果ヲ來スノデアアルカ、此處ヲ一ツ諸君御考ヲ願ヒタイノデアリマス、地主ハ勿論先程申シタヤウニ自業自得デアアルカラ已ムラ得ナイト致シマシテモ、第一ニハ土地ノ利用ヲ缺イテ、所謂天物ヲ暴殄シ、サウシテ國家ノ不利益ヲ來スト云フコトハ、第一今日ノ如ク國力ノ充實ヲ最モ急務トスル我ガ國柄ニ於テハ、一層其切實ヲ感ズルノデアリマス、第二ニハ何時マデ經ッテモ自作農ヲ創定スルコトガ出來ナイ、少クトモ北海道ニ於テハサウデアアル、隨テ農民ヲシテ生活ノ安定ヲ得セシムルコトモ出來ナケレバ、又吾々ノ眼前ニ横ッテ居ル大問題タル人口問題、食糧問題、勞働問題乃至思想問題モ中々容易ニ解決ガ付カヌト思フノデアリマス、又本法實施ノ曉ニハ土地ノ價格ガ上ツテ、地主ニ不當利益ヲ與ヘ、隨テ買受人ヲ苦シメルト云フヤウナ説モアルデアリマス、成程是モ一應御尤デアリマス、本法ヲ實施シタナラバ、多少土地ノ騰貴ヲ見ルコトモアリマセウ、併ナガラ本法成立ノ上ハ、先程申シマシタ農事特別處理委員會ト云フモノガ出來ルデアリマス、此委員會ヲ疑ヘバ、成程坂東君ノ御説ノ如キ色々ナ議論モ出マセウケレドモ、先ヅ公平ナル委員會ヲ設定スルト致シマシテ、其機關ニ依テ買收價格、或ハ其他ノ賣拂、分割、整理等ノコトヲ行ハシメタナラバ、決シテ地主ヲシテ不當ノ利益ヲ得セシムルト云フコトハ萬々無イト私ハ信ジテ居ルデアリマス、ソレカラ次ニ北海道ニ於ケル小作ト地主ノ割合ハドウナツテ居ルカト云フコトヲ一言御話申上ゲテ置キタイノデアリマス、北海道ノ農業戶數ハ大正七年ニハ十八萬九千三百餘アッタノデアリマス、其中テ自作ガ八萬餘デアリマスガ、自作兼小作、又小作、此兩方ヲ合セマスト十萬四千餘ニ

ナツテ居リマス、即チ之ヲ百分比例デ申シマス、自作ガ四十二「パーセント」餘デアリマシテ、小作並ニ小作業自作ハ五十六「パーセント」餘ニナツテ居ル、ソレガ五年後ノ大正十一年ニ至リマスト云フト、自作ガ減リマシテ六萬六千六百三十一ト云フコトニ減少ヲ來シタノデアリマス、サウシテ自作兼小作並ニ小作ハ十一萬餘ニ達シタノデアリマス、之ヲ「パーセント」カラ申シマスト自作三七・五デアリマシテ、其他ノ者ガ六十二・五ト云フコトニナツテ居ルデアリマス、斯ノ如ク年々段々ト自作ハ減リ、小作ハ殖テテ行ク状態デアリマスガ、是ハ實ニ吾々ハ北海道ノ爲メ、否、國家ノ爲メ深憂ニ堪ヘナイノデアリマス、諸君、遠ク墳墓ノ地ヲ離レ、昔ノ所謂「蝦夷ガ島根」ニ參リマシテ、誰カスキ好ンデ小作人トナル者ガアリマセウカ、而モ是等ノ移住民ハ積極進取ノ氣象ニ富ンデ、前途有爲ノ者デアアルデアリマス、然ルニ小作人トナツテ居ルノハ何故デアルカト申セバ、四圍ノ環境上蓋シ已ムラ得ヌモノガアルガ爲ト思フノデアリマス、所ガ北海道廳ニハ斯ノ如ク一旦北海道へ移住シテ、農業者、即チ小作——小作トカ若クハ其他ノ勞働ニ從事シテ居ル者ニ、土地ヲ貸與スルト云フコトガナイノデアアル、現今ノ制度ノ下ニ於テハ自分ガ土地ヲ買フダケノカラ——資金ヲ得ナケレバ永久ニ小作人ニナツテ、小作人ニ甘ンゼナケレバナラヌト云フコトガアル、尤モ或ル一地方ニ行キマスルト、其制限ハ多少解カレテアルヤウデアリマスガ、決シテ一般的デハナイノデアアル、此點カラ申シマシテモ、此法案ノ成立ヲ希望スル次第デアリマス、又、論者ノ中ニハ本法案ノ政府ノ補給金ニ對シテ、政府ハ絕對ニ贊成シナイカラ云々ト云フコトヲ先程申シタノデアリマス、是ハ議員ガ與ヘラレタル權能ニ依テ、所謂法律案ヲ提出シタノデアリマスカラ、必シモ政府ガ同意シナクテモ法律案ヲ通過セシメルト云フコトハ、困難デナイト云フコトハ先刻來其例ハ多々アルデアリマス、又此法案ハ我國ニ於テ始メテノ新シキ試ミデアアルカラ、其成績ニ付テ疑ヲ持ッテ居ル者モアル、是ハ尤デアリマス、此制度ハ歐洲ニ於テ古クカラ實行サレテ居ルノミナラズ、北海道ニ於テモ或ル特殊ノ二三ノ者ハ此實行ヲ試ミテ、サウシテ非常ニ好結果ヲ得テ居ルノデアリマス、決シテ不成功ニ終ルコトハ私共ハ萬々ナイト深ク信ジテ居ルノデアリマス、又先刻色々坂東君カラ此案ニ反對ノ説明ヲ聽キマシタガ、

大地主ニ不都合ガアルト云フコトヲ頻ニ責メラレタ、併ナガラ私共ハ大地主ガ不都合デアルカラ、此法案ノ必要ヲ感ズルノデアアル、若モ地主ガ立派ニヤツテ、例ヘバ曩ニ列擧サレタル如ク蜂須賀侯爵ノ農場トカ、或ハ松平農場ノ如キモノガアルナラバ、決シテ此法案ノ必要ハ生ゼナイ、雷之ヲヤツタ爲ニ地主ヲ救フカラソレハ不都合ダト云フヤウナコトハ見解ノ相違——見様ニ依リマスケレドモ、併ナガラ地主ト雖モ正當ニ土地ヲ持ッテ居ルノデアリマスカラ、値ニ相當スルダケノモノハ拂ハナケレバナラヌト云フコトハ言フマデモナイ話デアアル、而シテ此大地主ガ不都合デアアルカラト云ツテ、其土地ヲ沒收スル譯ニハ勿論參ラス、永久ニ置クト云フコトナレバ、其土地ノ利用ヲ全ク閉サレテシマツテ、サウシテ永久ニ國家ノ此天物ヲ暴殄スルト云フ結果ニ終ラナケレバナラヌノデアリマスカラ、又此邊ハ坂東君ニ御再考ヲ煩シタイ譯デアリマス、又色々ノ説ガアリマシタガ、私ハ一々ソレニ對シテ反駁ヲ加ヘ、又辯解スルダケノ失禮ナガラ徳ハ無イト私ハ斷言スルノデアリマス、而シテ先程栗林君ノ御説モアリマシタガ、此法案ハ吾々同志ハ明治四十年來提唱シタ問題デアリマス、サウシテ殆ド歴代ノ長官モ亦贊成ヲ表シ、又北海道大學ノ博士、或ハ道廳ノ高級ノ技師、其他拓殖銀行等ノ者モ殆ド悉ク此法案ノ成立ニハ贊成ヲシテ居ル次第デアリマス、又北海道會トシテハ、殆ド年々歲々是ガ建議ヲ爲シ、又栗林君ノ御話ノ如ク、北海道ニ於ケル所ノ有ユル政黨ハ此問題ヲ政綱ニ掲ゲテ居ルノデアリマス、然ルニ坂東君ノ如キ有識ナル所ノ政治家ガ、此案ノ成立ニ反對スルト云フコトハ、甚ダ私トシテハ遺憾ニ思フノデアリマス、尤モ一年延シテ研究シタラ宜カラウト、斯ウ云フ御説明モアリマシタガ、一年延シテモ三年延シテモ、ソレハ宜イカモ知レマセヌガ、今日吾々ガ衆議院ニダケモ此法案ヲ提出シテカラ、今日マデハ建議案デアリマスルガ十二年ヲ經テ居ルケレドモ、歴代ノ政府ハ少シモ誠意ガナイ、故ニ已ムヲ得ズ今年ハ此法律案トシテ提出シタ次第デアアルノデアリマス、要スルニ本法案ノ實施ノ曉ニハ、年々過剩セル人口ヲ調節シ、歲々不足セル所ノ食糧ノ充實ヲ圖ルノミナラス、輒近人心ノ其荒蕪ト云フモノハ日々益甚シクナツテ居ル傾向ガアルガ是ハ何デアアルカト申セバ種々ナル原因モアリマセウケレドモ、此狹隘ナル舊土ニ躑躅シテ、サウシテ煩々擾々トシテ其舊シタ

態ニ泥ム結果ニ外ナラヌト私ハ信ズルノデアリマス、故ニ移民ヲ快濶廣大ナル所ノ新土ニ移シテ、新シキ運命ヲ開拓シ、生氣潑潑タル所ノ文化ト生活ヲ建設セシメタナラバ、蓋シ一般ノ風儀ノ轉換ヲ圖リ、人心ノ振作ヲ促スコトモ決シテ少クナイデアラウト思ヒマス、此見地カラ見マシテモ、此法案ノ成立ハ目下帝國ノ一大急務ト信ズル次第デアリマス、願クハ諸君ノ御贊同ヲ仰グト同時ニ、貴族院並ニ政府諸公モ活眼ヲ開カレテ、大所高所ヨリ御贊同ヲサツテ、サウシテ本法案ノ成立ニ盡力セラレンコトヲ希望スル次第デアリマス、甚ダ冗長ノ辯ヲ弄シテ恐縮デアリマシタ

他ニ通告者ナク討論ハ茲ニ終局ス

院議異議ナク本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ委員會報告ノ通修正議決ヲ爲シ即日之ヲ貴族院ニ送付シタルモ同院ハ議決ヲ爲スニ至ラサリキ

二四 家祿引直處分法案

第一條 明治二年藩政改革ノ爲減祿ヲ受ケタル舊和歌山藩士族中同年十二月二日ノ太政官布告ノ祿制率ヨリ多額ノ減祿ヲ受ケタル者ハ祿制ノ率ニ引直シ其ノ不足額ヲ明治三十年法律第五十號第一條ニ準據シテ給與ス

第二條 本法ノ給與ヲ受ケムトスル者ハ本法施行ノ日ヨリ一年以内ニ其ノ理由及證據ヲ具シ地方廳ヲ經由シテ大藏大臣ニ願出ツヘシ

第三條 本法ニ規定ナキモノハ明治三十年法律第五十號ノ規定ヲ適用ス

右ハ十四年三月三日隅田豊吉君外五名之ヲ提出ス三月十日本案ノ第一讀會ヲ開キ提出者(隅田豊吉君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

提案者ノ一人ト致シマシテ、本案提案ノ趣旨ヲ簡單ニ說明致シマス、提案ノ要旨ハ明治二年二月十五日ニ和歌山藩ガ其藩政改革ニ當リマシテ、一大英斷ヲ以テ士族ノ處分ヲ致シマシタ爲ニ、祿制ノ大改革ヲ致シタノデアリマス、而モ其祿制ノ改革ハ寧ロ苛酷峻嚴ト稱セラル、程非常ニ減祿ヲ致シタノデアリマス、從來ノ祿高ノ十分ノ一、甚シキハ二十分ノ一ニ減祿致シタモノデアリマシテ、本案ハソレヲ明治二年十二月二日朝廷ニ於テ旗本土族ノ祿高ノ整理ヲ致シタ爲ニ祿制ヲ公布セラレタ、其太政官ノ布告千百四號ニ準據致シマシテ、引直シテ處分ヲ致シテ貫ヒタイト云フ趣意ナノデアリマス、御承知ノ如ク、徳川幕府ガ倒レマシテ王政ガ復古シ、明治ノ新政府ニナリマシタ當時ニ於テ、廟堂ニ於ケル所ノ我ガ政治家ガ、何ニ心ヲ痛メ、頭ヲ惱マシタカト申シマスルト、申スマデモナク、各藩ノ藩政ノ改革乃至士族ノ處分デアッタノデアリマス、其當時ニ於キマシテハ東北即チ奥羽、北海道ニ於テハ戰塵ガ尙ホ熄ンデ居リマセヌ、人心恟々甚ダ不安ノ裡ニ國政ヲ執ッテ居タノデアリマス、ソコデ廟堂ニ於ケル所ノ大政治家、即チ岩倉公、三條公ノ如キハ、如何ニシテ此王政復古ノ實ヲ舉グル爲ニ藩政ノ大改革ヲ爲シ、士族ノ處分ヲ致スベキカト云フコトヲ審議セラレタ上ニ於テ、先以テ徳川親藩ノ一タル所ノ紀藩ニ命ジテ其大改革ヲ爲サシメ、而シテ他藩ニ模範ヲ示サセヤウチヤナイカト云フコトニ端緒ヲ發シマシテソコニ廟議ガ一決致シマシテ、慶應四年十二月二十九日、即チ明治元年十二月二十九日ニ朝廷ヨリ紀州侯ノ先代徳川茂承侯ニ向ッテ勅旨ヲ降シテ、貴藩ハ他藩ニ卒先シ、先ヅ藩政ノ大改革ヲセヨト云フ嚴命ヲ下サレタノデアリマス、其勅旨ヲ奉戴致シマシテ、紀藩ニ於テハ大英斷ヲ以テ改革ニ著手シ、前ニ申上ゲマス通りニ士族ノ大減祿ヲ致シタノミナラズ、此士族ノ大減祿ヲ致シタルモノヲ以テ

茲ニ郡縣ノ制ヲ布キ、更ニ徵兵令ヲ布キ、而シテ遠ク獨逸ヨリ士官ヲ聘備致シマシテ、今日ノ陸軍ノ兵制ヲ布イタノデアリマス、左様ニ致シマシテ尙ホ大砲二百門、小銃二萬挺ト云フモノヲ、其後ニ於テ陸軍ニ獻納致シタ事實モアルノデアリマス、斯ノ如ク紀藩ハ大犧牲ヲ拂ッテ大改革ヲ爲シテ、ソレニ依リマシテ朝廷ニ於キマシテハ他藩ニ命ジマシテ、即チ明治二年六月二十五日ニ他藩ノ改革ヲ爲サシメタ次第デアリマス、其他藩ノ改革タルヤ、士族ノ處分ニ付テハ減祿ハ二分ノ一乃至四分ノ一デアリマシテ、之ヲ紀藩ノ士族處分ニ比較致シマス、非常ナル懸隔ガアッタモノデアリマス、他藩ノ改革ハ區々デアリマシタガ、其後ニ於キマシテ旗本土族ノ處分ヲスベク、即チ明治二十二年十一月二日ニ祿制ヲ布カレタモノデアリマス、其祿制ニ依リマシテモ、尙ホ紀藩トハ大懸隔ヲ有シテ居ルモノデアリマス、所デ其後ニ於キマシテ、明治二十年ニ法律第五十號ヲ以テ——明治三年九月十一日以後ニ於テノ家祿賞典祿ノ錯誤處分ニ對シテハ、其明治三十年ノ法律第五十號ヲ以テ救濟セラル、ト云フコトニ相成ッタモノデアリマス、併ナガラ紀藩ガ大英斷ヲ以テ、天下國家ノ爲ニ爲シタル所ノ減祿ノ此改正ニ付キマシテハ、明治三十年ノ法律第五十號ハ、明治三年ノ太政官布告ニ準據シナイト云フ意味ニ依テ、其恩典ニ浴スルコトガ出來ナカッタ次第デアリマス、然ルニ紀藩ノ大改革ニ付テハ前ニ申上ゲマシタ通り、國家ノ爲メ非常ニ犧牲ヲ拂ッテ居リマス次第デアリマス、故ニ、此家祿ノ不公平ナル所ノ處置ニ對シテ引直シテ貫ヒタイト云フ所ノ意見ハ、明治二十二年ヨリ三十三年ニ互リマシテ本院ニ現レマシタ、而シテ三十三年ニハ本院ヲ通過致シテ居ルノデアリマス、更ニ近ク第四十五議會乃至第四十六議會ニ於キマシテハ、此法案ト一字一句モ相違ナキ所ノ法案ガ、滿場一致ノ御可決ノ下ニ本院ヲ通過致シマシタ次第デアリマス、遺憾ナガラ貴族院ニ於テハ審議ノ餘日ガ無イト云フコトノ爲ニ、握潰シノ運命ニ遭遇シテ所ノ不幸ナル法案デアアルノデアリマス、幸ニ諸君ハ第四十五議會乃至第四十六議會ニ於テモ通過致シテ居ル法案デアアルノデアリマス、故ニ、無論御協贊ヲ願ハルルコト、存ジマス次第デアリマス、詳細ノ點ハ委員會ニ於テ申述ベル次第デアリマス、何卒御協贊ヲ只管御願スル次第デアリマス、尙ホ本案ニ關係致シテ居ル所ノ事ハ、色々錯綜致シテ居リマスガ爲ニ、此處ニ此關係ノ書類ヲ拔萃ヲ致シテ居リマスガ、議長ノ許可ヲ得テ速記録ニ登載

ヲ致シタイト存ジマスガ故ニ、ドウカ御許シテ願フテ置キマス
 次テ本案ハ村山喜一郎君提出所得税法中改正法律案(四)外六件委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會
 ハ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月十八日報告書ヲ議長ニ提出セリ
 三月十九日本案ハ村山喜一郎君提出所得税法中改正法律案(四)外一案(五)ノ兩案ト一括シテ其ノ
 第一讀會ノ續會ヲ開ク(委員會ノ經過ハ本項(四)參看)
 院議異議ナク本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ委員會報告
 ノ通可決確定シ即日之ヲ貴族院ニ送付ス同院ハ三月二十七日第二讀會ヲ開カサルニ決シ即日其ノ
 旨ヲ本院ニ通知セリ

二五 新聞紙法中改正法律案

新聞紙法中左ノ通改正ス
 第二條第四號中「又ハ執行猶豫中」ヲ削ル
 第四條第七號ヲ左ノ如ク改メ第八號ヲ削リ第二項中「持主又ハ其ノ法定代理人ノ連署シタル」ヲ
 削ル
 七 發行人ノ氏名年齢

第五條中「又ハ持主、編輯人、印刷人」及但書ヲ削ル
 第八條第一項中「若ハ編輯人」及「若ハ假編輯人」、第二項中「及編輯人」及「假編輯人」ヲ削ル
 第九條中「編輯人ノ責任」ヲ「發行人ノ責任」ニ改メ第一號ヲ削リ第二號ヲ第一號ニ第二號ヲ第二
 號ニ改ム

第十條中「編輯人、印刷人」ヲ削ル
 第十五條中「又ハ編輯人」ヲ削ル
 第十七條第一項ヲ左ノ如ク改メ第二項ヲ削ル

新聞紙ニ掲載シタル事項ノ錯誤ニ付本人又ハ直接關係者ヨリ正誤又ハ正誤書辯駁書ノ掲載ヲ
 請求シタルトキハ其ノ請求ヲ受ケタル後日刊新聞紙ニ在リテハ第五回迄ノ發行ニ於テ、日刊
 ニ非サル新聞紙ニ在リテハ第二回迄ノ發行ニ於テ正誤シ又ハ正誤書辯駁書ヲ掲載スルコトヲ
 要ス但シ其ノ正誤辯駁書長文ニ互ルトキハ其ノ要旨ヲ掲載スルコトヲ得正誤又ハ正誤書辯駁
 書ハ原記事ト同一面ニ掲クルコトヲ要ス

第十七條ノ二 發行人ハ左ノ場合ニ限り正誤又ハ正誤書辯駁書ノ掲載ヲ拒ムコトヲ得
 一 正誤カ却テ事實ニ反スル確證アルトキ
 二 日刊新聞紙カ同一事項ノ續報トシテ次ノ發行ニ於テ同一面ニ依リ明確ニ正誤シタルトキ

三 掲載ノ日ヨリ一年ヲ經過シタルトキ

第十九條 新聞紙ハ豫審ノ終結決定前豫審判事ノ爲シタル審問事項中當該判事ノ差止メタル部
分ヲ掲載スルコトヲ得ス委託ニ依リ記事ノ掲載ヲ差止メタル場合委託裁判所カ右差止ヲ解除
シタルトキハ受託裁判所カ解除ヲ爲ササルトキト雖新聞紙ニ對シテ效力ヲ生ス

第二十條中「掲載スルコトヲ得ス」ノ下ニ「但シ慣例ニ依リ支障ナキモノハ此ノ限ニ在ラス」ヲ加
フ

第二十三條 内務大臣ハ左ノ場合其ノ新聞紙ノ發賣頒布ヲ禁止シ必要アルトキハ之ヲ差押ヘ爾
後同一事項ノ掲載ヲ禁止スルコトヲ得

一 皇室ノ尊嚴ヲ冒瀆スル事項ヲ掲ケタルトキ

二 作戰及動員ニ付陸海軍大臣カ命令ヲ以テ差止メタル事項ヲ掲ケタルトキ

三 目的及方法ヲ指示シテ直接暴動ヲ煽動スル事項ヲ掲ケタルトキ

四 著シク風俗ヲ害スル事項ヲ掲ケタルトキ

前項ノ命令ハ其ノ新聞紙ノ版別アルモノニ付テハ版別ヲ表示シ且當該事項中ノ違反箇所ヲ指
示スヘシ

本條ノ命令及之ニ依ル行政官廳ノ處分ヲ不當ナリトスルトキハ行政裁判所ニ出訴シ命令及處

分ノ取消竝直接被リタル損害ノ賠償ヲ求ムルコトヲ得

第二十四條中「安寧秩序ヲ紊シ又ハ風俗ヲ害」ヲ「前條第一項ニ該當」ニ改ム

第二十七條 削除

第二十八條中「又ハ編輯人」及「三月以下ノ懲役又ハ」ヲ削ル

第二十九條中「三百圓」ヲ「五十圓」ニ改ム

第二十條中「百圓」ヲ「五十圓」ニ改ム

第二十一條中「及編輯人ヲ百圓」ヲ「五十圓」ニ改ム

第二十二條中「百圓」ヲ「五十圓」ニ改ム

第二十三條中「及編輯人ヲ百圓」ヲ「五十圓」ニ改ム

第二十四條中「三百圓」ヲ「百圓」ニ改ム

第二十五條中「第二項」ヲ削リ「編輯人」ヲ「發行人」ニ改ム

第三十六條中「編輯人ヲ五百圓」ヲ「發行人ヲ五十圓」ニ改ム

第三十七條中「編輯人ヲ三月以下ノ禁錮又ハ二百圓」ヲ「發行人ヲ五十圓」ニ改ム

第三十八條中「第四十三條ニ依ル禁止ノ裁判」ヲ削リ「編輯人ヲ六月以下ノ禁錮又ハ三百圓」ヲ
「百圓」ニ「二百圓」ヲ「百圓」ニ改ム

第三十九條中「六月以下ノ禁錮又ハ三百圓」ヲ「五十圓」ニ改ム

第四十條 削除

第四十一條 削除

第四十二條 削除

第四十三條 第二十三條第一號乃至第四號ニ該當スルトキハ發行人ヲ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十五條 新聞紙ハ誤報ヲ掲載シ且其ノ正誤又ハ正誤書辯駁書ノ掲載ヲ拒ミタルトキニ非サ

レハ刑事事及民事ニ關シ責ヲ負フコトナシ但シ陷害ニ出テタル場合又ハ正誤、正誤書若ハ辯駁

書ノ掲載方カ惡意ニ出テタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

名譽回復ニ關スル廣告ハ被告ノ新聞紙ニ爲スモノトス

本條ノ訴ハ一年ヲ以テ免責時効トス

附 則

本法ハ大正十四年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

右ハ十四年三月三日頼母木桂吉君外五名之ヲ提出ス三月十日本案ノ第一讀會ヲ開キ贊成者(石川安次郎君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

新聞紙法ノ改正、此案ハ單リ新聞社、新聞記者ニ關係スルバカリデナク、日本ノ文化ニ大關係ヲ

持ッテ居ル問題デアリマシテ、勿論黨派ノ問題デナイノデアリマス、私ハ本案ノ如キハ、殆ド説明ヲ要セズシテ御協賛ヲ得ルコト、思ヒマスケレドモ、簡單ニ申上ゲタイ、現行新聞紙法ハ凡ソ十六年前ニ改正ニナッタモノデアリマスルガ、是ハ舊新聞紙條例ヲ根柢トシテ聊カ訂正シタ位ノモノデアリマシテ、此爲ニ新聞紙ノ發達ヲ妨ゲ、新聞社ノ苦シムコト、今日モ依然トシテ舊新聞紙條例ノ時ニ苦シムヤウナ結果ガ非常ニ多イノデアリマス、故ニ今日之ヲ改メタイト云フノデ種々ナル細目ニ互ツタ改正案ヲ提出シタノデゴザイマスガ舊新聞紙條例ナルモノハ——日本ノ新聞紙ハ極メテ新シイ仕事デアリマシテ、昔ニハ無カッタガ、維新開國ノ後ニ出來テ、初ハ自由デアッタノニ閥族官僚ノ徒、日本憂國ノ志士ガ此新聞紙ニ依テ政府ヲ攻撃シ、政府ノ缺點ヲ攻撃スルト云フコトヲ憤ッテ、此新聞紙條例ノ武器ヲ以テ民間ノ志士ヲ壓迫シタル歴史ハ、日本ノ文化史ニ一大汚點ヲ印シテ居ッタモノデアリマス、是ガ爲ニ天下ノ名士ト稱セラレタル、其當時ノ新聞記者ノ優秀ナル方々ハ多ク牢ニ打込マレタ、成島柳北、末廣重恭、或ハ藤田茂吉ナド、云フ故人ニナッタ名士モ牢ニ這入ラレマシタガ、現ニ本院ノ一席ヲ占メラレテ居ル政界ノ長老箕浦勝人先生ノ如キモ、此新聞紙條例ニ依テ牢獄ノ慘苦ヲ嘗メラレタト云フコトハ明ナル事實デアリマス、而シテ新聞紙條例ガ既ニ此長イ間吾々新聞記者ヲ苦シメ新聞紙ニ關係セラレタル所ノ方々ハ、例ヘバ犬養先生ノ如キ、尾崎先生ノ如キ、或ハ加藤政之助先生ノ如キ、現ニ本院ニ在ラレル方々ハ、既ニ新聞記者時代ニ十分ニ御體験ニナッテ居ルノミナラズ、此新聞紙法ガ改定サレテカラ後デモ、舊新聞紙條例ノ如ク甚シクハナイケレドモ、尙ホ閥族官僚ノ徒ガ非常ナル壓迫ヲ加ヘントシテ出來タル所ノ種々ナル箇條ハ、新聞紙ヲ大變ニ壓迫シテ、新聞社ニ從事シテ居ル所ノ人々ヲ非常ニ苦シメ、現ニ内閣總理大臣ノ地位ニ居ラレル所ノ加藤高明子爵ノ如キモ、東京日日新聞社ヲ御經營ニナッタル當時ニ、此新聞紙條例ノ不可ナルコトハ、十分ニ御體験ニナッタコト、確信シテ疑ハナイ、又政友本黨ノ總裁ノ地位ニ居ラレル所ノ床次竹二郎君モ、暫クノ間東京毎夕新聞ノ社長トナラレテ居ッタカラ、確ニ此新聞紙法ノ宜クナイコトハ十分ニ御體験ニナッテ御承知ノ事ト存ジマスル、是ハ殆ド議論ノ無イ事デアリマシテ、今日此改正案ガ此議場ニ現レテ、此議會ヲ通過

シテ政府ノ方々、總理大臣モ、政友本黨ノ總裁モ、喜ンデ是ハ一致デ以テ御改正ニ相成ルベキコト、私ハ確信シテ疑ハヌ者デアリマス、殊ニ此新聞紙ガ斯ノ如クニ、斯ウ云フ酷イ舊新聞紙條例カラ、ソレヲ少シク改メタル新聞紙法ニ依テ壓迫セラレルニモ拘ラズ、日本ノ新聞紙ハ如何ニモ色マナル人ノ努力ニ依テ駭々トシテ進歩シ、日露戦争ノ後、「ボイツマス」會議ノ後私共世界ヲ一周シテ歸タル時ニ、日本ノ新聞紙ノ世界ニ於ケル公評ハ、「スエズ」以東ニ於テ日本ノ優良ナル新聞ニ及ブモノハナイ、「スエズ」以東ニ於テハ、新聞界ニ於テハ日本ノ新聞ガ一番良イト云フ公評デアリマシタガ、爾來二十年、日本ノ進歩ハ日本ヲ二大強國ノ一ニ上スマデニ駭々トシテ進ム、其進歩ヨリモ更ニ新聞界ノ努力ノ結果トシテ、此進歩ハ餘程著シク、吾々ハ最近ニ西洋各國ノ輿論ヲ聞イテ見テモ、倫敦ノ一二ノ新聞、紐育ノ一二ノ新聞ノ外ハ、日本ノ最優良ノ新聞ニ及ブモノハナイ位デ、今此新聞紙法ノ壓迫アツテサヘ是ダケニ進歩シタル所ノ日本ノ新聞紙ハ、茲ニ總理大臣、政友本黨ノ反對ノ方々、與黨三派ノ方々、無所屬ノ方々、總テノ人々ニ依テ新聞紙法ノ改正ヲ行ツテ、新聞紙ニ對スル壓迫ヲ除イテ、此自由ナル進歩ヲ遂ゲシメタナラバ、私ハ文化ノ標準トナルベキ新聞紙ガ、倫敦、紐育ノ新聞紙ヲ壓倒シテ、世界ノ新聞ノ最モ優良ナルモノトナルコトハ疑ナイト思フ、是レ新聞紙ノ爲ニ言フニアラズ、日本ノ文化ノ爲メ、國民ノ爲メ、新聞紙ニ對スル國論ノ間ニハ往々ニシテ種々ナ風評ヲ聞ク、吾々モ亦甚ダ不満足デアアル、而シテ其缺點ハ一二ニ止ラズ、記者ニ責任アリ、或ハ經營者ノ責任トスベキモノガアル、併ナガラ其新聞紙ノ發達ガ、遅々トシテ進マザル最大原因ハ、閣族官僚ノ遺シタル新聞紙法ナルモノハ、茲ニ之ヲ撤廢スルコトハ、日本ノ文化ノ爲ニ吾々ガ爲サザルベカラザル事デアアルト確信シテ疑ハザル者デアリス、諸君、ドウゾ國ノ爲ニ、文化ノ爲ニ、滿場一致ヲ以テ御協賛アルヤウニ、細目ニ至ツテハ委員會ニ於キマシテ、更ニ十分ニ御説明ヲ提出者ノ方カラ致スノデゴザイマセウ

次テ本案ハ議長指名(二十八名)ノ委員ニ付託スルニ決シ即日議長之ヲ指名ス委員ハ翌十一日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月十八日報告書ヲ議會

長ニ提出セリ

三月十九日本案ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長横山金太郎君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

只今議題ニナリマシタ新聞紙法中改正法律案ニ付キマシテ、委員會ノ經過竝ニ結果ヲ報告致シマス、詳細ハ特別委員會ノ速記録ニ讓リマシテ、極メテ大體タルヲ申上ゲテ置マス、本案ノ改正ハ三十一箇條ノ多キニ涉ツテ居リマスルケレドモ、之ヲ大別致シマスルト、約ソ四ツニ分ツコトガ出來ルノデゴザイマス、第一ハ新聞紙ノ發行ニ付キマシテ、現行法ハ編輯人、印刷人、發行人、持主ト云フ、多數ノ責任者ヲ規定シテ居ルノデゴザイマスルガ、斯ノ如キハ實情ニ適シテ居ラヌ、即チ編輯人、印刷人ノ如キハ有名無實ノ者ガ澤山アル、又持主ニ責任ヲ負ハシムルコトハ、往々ニシテ不合理ノ場合ガ澤山アルカラ、之ヲ改正シテ、一纏メニシ、一切ノ責任ヲ發行人ニ歸セシメタイト云フノガ一ツデゴザイマス、第二ハ現行ノ十九條ノ記事差止ニ關スル規定ヲ改メマシテ、其差止ノ範圍ヲ明確ニ致シマスルト同時ニ、之ヲ狹メテ濫用ノ弊ヲ妨ギタイト云フノデゴザイマス、第三ハ現行ノ二十三條ノ新聞紙ノ發賣頒布、差押、記事掲載ノ禁止ニ關シテノ改正デアリマシテ、其改正ノ理由ト致シマシテハ、文字ガ甚ダ抽象的デ、範圍ガ廣汎ニ失シテ居ルカラ、列舉主義ヲ執ツテ其弊ヲ矯正致シタイ、斯ウ云フノニ在ルノデアリマス、第四ハ四十三條ノ發行禁止ニ關スル規定ヲ削除致シタイト云フノデアリマス、其理由ト致シマシテハ、此禁止ト云フコトハ實際ニ於テ名ノミデアツテ、效果ガ舉ツテ居ナイ、故ニ新聞紙法ノ規定ヲシテ權威アラシムル爲ニ、之ヲ削リタイト云フコトニ歸著ヲ致スノデアリマス、此四大要綱ヲ中心ト致シマシテ、質問應答ガ四日ノ久シキニ涉ツテ交換セラレタノデアリマス、其結果政府ハ之ニ對シテ如何ナル所見ヲ持ツテ居ルカト申シマス、約メテ申シマス、斯様ナ事ニナルノデアリマス、現行ノ出版法、新聞紙法ハ何レモ其制定以來既ニ三十年乃至十數年ヲ經過致シテ居リマシテ、其規定ノ中ニハ或ハ

社會ノ進運ニ伴ハザルモノガ澤山アル、隨テ改正ヲ要スルモノモ少クナイ、目下政府ニ於テモ銳意ニガ研究中デアリマスケレドモ、元來出版法、新聞紙法ハ共ニ竝ビ立ッテ國家ノ治安保持ト國民ノ言論ノ自由トニ密接ノ關係ヲ持ッテ居ル、又一國ノ文化ノ發達ニ影響スル所ガ極メテ大ナルモノデアアルカラ、是ガ改正ノ如キハ現社會ノ狀勢ニ鑑ミテ、十分慎重ナル考慮ヲ要スベキ重大ナル問題ニ屬シテ居ル、然ルニ今此改正案ヲ見ルト、制定後久シキニ渉ル出版法ノ改正ニ一ツモ及ンデ居ラズ、單ニ新聞紙法ノミヲ一部改正セントスルモノデアッテ、斯ノ如キハ等シク出版物取締法デアアル所ノ出版法ノ適用ニ對シテ、甚ダ權衡ヲ失スルノ嫌アルノミナラズ、又其改正法條ニ付テ見マスルモ、條項中或ハ容易ニ同意シ難キモノガアル、若クハ尙ホ十分ニ慎重ナル研究ヲ要スルト認メルモノガ少クナイカラ、今俄ニ本案ノ改正ニ贊意ヲ表スルコトハムヅカシイノデアルト云フノデアリマス、勿論詳シクハ冒頭ニ申シマシタ如ク、速記録ニ付テ問答ノ經過ノ御覽ヲ願ヒタイノデゴザイマスルガ、之ニ對シマシテ委員側デハ、只今四大要綱ヲ舉ゲ、更ニ改正理由ノ一部ヲ附加ヘテ置キマシタガ、其理由ニ搗テ、加ヘテ斯様ナ論ヲ主張セラレタノデアリマス、新聞紙法ハ中途ニ於テ一度改正ガ出來タノデアアルガ、其改正ガ出來タ瞬間ニ於テスラ、既ニ惡法デアルト云フ聲ガ高カッタノデアアル、況シテ現行法ガ時代ニ適應セザルモノガアッテ、是ガ改正ノ要ガアル、故ニ調査中デアルト云フコトハ政府自ラガ認メテ爭ハヌ所デアアル、殊ニ就中現行法ノ二十條ト云フ内務大臣ノ職權ニ屬スル事項ノ如キハ、實際ニ於テ之ヲ措イテ用ヒナイ、是ダケ重大ナル規定デアアルノニ、實際ニ於テ適用シタモノハ殆ド無イト言ウテモ宜イ位デアッテ、久シキ間空文ニ等シキ狀態ニ放置セラレタノデアアル、隨テ之ヲ改メナケレバナラヌノニ、今日マデ政府ガ調査中デアルト云フコトニ言葉ヲ藉リテ改メナイノハ、政府ノ怠慢ト言ウテモ妨ハナイ、ソレカラ政府ハ來年度ヲ以テ之ヲ提案スルカドウカト云フ問ニ對シテ、提案ノ見込デアアルケレドモ、斷言ハ出來ナイト聲明セラレタノデアアルガ斯ノ如ク政府ノ聲明曖昧ナルノミナラズ、苟モ現在ニ於テ其規定ノ存置ヲ必要トシナイ、其規定アルガ爲ニ却テ言論ノ自由ヲ壓迫シ、文化ノ進展ヲ阻害スルト云フガ如キモノガアル以上ハ、一日寸時ト雖モ早ク改メルノ必要ガアル、特ニ發行

禁止ノ如キハ所謂類似性ト云フモノガ不明確ナルガ爲ニ、今日右ノ方デハ禁止ヲシテ置キナガラ、左ノ方デハ禁止ト同様ナル新聞紙ノ發行ヲ許スト云フガ如キ奇觀ヲ呈セラレテ居ル、即チ何等ノ此發行禁止ノ實效ト云フモノガ舉ッテ居ラズ、其極法文ノ威力ト云フモノハ毫末モ存在ヲ致シテ居ラヌノデアルト唱ヘラレ、乃チ此理由ニ基キ本案ハ原案ノ通り可決スルガ至當ナリト云フコトニ委員會ハ多數ヲ以テ決定致シタ次第デゴザイマス

右ニ關シ則元由庸君ハ政府ニ對シ質疑ヲ爲シ鈴木政府委員之ニ應答ス

則元由庸君ノ質疑

私ハ本案ニ付キマシテ政府ニ二三ノ御質問ヲ致シタイト思ッテ居リマス、吾々ハ現行新聞紙法ノ改正ノ必要ヲ認メルコトハ、敢テ人後ニ落チナイ考デアリマス、只今委員長ヨリ御意見モアリマシタ通りニ、大分古イ昔ニ制定セラレマシタモノデ、時ニ多少ノ訂正ヲ加ヘラレタコトハアリマスルガ、併ナガラ其訂正モ吾々ヨリ見マスレバ、敢テ十分ニ進歩ヲ爲シタモノトハ見ラレマセヌ、又只今委員長ノ御報告ニ依テ見マスルト、政府モ現行法ヲ以テ今日ノ新聞紙法ニ改正ヲ加ヘナクテモ宜イト云フ御考ナクシテ、即チ改正ノ必要アルト云フコトヲ御認メニナッテ居ルト云フコトヲ承ッテ居リマス、茲デ第一ニ御尋ヲ致シタイノハ、既ニ先日普通選舉法モ當院ヲ通過致シマシテ、是ハ言フ迄モナク政府ノ提案ニ係リマス所ノ改正案デアリマス、此改正案ヲ御提出ニナラザルト雖モ、此新聞紙法ト云フモノハ既ニ改正ノ必要ニ迫ッテ居ル、況ヤ普通選舉實施ニナリマシタナラバ、即チ此新聞ノ威力ト云フモノガ非常ニ大ヲ加ヘマシテ、隨テ言論ノ自由ヲ確保スルト云フコトハ言フ迄モナイコトデアラウト思ヒマス、然ルニ政府ハ只治安法ナルモノ、一ツノ法律案ノミヲ御提出ニナリマシテ、此選舉法改正ニ伴フ必要ナル所ノ新聞紙法、及出版法ノ改正案ノ御提出モナシ、又結社若クハ此治安法等ニ付キマシテ、幾多言論界ニ必要ナル所ノ此法案ノ御提出ニナラナカッタノハ、如何ナル理由ニ基クモノデアアルカト云フコトヲ御伺致シテ置キタ

イノデアリマス、第二ニハ此法律案ニ依リマスレバ、果シテ社會ノ秩序ヲ維持スルコトノ出來ルヤ否ヤト云フ問題デアリマス、言論ノ自由ヲ十分ニ確保ヲ致サレルト云フコトハ、言フ迄モナイコトデアリマス、現行法ヨリモ更ニ一層ノ自由ヲ得ナケレバナラナイト云フコトハ、是ハ論ヲ俟タヌ事デアリマス、併ナガラ他ノ一面ヨリ見マスルト、此自由ヲ惡用シ、若シクハ害用ヲ致シマシテ、爲ニ社會ノ秩序ヲ害シ、公安ヲ破リ、或ハ一個人ノ名譽ヲ毀損スルト云フヤウナコトガアリマシタナラバ、是亦十分ニ取締ラナケレバナラス、現行法制定後、此新聞ノ威力ト云フモノハ年ト共ニ進ミマシテ、今日ハ偉大ナル勢力ヲ持ッテ居ル場合デアリマスカラ、特ニ一層此點ニ注意ヲ致サナケレバナラヌト私共ハ考ヘテ居リマスガ、政府ノ見ル所ニ依レバ、此改正案ニ依リマシテ、果シテ十分ノ取締ガ出來ルト云フコトヲ、御認メニナルヤ否ヤト云フコトデアリマス、第三ニ政府ニ御伺ヲ致シテ置キタイノハ、今日現ニ行ハレテ居リマスル幾多ノ法律案ノ中ニ、刑ガ金刑ニ係リマスモノハ、幾多社會ノ經濟上等ノ問題ニ基キマシテ、何レモ金額ヲ引上ゲマシテ重ク罰シテ居ル傾向ガアルノデアリマス、然ルニ此法案ヲ見マスルト、或ハ現行法ヨリ致シマシテ十分ノ一ニ減額シ、六分ノ一ニ減額シ、三分ノ一ニ減額シ、一番修正ヲ少ク致シテ居ルモノモ尙ホ半減ニ止ッテ居ルノデアリマス、是ハ幾多ノ法律改正ニ於キマシテ、吾々ハ現ニ目撃致シテ居リマスル、此法律改正ノ方法ト自ラ其向フ所ヲ異ニ致シテ居ルヤウニアリマスガ、政府ハ之ヲ以テ宜シキヲ得テ居ルト御考ニナルヤ否ヤ、此點ニ付キマシテ、政府ノ御意見ヲ伺ッテ置キマス

鈴木政府委員ノ應答

新聞紙法中改正法律案ニ付キマシテ、只今則元サンカラ御尋ガゴザイマシタ、簡單ニ御答ヲ致シマス、則元サンハ、衆議院議員選舉法並ニ治安維持法ヲ御引合ニ出サレマシテ、是等ノ法律ガ今回制定サレル機運ニナツタニ付テ、是ト離ルベカラザル關係ニアアル所ノ新聞紙法ノ改正ハ、何故ナサナカッタカ、斯ウ云フコトデアリマシタガ、政府ノ見ル所デハ、衆議院議員選舉法ト治安維持法、是ハ新聞紙ト直接密接ナ關係ガアルモノトモ考ヘテ居ナイノデアリマス、尤モ或ル部分交

又シタ點ハゴザイマスルケレドモ、同時ニ提出シナケレバナラヌ問題トハ考ヘテ居ナイノデアリマス、併ナガラ新聞紙法ハ、頗ル時勢ノ進運ニ伴ハヌモノガアルト云フコトハ、政府モ之ヲ認メテ居リマシタノデ、過ル大正十年ノ原内閣ノ時代ニ一度案ガ出來タヤウデアリマス、然ルニ此案ハ震災ノ當時ニ燒ケタヤウニ承知シテ居リマス、其後ニ於キマシテ又案ヲ作リマシタ、其案ハ出來マシタケレドモ、其所管事務タルヤ内務省、司法省、兩省ニ涉ッテ居リマスルノデ、内務省ノ案ガ出來マシテモ、司法省ノ矢張諒解ヲ得ナケレバ、立派ナ完全ナ案トシテ外へ出ス譯ニモ參ラヌノデアリマス、今日内務省ニ於キマシテハ、案ハ既ニ出來テ居ルノデアリマスルガ、其打合せガマダ濟ンデ居リマセヌカラ、隨テ此機會ニ提出スルコトガ出來ナカッタ次第デアリマスカラ、此點ハ左様御承知ヲ願ヒタイノデアリマス、而シテ新ニ作リマシタ案ノ中ニハ、出版法モ一絡ニ之ヲ規定致シマシタ、名前ヲ出版ト致シマシテ、其中ニ或章ハ新聞紙ヲ規定シ、或章ハ雜誌ヲ規定シ、或章ハ單行本ヲ規定シテ、一ツノ單行法律ニ纏メマシテ出シタイト云フ考ヲ持ッテ居ル次第デアリマス、第二ノ御質問ノ此改正案ヲ以テ果シテ社會ノ秩序ヲ維持シ得ルヤ否ヤト云フ御尋デアリマシタガ、此改正案ノ中ニハ、政府ノ同意致シテ宜イ點モアリマスルガ、同意致シ兼ル點モアルノデアリマス、同意致シ兼ル點ハ、結局是ハ出來上レバ政府ノ意思ニ反スルト云フコトニナリマスルノデ、或ハ之ヲ大袈裟ニ言ヘバ、治安ノ維持ニ差支ガアルデヤナイカト云フヤウナ言葉ヲ用キラレルカモ知レマセヌガ、ソレ程大袈裟ニ言フ程ノモノデモナイカト云フニ思ヒマス、ケレドモ、兎ニ角政府ト致シマシテハ、同意ヲ致シ兼ル點モアルノデアリマス、第三ノ御質問ハ、刑ガ全體ニ輕クナツテ居ルヤウデアアルガト云フコトデアリマスガ、如何ニモ見マスルト、殆ド體刑ハ取除カレテ、科料、罰金ト云フ刑ニナツテ居リマス、今日ノ刑事政策ト致シマシテ、裁量範圍ガ段々廣クナツテ、裁判所ニ適宜ニ之ヲ量定セシメルト云フ趨向ニナツテ居ルト云フコトハ、私モ之ヲ認メルノデアリマス、其方針ニ向ッテハ、此改正案ハ少シ違ッタコトニナツテ居ル次第デアリマス併シナガラ元來ガ此言論、文章ニ關スル罪デアリマスカラ、サウヒドク嚴格ニシナケレバナラヌトイフコトハ、認メテハ居ナイノデアリマスルガ、御質問ノヤウニ、現時刑

事政策ト比較トシテ背馳シテ居ルト云フヤウナ趨向ニ在ルト云フコトハ、御説ノ通りニ言ヘヤウカトモ思ヒマス、併ナガラサウ酷ク罰スル必要ハ無イト私共ハ考ヘテ居ル次第デゴザイマス、次ノ議會ニ必ズ提出ヲスルト云フヤウナ約束ハ、無論當局ト致シテ兼ルノデアリマスルガ、多分次ノ議會ニ間ニ合フデアラウト云フコトダケハ、私共ハ信ジテ居ル次第デゴザイマスカラ、此段御答ヲ致シテ置キマス

討論ニ入り則元由庸君ハ本案ニ反對、横山勝太郎君ハ賛成ノ演説ヲ爲ス

則元由庸君ノ反對演説

私ハ遺憾ナガラ此案ニ反對スル者デアリマス、併ナガラ此新聞紙法ノ改正ノ必要ナシト云フノデハナイ、モウ少シ完全ナルモノニシマシテ、完璧ヲ期シタイト云フ趣意ノ下ニ、本案ニ反對スル者デアリマス、新聞紙法ノ改正ノ必要アルコトハ、只今私ガ政府ニ質問致シマシタ際ニモ申シマシタ通りノ次第デ、吾々不肖ナガラ新聞ノ業ニ從事致シテ居リマスル者ノ眼カラ見マス、一層其感ヲ深ウ致スノデアリマス、殊ニ如何ナル譯デアリマスカ、屢吾々ガ政府ノ此新聞紙ニ對スル處置ニ付テ不満足ヲ感ジマスルノハ、些細ナ事ト雖モ當局ヨリ致シマシテ、此新聞ノ記事ノ差止、若クハ漸ク刷上ゲテ居リマスルモノヲ差押ヘテ、再ビ深夜ニ別途ノ版ヲ拵ヘナケレバナラヌト云フヤウナ事ニ遭遇致シマス、ソレモ國家ノ秩序ヲ害シテ、我國ノ治安ニ關係ノアルト云フコトデアレバ勿論吾々ハ忍ンデ其政府ノ命ニ服從スルノデアリマスガ、往々ニシテ東京、大阪ノ大新聞ニハ平然トシテ掲載致シテ居リマスルモノヲ、地方ノ吾々ノ新聞ノ方ニハ此掲載ヲ禁止シテ、苛酷ナル取扱ヲ屢サレルノデアリマス、斯様ナ事ニ屢遭遇致シテ居リマスル苦キ經驗ヲ嘗メツ、アル吾々ト致シマシテハ、一日モ早く此現行法ノ改正ヲ見タイト云フコトハ言フマデモアリマセヌ、此法案ヲ見マスルト云フト、吾々ハ遺憾ナガラ完璧ナルモノトハ認メテ居リマセヌ、此法案ノ全體ヲ通覽致シテ見マスルト云フト、是ハ上流ノ新聞ノ見地ヨリシテ案ヲ御立テニナッ

タモノ、ヤウニ見エマス、二三立派ナル所ノ新聞經營者ノ方カラ見マスルト、是デ宜イカモ知レマセヌガ、今ヤ御承知ノ通り、都鄙ニ互リマシテ、幾多ノ新聞ガ發行サレテ居リマシテ、其間ニ於キマシテハ、實ニ此言論ノ自由ノ範圍ヲ超脱致シマシテ、屢社會ニ害毒ヲ來シ、或ハ一個人ノ名譽ニ關シマシテ、言フベカラザル損害ヲ加ヘツ、アルノデアリマス、ソコデ苟モ法ヲ改正致シマスルナラバ、正當ナル言論ノ自由ヲ十分ニ擴張、確保致シマスルト同時ニ、又一面此法ヲ犯シタル者、若クハ社會ノ秩序ニ害ノアリマスルモノニ付キマシテハ、十分ナル取締ノ必要アリト吾々ハ感ズルデアリマスガ、此本案ヲ見マスルト云フト、只今ノ一面ノ方面ニ對スル所ノ取締ガ缺ケテ居ルヤウニ思ハレマス、又此法案ヲ只今茲ニ議決致シタニ致シマシテモ、恐ラク提案者諸君ト雖モ、今日ノ此議會終了ノ日ニ近イ場合ニ於キマシテ、是ガ兩院ヲ通過シテ法律ノ制度ヲ見ルト云フ御考ハヨモヤ私ハ無カラウト思フ、政府モ既ニ此問題ニ付キマシテハ、改正ノ必要アリト云フコトヲ御認メニナリマシタ以上ハ、實ハ吾々ハ今此三派ニ依テ出來テ居リマスル政府ノ諸君デアルカラ、次ノ議會ニハ先ヅ何ヲ擱イテモ劈頭第一ニ改正案ヲ御出シニナルト云フ御聲明ガアルコトヲ期シテ居ッタノデアリマス、然ルニ豈圖ランヤ、今政府委員ノ御答辯ヲ聽イテ見マスルト云フト、確ト分ラヌ、出スカモ知レヌ、出サナイカモ知レヌト云フヤウナ、煮エ切ラヌ所ノ御答辯デアリマシタノデ、吾々ハ之ニ對シマシテ甚ダ遺憾ヲ感ズル者デアリマス、併ナガラ提案サレテ居リマスル三派ノ諸君ハ、此内閣ヲ支持サレテ居リマスルカラシテ、或ル方法ニ依テ、次ノ議會ノ劈頭第一ニ提出セシムルコトモ出來マセウ、又政府委員ノ言ハレマシタヤウナ曖昧ナ態度デアリマシタナラバ、諸君ヨリシテ宜シク鞭撻ヲシテ、完全ナル法案ヲ提出サレ、而シテ十分ナル此法案ノ成立ヲ見ルト云フコトガ、此場合ニ於テ私ハ賢明ナル處置デアラウト思ヒマス、斯ノ如キ重要ナル法律ハ、朝令暮改ヲ許スベキモノデアリマセヌ、今日マデ既ニ吾々ガ忍ンデ居リマシタ法律ヲ、今貴族院ヲ通過スルカ否カ分ラナイ今日ノ場合ニ於キマシテ、是非トモ本院ヲ通過セシメナケレバナラヌト云フコトハ、吾々ハ感ジテ居リマセヌノデアリマス、ソコデ吾々ハ此改正ノ必要ナシト云フノニ非ズシテ、改正ノ必要アリト云フコトハ、諸君モ吾々モ少シモ變

ル所ハ無イノデアリマス、寧ロ吾々ハ一層切實ニ其感ヲ深ウスル者デアルカモ知レマセヌ、併ナ
ガラ只今申上ゲマスヤウナ次第デ、之ヲ茲ニ出シマシタ所デ、現ニ其效果ヲ收メルト云フコトノ
曙光ヲ認ムルコトガ出來ナイト云フ今日ノ場合ニ於キマシテハ、宜シク此案ハ此儘ニ否決ヲ致
シマシテ、政府ノ言ハレマスル通りニ、他ノ出版法其他ノ法律案ト共ニ完全ナル案ヲ提出セシメ
テ、此案ニ付キマシテ、吾々ハ十分意見ノアル所ヲ攻究スルノガ、一番正シキ途デアリ、一番宜シ
キ途デアラウト云フコトヲ、吾々ハ切實ニ感ズル者デアリマス、此見地ニ依テ、此意味ニ於キマ
シテ、折角御提出ニナリマシタ改正案デアリマススケレドモ、吾々ハ此法律ノ效果ヲ疑フト云フ
ヤウナコトモ加味致シマシテ、茲ニ反對ノ意思ヲ表スル者デアリマス

横山勝太郎君ノ賛成演説

只今政府ノ意見ノ聲明ガアリマシタ、尙ホ則元君カラ延期論ニ類シタル御議論ガアリマシタ、新
聞紙法ハ第二十六議會ノ改正ニ係リマシテ、爾來其不備不完ナル點ヲ指摘致シマシテ、是ガ改正
ノ必要ガアルト云フコトハ、新聞或ハ在野法曹ノ間ニ於テ、多年ノ懸案トナツテ居ッタデアリマ
ス、只今縷々論ジラレマシタヤウナ事項ハ、委員會ニ於テ極メテ詳細ニ審議ヲ盡シタ點デアリマ
ス、其結果トシテ現行新聞紙法第十九條ノ記事差止ニ關スル規定ノ如キモノハ、最モ大ナル弊害
ノアル規定デアリマス、其他數箇ノ改正スベキ點ニ付テハ、提案者ノ側カラモ極メテ詳細ナル理
由ヲ陳述致シマシテ、慎重ナル審議ヲ遂ゲラレタデアリマス、要スルニ現行新聞紙法ノ改正ノ
必要ガアルト云フコトハ、政府當局者モ聲明致シテ居ル所デアリマス、申ス迄モナク言論ノ自由
ハ、憲法ノ規定ニ依テ保障サレテ居ル所デアリマス、假令僅ナル點デアリマシテモ、憲法ノ保障
シテ居ル所ノ自由ノ妨害ニナルヤウナ規定ハ、寸時寸刻ト雖モ、早ク之ヲ改正スルノ必要ガアル
ノデアリマス、則元君ハ只今之ヲ議決致シテモ、會期切迫ノ際、貴族院ニ於テ通過スルヤ否ヤノ
懸念ガアルカラシテ、是ハ延期シテハドウカト云フコトデアリマスガ、貴族院ガ之ヲ通過スルヤ
否ヤハ、貴族院ノ鑑識ニ屬シ、貴族院ノ責任ニ屬スル事柄デアリマス、衆議院ハ衆議院ノ鑑識ト

其責任ニ依テ、本案ハ速ニ御決議ヲ願ヒタイト思ヒマス

院議異議ナク本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ委員會報告
ノ通可決確定シ即日之ヲ貴族院ニ送付シタルモ同院ハ議決ヲ爲スニ至ラザリキ

二六 恩給法中改正法律案

恩給法中左ノ通改正ス

第百三條第一項中「屯田兵ノ現役」ノ下ニ「及之ニ準スヘキ屯田兵ノ服役」ヲ加フ

附則

本法ハ大正十四年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

右ハ十四年三月五日淺川浩君外六名之ヲ提出ス三月二十三日本案ハ松實喜代太君外三名提出恩給
法中改正法律案(二二)ト一括シテ其ノ第一讀會ヲ開キ提出者(淺川浩君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セ
リ

日程第五ノ提案ニ付キマシテノ理由ヲ説明致シマス、本案ハ第四ト同様ニ、北海道屯田兵ノ恩給
一ニ關スル法律ノ改正案デアリマス、而シテ内容的ニ於テハ第四ノ日程ト同様デアリマス、提案
ノ理由ト致シマシテ幾多ノ條件ガゴザイマスガ、議場ノ時間ヲ尊重致シマシテ委員會ニ於テ詳
細ハ陳述致スコトニ致シマス、右御了承ヲ願フ次第デアリマス

次テ本案ハ(二二)案ト一括シテ東武君外十一名提出北海道農地特別處理法案(本項第二(二三))外一件委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ハ審査ニ著手シタルモ報告ヲ爲スニ至ラザリキ

二七 醫師法中改正法律案

醫師法中左ノ通改正ス

第十一條中「若ハ第十三條第三項但書」ヲ削ル

第十三條第三項但書及第四項ヲ削ル

右ハ十四年三月七日神部爲藏君外六名之ヲ提出ス三月十二日本案ノ第一讀會ヲ開キ提出者(神部爲藏君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本案提出ノ趣旨ヲ極メテ簡單ニ辯明致シテ置キマス、醫師法ノ第十三條ノ其一項ニ「本法施行前ノ醫師開業免狀ハ本法施行ノ後ト雖仍其ノ效力ヲ有ス」ト云フ一項ガゴザイマス、第二項ニ「本法施行前第一條第一項第一號ニ該當セサル官立府縣立醫學校ヲ卒業シタル者ニハ第一條第一項ノ資格ヲ有セサルモ免許ヲ與フルコトアルヘシ」其第三項ニ「本法施行前醫術開業免狀ヲ得タル者ハ本法施行ノ後ト雖醫業ヲ爲スコトヲ得但免許地域外ニ診察所診療所又ハ其ノ出張所ヲ設クルコトヲ得ス」第四項ニ「前項但書ノ規定ハ往診治療ヲ爲スコトヲ妨ケス」斯ウ云フ條項ガアルノデゴザイマス、本員ハ此條項中ノ第三項ノ但書、即チ「但免許地域外ニ診療所」——診療所デハアリマセヌ「診察所診療所又ハ其ノ出張所ヲ設クルコトヲ得ス」ト云フ文句トヲ得ス「ト云フ文句トヲ削除スベキデアルト信ジマシテ、前項但書ノ規定ハ往診治療ヲ爲スコトヲ妨ケス」ト云フ文句トヲ削除スベキデアルト信ジマシテ、本改正案ヲ提出致シタ次第デアリマス、申上グルマデモゴザイマセヌガ、本案ハ屢前議會ニ於テ

本議會ノ同情ヲ得テ居ル問題デゴザイマスガ、詳細ノ事ニ至リマシテハ委員會デ詳シク説明致シマス、一言申上ゲテ置キタイノハ明治十六年十二月二十三日ノ太政官布告ニ基キマシテ、醫師ニ乏シイ地方人民ノ要求ト醫師トナルベキ者ノ請願トニ依テ、或ハ一定ノ地域ヲ限ッテ許可セラレテアルノデアリマシテ、醫師普及ノ政策ニ出デタモノデアアルノデゴザイマス、然ルニ政府ハ明治三十一年以來此規定ガアルニモ拘リマセズ、絕對ニ許可ヲ與ヘナイノデアリマス、明治三十九年ノ醫師法改正ニ當リマシテ、域外往診ヲ妨ゲズトノ規定ヲ附加ヘテ、遂ニ全然許可シナイ方針ヲ執ッタノデアリマス、是ハ文運ノ進展ニ伴ヒマシテ、大學其他ノ學校カラ年々歳々幾千ノ醫師ガ輩出致シテ居ルノデゴザイマス、開業醫ヲ見ルニ至ッタノデアリマス、洵ニ結構ナ事デアアリマスルガ、是ガ爲ニ一定ノ地域ヲ限ッテ永イ間國民保健ノ保持者デアッタ限地醫ハ、年々歳々是等新進ノ開業醫ノ爲ニ其領域ヲ侵サレテ居リマス、轉地開業ノ權限ガ無イ爲ニ、殆ド其日ノ糊口ヲ凌グコトモ出來ナイ程ニ困難ヲ致シテ居ルノデアリマス、是等ハ過去三十有餘年ノ間、山間僻地ニ在リマシテ地方住民ノ病苦ヲ救ヒ、國家保健ノ重責ヲ一身ニ荷ウテ來タニモ拘リマセズ、弊履ノ如ク捨テラレテ顧ミル者ガ無イト云フコトハ、洵ニ言語ニ絶スル悲慘事デアルト申サナケレバナラヌノデアリマス、今日殘ッテ居リマス限地醫ハ、殆ド三十年間醫術ノ研究ト實驗トヲ積ンデ居ルノデゴザイマシテ、隨テ其手腕ハ許可當時ニ比ベマスレバ大ニ進歩ヲ致シテ居リマス、三年乃至四年ノ學校教育ヲ受ケマシタ者ヨリモ寧ロ安全ニシテ確實ナル技術ヲ持ッテ居ルト私ハ信ジテ居ル次第デゴザイマス、加之明治十四、五年頃ニ於キマシテ、單ニ一科ノミヲ修業致シマシタ者ニ對シテ、明治十八年五月四日、時ノ内務卿ガ全科ノ開業ヲ許シテ、醫師ノ子弟等ニ試驗ヲ要セズシテ普通醫師ノ免狀ヲ下付シタ實例モアルコトデアリマスカラ、學術手腕ノ點ニ於キマシテモ何等顧慮スル所ガ無カラウト思フノデゴザイマス、何卒限地醫ノ悲慘ノ境遇ニ一掬同情ノ涙ヲ注ガレマシテ、彼等ノ爲ニ其壓迫的領域ヲ撤去致シテ、自由ノ天地ニ自由ノ手腕ヲ振フコトヲ得セシムルヤウニ改正致シマシテ、限地醫ノ生存權ヲ確保致シタイト存ズルノデゴザイマス、私ハ茲ニ抽象的理論ノ説明ヲ避ケマシテ、努メテ其實情ヲ諸君ニ訴ヘマシテ、限地醫ノ

爲ニ御贊同ヲ下サイマシテ、ドウカ本案ノ通過致シマスルヤウニニ御願致ス次第ゴザイマス
次テ本案ハ東武君外十一名提出北海道農地特別處理法案(二三)委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會
ハ審査ニ著手シタルモ報告ヲ爲スニ至ラサリキ

二八 登録税法中改正法律案

登録税法中左ノ通改正ス

第二條第二項ノ次ニ左ノ二項ヲ加フ

土地ヲ隣接シテ耕作スル爲ニ行フ交換ニ因ル土地所有權ノ移轉ニ對シテハ登録税ヲ課セス
前項ノ場合ニ於テ甲地ノ不動産反別カ乙地ノ不動産反別ノ二分ノ一ニ達セサルトキハ交換ニ
因ル所有權ノ移轉ト認メス

右ハ十四年三月七日猪野毛利榮君外一名之ヲ提出ス三月十九日本案ノ第一讀會ヲ開キ提出者(猪
野毛利榮君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

提案ノ理由ヲ至ッテ簡單ニ申上ゲマス、地勢其他色々ナル原因ニモ依リマセウガ、大農組織ニ非
ザル日本ノ農耕地ハ、各異レル地主ガ入混ッテ居リマスガ爲ニ、自作農ニ於キマシテモ、小作農ニ
於キマシテモ、之ヲ耕作スルニ當リ、遠方ヨリ灌溉、排水、其他肥料、收穫物ノ運搬ナドニ至ルマ
デ、一般ノ經營管理ノ上ニ頗ル多大ナル努力ト時間ヲ空費シ、尠カラザル不便ガアルノデアリマ
ス、殊ニ此農村ニ於ケル勞力問題ハ、重大ナル問題ニナッテ居ルノデアリマス、今日農村ガ困ッテ
居ル所ノ最大ナルモノハ何デアルカト云ヘバ、即チ勞銀ガ高イコトデアリマス、例ヘバ明治二十
三年ヨリノ今日迄ノ經過ヲ見マスレバ、米ノ價格ニ於テハ六倍ノ騰貴ヲ來シテ居リマスルガ、勞
力、賃銀ニ於キマシテハ十倍ニナッテ居リマス、即チ兩方ノ開キガ頗ル大ニナッテ居リマスルカ
ラ、農村ニ取リマシテハ此勞力問題ガ頗ル重大デアリマス、又灌溉ノ如キニ至リマシテモ、僅カ
小サキ一枚ノ田地ノ爲ニモ、遠隔ノ地ヨリ水路ヲ別ニ造ラニヤナリマセヌ、是等ノ多大ナル費用
ト勞力ノ點ヲ考ヘテ見ルトキニ、頗ル不經濟極ルモノデアリマス、然ルニ斯ノ如ク散逸セル不便
ナ土地ガ、例ヘバ甲ハ東、乙ハ西、或ハ丙ハ南ト云フ如ク、一方ニ之ヲ集メテ、耕作スル場合ニ於
キマシテハ、生産費竝ニ其他ノ費用トヲ少ナクスルコトヲ得マシテ、百姓ノ利益ヲ得ルコトガ頗
ル多大デアルト考ヘルノデアリマス、ソレ故ニ此場合斯ノ如キ不便ト不經濟ヨリ脱脚サスニハ、
ドウシテモ兩方ノ隣接セル兩方同志ガ土地ノ交換ヲ行ハナクテハナラヌト考ヘルノデアリマ
ス、然ルニ土地交換ニ付テハ、土地所有權移轉ノ登記ヲ行ハナクテハナラヌノデアアル、現行法ニ
於キマシテ土地交換ノ方式ハ賣買ノ形式ニ依リマシテ、不動産價格ノ千分ノ三十五ナルモノハ、
登録税ニ取ラレテシマフノデアリマス、更ニ又府縣稅ニ於キマシテハ、財産所得稅トシテ、是亦
千分ノ十ヲ取ラレルノデアアル、更ニ又町村ニ於キマシテハ、附加稅トシテ是亦千分ノ十ヲ取ラ
ルノデアリマス、之ヲ合シマスルト、即チ千分ノ五十五ニナリ、兩方合シテ實ニ千分ノ百十、即チ
一割一步ノ高率ナル稅ガ課セラレルト云フ状態ニナッテ居ルノデアリマス、斯ル高率ノ税金ノ爲
ニ、土地交換ハ良法ナリト知リナガラモ、實際ニ之ヲ行フコトハ至ッテムツカシイ状態ニナッテ居
ルノデアリマス、即チ此高率ナル稅ガ取モ直サズ土地ノ交換ヲ阻害シテ居ルノデアリマス、故ニ
土地交換ナルモノハ耕地整理ニ於ケルソレノ如ク、即チ無理ニ致シタナラバ、容易ニ土地交換ガ
出來ルノデアリマス、若シ此様ニシテ土地ノ交換ガ出來ルナラバ、稅法ノ精神ニ副フト共ニ、一
面ニ於キマシテハ農村振興ノ助ケニモナルト考ヘマスルノデアリマス、第二項ニ於キマシテハ、
此交換ニ依ラントスル弊害ヲ除去スルノ方法ヲ規定致シタノデアリマス、即チ兩者ノ交換ニ於

キマシテ、該段別ガ互ニ二分ノ一ニ達セナイトキハ之ヲ交換ト認メズ、斯ウ云フ風ニ規定ヲ致シ
タイト考ヘルノデアリマス、何卒諸君ハ、農村問題ニ付キマシテハ熱心ナル方ミバカリデアリマ
スルカラ、本案ヲ通過サセ下サイマシテ、疲弊セル農村ノ爲ニ、更ニ重ネテ新ナル幸福ヲ與ヘラ
レンコトヲ希望致ス次第デアリマス

次テ本案ハ村山喜一郎君提出所得稅法中改正法律案(四)外七件委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會
ハ審査ニ著手シタルモ報告ヲ爲スニ至ラサリキ

二九 大正十一年法律第六十號中改正法律案

大正十一年法律第六十號中左ノ通改正ス

附則第二項ヲ左ノ如ク改ム

第十八條ノ改正規定中有價證券ノ賣買取引ノ期限ニ關スル規定ハ大正十七年四月一日ヨリ之
ヲ施行ス

右ハ十四年三月九日増田義一君外四名之ヲ提出ス三月十二日本案ノ第一讀會ヲ開キ提出者(若尾
璋八君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

私ハ本案提出ノ理由ヲ極メテ簡單ニ辯明致シタイト思ヒマス、有價證券取引ノ三箇月限月制度
ハ、御承知ノ通り大正十一年法律第六十號ヲ以チマシテ、之ヲ二箇月ニ短縮セラレ、本年四月一
日ヲ以チマシテ之ヲ實行セラル、コトニ相成ッテ居ルノデゴザイマス、限月ノ短縮ニ依リマシ

テ、果シテ能ク投機思惑ヲ抑制スルコトガ出來ルヤ否ヤ、又大量ノ取引ヲ消化致シマシテ、圓滿
ニ市場ノ秩序ヲ保チ、以テ眞ニ公定市價ノ標準ヲ定メルコトガ出來ルヤ否ヤ、即チ限月短縮ノ
可否ニ關係致シマスル所ノ議論ハ倍措キマシテ、私ハ現下ノ我國ノ經濟事情ヲ顧ミ、此疲弊困憊
ノ極ニ達シテ居リマスル所ノ實情ノ下ニ於キマシテ、此法案ヲ相當ノ期間其實施ヲ延期スルト
云フコトガ、最モ至當ナ處置デアラウト深ク信ズル者デアリマス、顧ミマスレバ大正九年ニ於ケ
ル財界ノ大動搖ハ、各方面ニ大打撃ヲ與ヘマシテ、其整理ガ未ダ付カザル間ニ、又一昨年ノ大震
火災ニ遭遇致シマシテ、其創痍未ダ癒エザル時ニ當リマシテ、銀行ノ如キ又會社ノ如キ、其整理
ニ汲々トシテ日モ亦足ラザル所ノ現狀デアルコトハ、諸君ノ御承知ノ通りデゴザイマス、幸ヒ昨
年ノ夏以來米國經濟界ノ景氣恢復ヲ先驅ト致シマシテ、英國ニ於キマシテハ御承知ノ如クニ彼
ノ「ドース」案ノ通過可決ニ依リマシテ、經濟界ノ基礎ハ漸ク定マリ、財界好轉セル折柄、英國新
内閣ノ出現ニ依リマシテ、内外ノ政局茲ニ全ク安定シ、財政經濟ノ狀態ガ著シク其面目ヲ改メ
テ、今ヤ世界的經濟界ノ復興ト共ニ、我國ノ財界モ亦現政府ノ行政財政ノ整理ト相俟ッテ、漸ク安
定ノ曙光ヲ認メントスル此際此時ニ於キマシテ、此法令ヲ實施スルコトニ依ッテ、有價證券ノ低
落ヲ招致シ、財界ヲシテ再ビ沈靜ノ域ニ陥ラシムルニ至ッテハ、私ハ我が經濟界ノ爲ニ洵ニ忍ビ
得ザル所デゴザイマス、然ルニ限月短縮ノ結果財界ニ左程ノ影響ハ無イ、大シタ損害ハ無イダラ
ウト云フ説モ各方面ニ起ッテ居リマスガ、論ヨリ證據、此限月短縮ノ豫想ノ下ニ於キマシテ、最近
有價證券ハ著シク低落ヲ來シマシテ、其影響ハ既ニ綿絲其他一般ノ商品市場ニモ及ボシテ居ル
ノデアリマス、斯ノ如ク險惡ナル暗流ガ證券市場ニ存在致シテ居リマスガ故ニ、愈此限月短縮ガ
實行セラレル曉ニ於キマシテハ、財界ノ各方面ニ相當ナル打撃ヲ與フルコトハ、去ル明治三十五
年ノ實例ニ徴シテモ明白デアラウト深ク信ズルノデゴザイマス、明治三十五年ノ六月ニ於
キマシテ、勅令第百五十八號ヲ以テ從來ノ三箇月制度ヲ二箇月制度トスルト云フコトノ勅令ガ
發布セラレルヤ、有價證券ハ非常ナ大暴落ヲ來シ、證券市場ハ大混亂ヲ來シマシテ、遂ニ其結
果ハ金融融界ヘモ其他ノ事業界ヘモ大ナル打撃ヲ與ヘ、而モ此打撃ガ一時的ニ非ズシテ、其翌年

三十六年八月ヲ以テマシテ、政府ハ勅令百二十七號ヲ以テ、限月制度ヲ再ビ三箇月限月制度ニ復舊致シタノデアリマス、其一年有餘ノ間ト云フモノハ財界ガ非常ニ沈衰ヲ極メマシテ株式取引市場ノ如キ、一日ノ出來高ガ僅ニ一千株若クハ二千株位ナ悲境ニ沈淪致シテ居ッタノデアリマス、幸ニ今回ハ明治三十五年ノ如ク此法令ガ突發的ニ出ズシテ、三年モ前ニ豫告シテ居ッタノデアリマスカラ、左様ニ急激ナル所ノ激變低落ト云フモノハ無イカモ知レマセヌガ、矢張相當ノ打撃ヲ得ルコトハ明デアラウト思フノデアリマス、殊ニ其當時ニ於キマスル所ノ財界ト今日ノ財界ハ、其大小廣狹固ヨリ同日ノ論デハナイノデアリマス、其當時ノ我が株式會社ノ資本金總額ハ十三億餘圓ニ過ギナカッタノデアリマシタガ、今日ハ株式ニ於キマシテハ、百八十餘億、公債社債ニ於テ八十億、有價證券合計二百六十億ニ達シテ居ルノデアリマス、假ニ論者ノ言スガ如ク限月短縮ノ影響ガ左程デモナイ、影響ハ大シタコトデモナイト致シマシテ、即チ極ク僅ナル所ノ影響ガアルモノト假定致シマシテ、平均價格五圓ノ低落ヲ招ケバ是ガ九億ニナリ、一割ノ低落ヲ招ケバ即チ十八億ト云フ金額ニ上ルノデアリマス、而シテ其九億若クハ十八億ト云フモノハ、ソレダケ融通力擔保力ト云フモノヲ減殺セラル、ガ故ニ、之ガ爲ニ金融業者ノ受クル所ノ影響ト云フモノハ非常ナモノデアラウト想像サレルノデアリマス、我が財界ノ狀態ハ、卑近ナル例ヲ以テ申シマシタナラバ、最モ絶對安靜ヲ必要トスル所ノ狀態デアアルノデアリマス、斯ノ如キ狀態デアリマスルカラ、事苟モ財界ノ動搖ヲ來スベキ所ノ虞アル事柄ハ、其大小如何ニ拘ラズ、其實施ヲ見合セルト云フコトガ當然デアラウト思フノデアリマス、殊ニ限月ノ制度ト云フモノハ、諸君御承知ノ如ク、四十七箇年間モ我國ニ於テ實行セラレ、我が經濟界ニ多年馴致セラレタル所ノ商習慣デアリマスルカラシテ、一層考慮スベキコト、考ヘルノデアリマス、尙ホ此問題ニ付キマシテハ、全國ノ商業會議所ハ其聯合會ニ於テ、經濟界ノ未ダ安定セザルノ際斯ル慣習ノ革新ヲ斷行スルコトハ其時機ヲ得タルモノニ非ザルヲ以テ、適當ノ時機ニ達スルマデ是ガ實施ヲ延期セラレンコトノ決議ヲ爲シ、又日本郵船會社以下主ナル所ノ百四十ノ各事業會社、此總資本額ガ三十一億餘萬、此總株數六千三十一萬株、彼ノ大震火災ノ創痕未ダ癒エズ、財界ノ安定セザ

ル今日、多年馴致シ來ッタ所ノ有價證券ノ三箇月制度ヲ變革セントスルコトハ、其時機ヲ得タルモノニ非ザルコト、決議シタル全國株式取引所聯合會ノ署名同意ヲ表シタルガ如キ、眞ニ限月短縮延期ノコトハ、實業界事業界ノ輿論デアリマス、政府ニ於テモ此法令ヲ實施斷行スルコトニ依テ、國家ガ何ノ益スル所ナク、又此法令ヲ延期スルコトニ依テ、國家ガ其弊害ノ認ムベキモノガ無イト致シタナラバ、此實業界及事業界ノ輿論ニ逆行シタ此法令ヲ強行突破シナケレバナラス必要ガ、果シテ何所ニ在ルノデアリマセウカ、此財界ニ於テ重要ナル問題、此焦眉ノ急ヲ要スル所ノ案件ニ付キマシテハ、有力ナル各政黨ノ力ニ依テ、始メテ是ガ解決セラルベキ問題デアアルガ故ニ、速ニ其御提案ヲ願ヒ、吾々ハソレニ追隨シテ其目的ヲ達成センコトヲ希ッタノデアリマスガ、會期切迫ノ今日、剩ス所僅ニナリマシタニ付テ、私ハ、僭越ヲモ願ミズ、一部同志ノ御賛成ヲ得テ本案ヲ提出致シタノデアリマス、之ヲ要シマスルノニ、私ハ此際此法律ノ實施ヲ三箇年延期致スコトガ、目下ノ所最モ穩當ニシテ且ツ適切ナル處置デアラウト考ヘマシテ、改正案ヲ提出シタ次第デアリマス、何卒御審議ノ上御協賛ヲ與ヘラレンコトヲ希望致シマス

堤康次郎君及平井光三郎君ハ賛成ノ演說ヲ爲シ三土政府委員ハ政府ノ所見ヲ述フ

堤康次郎君ノ賛成演說

極メテ簡單ニ本案ニ賛成ノ意見ヲ申上ゲマス、秩序ヲ維持スルガ爲ニ制定シタル法律、其法律ノ爲ニ却テ秩序ヲ紊亂サレルコトガアルノデアリマス、新取引所法ニ依テ限月ガ短縮セラレ、ト云フ此條文ハ、確ニ其一ツデアアルト信ズルノデアリマス、此三箇月ノ限月制度ハ極メテ長イ間ノ歴史ヲ有シテ居リマシテ、我國ノ經濟事情トハ最モ能ク適合致シテ居ルノデアリマスルガ、此限月ヲ短縮スルト云フ議論ハ、ドウシテ起ッタカト申シマスルト、此取引所ヲ會員組織ニスルト云フコトヲ前提トシタノデアリマス、歐米ノ如ク我が取引所ヲ會員組織ニスルト云フコトガ宜イト云フ議論ガ、此新取引所法ノ制定セラル、當時ハ盛ニナツテ、官民共ニ此議論ニカブレ、取引所ヲ會員

組織ニスルト云フコトヲ前提トシテ、限月ノ短縮ヲスルト云フコトガ起ツタノデアリマスルガ、既ニ今直ニ限月ヲ短縮スルト云フコトハ、經濟界ニ對シテハ動搖ヲ來ス虞ガアルカラ、期間ヲ三箇年先ヘ延長シテ置ク其間ニ株式會社ノ取引所ガ漸次會員組織ニ變更セラレ、デアラウト思フ居リマシタガ、豫期ニ反シマシテ株式取引所デ會員組織ニ變更セラレマシタモノハ、マダ一ツモ無イノデアリマス、寧ロ今日ニ於テハ資力信用ガ歐米ノ如ク皆ナ一致シテ居ナイ仲介人ガ、多數集ツテ賣買ヲスルノデアルカラ、取引所ト云フモノガ其間ニ介在シテ、取引所ノ資本ガ各自ノ取引ニ對シテ絕對ニ保障ヲスルト云フ現在ノ制度ガ、最モ我國ニ適合シテ居ルト云フ意見ガ輿論ニナツテ居ルノデアリマス、シテ見マスルト此會員組織ヲ前提トシタ限月ノ短縮ト云フコトハ、全ク意味ヲ成サナイコトニナツテ居ルノデアリマシテ、此限月短縮ヲ延期スルト云フ本案ヲ提出スルヨリモ、議論ノ筋ト致シマシテハ、舊ノ通りニ還元ヲスルト云フコトガ寧ロ徹底シテ居ルト思フノデアリマスルガ、併シ只今ハ之ヲ論ズル必要ハアリマセヌ、此限月短縮ヲ延期スルトコトガ善イカ惡イカト云フコトヲ論ズレバ、ソレデ宜シイノデアリマス、勿論此限月短縮ハ、延期シナケレバナラナイト思フノデアリマスガ、延期シナイ方ガ宜イト云フ今ノ議論ハ、投機熱ヲ抑制スルト云フ一點ニ在ルノデアリマス、併シ此限月短縮致シマシテモ、必ズ投機熱ヲ抑制スルトコトガ出來ルカドウカ、是ハ疑問デアアル、今茲ニ二三萬株ノ註文ガアルト致シマシテ、之ヲ三箇月ニ分ケルト二箇月ニ分ケルトハ、二箇月ニスル方ガ玉ガ嵩ム、隨テ値段ノ高低ガ激シクナリマシテ、其所ニ投機ノ妙味ガ生ズル、隨テ投機熱ヲ助長スルト云フコトニナルノデアリマスルカラ、必ズ限月ヲ短縮シタナラバ、投機熱ヲ抑制スルト云フ議論ハ、絕對ノモノデアリマセヌガ、一步譲リマシテ投機熱ヲ抑壓スルトニ効果ガアルト假定致シマシテモ、投機熱ヲ抑壓スルト云フコトニハ自ラ程度ガアリマス、性慾ト射倖心ト云フモノハ、人間ニ通有シテ居ル所ノ弱點デアリマシテ是ノ排泄口ハ何處カニ求メナケレバナラナイ、歐洲ノ大陸ニ於テハ「モナコ」公國ヲ此射倖心ノ排泄口ト致シテ賭博ヲ公許致シテ居ル、「モナコ」公國ノ歲入ハ賭博ノ寺錢ヲ以テ宛行ッテ居リマシテ負ケタ者ガ自殺スルノニ都合ノ好イヤウニ國營ノ自殺所迄モ設ケテ居ルヤウナ有様デア

アリマスガ、併シ我國ニ於テハ賭博ハ絕對ニ嚴禁致シテ居リマスガ、併シ各種ノ定期取引ニ於テ其一部分ニ轉賣買戻ノ差金取引ヲ許シ、此所ヲ國民ノ射倖心ノ排泄口ト致シテ居ルノデアリマス、此排泄口ハ大キ過ギテモイケンイシ、又小サ過ギテモイケンイ、人間ノ身體ニ於テ排泄ガ過ギタナラバ身體ガ弱リマスルシ、又排泄ガ少ナカッタナラバ病氣ニナルノト同様デアアル、此排泄口ニハ自ラ程度ガアル、又射倖心ヲ排泄スルト云フコトハ三箇月ガ最モ適度デアルト私ハ考ヘマス、四箇月ハ長過ギルシ、二箇月ハ短過ギルト思フ、此二箇月ガ適當デアルト云フコトハ、長イ間ノ歴史ガ立證致シテ居ルノデアリマスガ、百歩ヲ譲リマシテ三箇月ハ不適當デアアル、二箇月ニシナケレバナラナイト假定ヲ致シマシテモ、今之ヲ直ニ實行スルトハ甚ダ宜クナイ、我が經濟界ハ未曾有ノ震災ト云フ大打撃ヲ受ケテ、正ニ致命傷ノ瘡ヲ負ウタノデアアル、外科的ノ大手術ヲ受ケタ後デアリマスカラ、今ハ絕對ニ安靜デナケレバナラナイ、今變動ヲ來スト云フコトハ甚ダ宜クナイノデアリマス、曾テ此限月ヲ二箇月ニ短縮シタ結果、財界ノ大動亂ヲ來シタ歴史ガアルノデアリマスガ、今日ニ於テハ左様ナ動搖ハ來サナイカモ知レナイガ、併シ相當ノ動搖ハアルモノト覺悟シナケレバナラナイ、ドウシテモ只今此二箇月ノ限月制度ヲ實行スルト云フコトハ宜クナイコトハ明デアリマスカラ、滿場ノ諸君ノ御賛成アラントラ望ム次第デアリマス

平井光三郎君ノ贊成演說

本員ハ簡單ニ趣旨ヲ述ベマシテ、本提出案ニ贊成ノ意ヲ表スル者デアリマス、大正十一年法律第六十號ニ依リマシテ、株式取引所ノ定期取引ハ三箇月ノ限月ヲ二箇月ニ短縮スルト云フ法律ヲ定メラレタノデアリマス、ソレカラ此實施ノ期限ハ約三箇年延期スルトニナツテ居ッタノデアリマスガ、本年四月一日カラ愈實行スルトニナツタノデアリマス、政府ガ三箇月ノ限月ヲ二箇月ニ短縮スルト云フ意思ハ、三箇月ト云フ限月ヲ置イテ置クト、自然差金賣買ガ容易ニ行ハレ、隨テ投機心ヲ助長スルト云フ趣旨カラ出タノデアリマス、ソレカラ第二ハ歐洲大陸ニ於キマシテハ此取引所ノ限月ハ長キハ二箇月、短キハ約二週間ノ期日ヲ決メテ取引ヲ行ッテ居ルノデアリマ

ス、又米國ニ於テハ此翌日制ノ短期賣買ト云フコトガ行ハレテ居ルノデアリマス、之ヲ參酌致シマシテ、歐洲大陸又ハ亞米利加ノソレノ如ク、日本ノ此取引所法ヲ接近セシメヤウト云フノガ此法律ヲ作ツタ趣意デアルノデアリマス、併シ政府ガ此法律ヲ決メマシタ當時ニ於テハ、之ヲ直ニ實施スルコトハ財界ニ急激ナル變動ヲ與ヘマシテ、其結果非常ナル所ノ惡影響ヲ及ボスト云フノデ、三箇年ノ期間ヲ置イテ今日マデ實施ヲ延期致シテ居ッタデアリマス、然ルニ此三箇年ノ間ニ於テハ、既ニ御承知ノ通り一昨年大震災ガ勃發致シマシテ、是ガ爲ニ東京ニ於ケル事業會社ト言ヒ、或ハ實業關係ノ人ト云ヒ、非常ナル打撃ヲ受ケタノデアリマス、此打撃ガドノ程度ニ達シテ居ルカ概略此處デ申シマスナラバ、東京株式取引所ニ上場サレマシテ賣買サレテ居ル株式、ソレノ會社ノ數ガ百六十社デアリマス、サウシテ株式ノ種類ガ二百四十六種、公稱資本金ガ三十七億二千六百八十萬圓デアリマス、又大阪株式取引所ニ上場サレテ居リマスル其株式會社ノ數ハ百十社デアリマス、其株式ノ種類ハ二百七種、公稱資本金二十九億九千五百萬圓デアリマス、京都取引所ハ七十三會社、此公稱資本金ガ二十四億二千萬圓デアリマス、名古屋取引所ニ上場サレテ居リマスモノガ會社ノ數ガ四十八會社其株式ノ種類ハ七十五種、此資本金ガ十七億四千七百萬圓デアリマス、神戸ノ取引所ニ上場サレテ居リマス株式ノ數ガ七十九、此資本金ガ十二億九千萬圓デアリマス、ソレカラ博多ガ資本金ガ十一億二千萬圓、現在帝國ニアリマスル六取引所ニ上場サレテアリマスル我ガ株式會社ノ公稱資本金ハ實ニ二百三十三億二千萬圓ノ巨額ニ達シテ居ルノデアリマス、一昨年末ノ日本銀行ノ調査ニ依リマスルト、我國ノ事業會社ノ公稱資本金ハ百八十四億圓ニナツテ居ルノデアリマス、即チ其七割ガ株式市場ニ上場サレ、是ガ賣買サレテ居ル、此賣買サレテ居ルガ故ニ相當ノ價值ヲ持ツテ居ル、所デ此株式ハドウ云フ風ニ是ガ流通シテ居ルカト申シマスレバ、是ハ既ニ諸君御承知ノ通り、是ハ殆ド銀行ニ擔保トシテ入レラレテ居ル、サウシテ其資金ガ又次ノ事業ニ流用サレテ居ルノデアリマス、然ルニ一昨年ノ大震災ニ因リマシテ、殆ド事業會社ト言ヒ、或ハ有ニル實業家ト言ヒ、非常ナル所ノ打撃ヲ被ツテ居ルノデアリマス、是ニ於テ只今此震災後ノ創痍ノ癒エナイ只今ニ於キマシテ、急激ニ此限月短縮ヲ實行致シマスル

ナラバ、取引所ノ方面ヨリ致シテ、此株式ガ暴落スルト云フコトハ、是ハ何人モ豫想シ得ル所デアル、又三十五年ノ實例ニ徴シテモ明デアル、此問題ハ表面小ナルガ如キモ實ハ重大ナル所ノ關係ヲ持ツテ居ルノデアル、故ニ私ハ此限月ノ短縮ト云フコトニ付キマシテハ、モウ前途三年バカリ延期ヲ致シマシテ、サウシテ財界ガ恢復ヲ致シ、サウシテ事業界ニ於テモ稍恢復ノ曙光ヲ現シタ時分ニ、是ハ實施ヲシテモ敢テ遅クハアルマイト云フ自分ハ考ヲ持ツテ居ルノデアリマス、此點ニ付キマシテハ、前提案者ヨリ種々説明ガアリマシタカラ、簡單ニ申上ゲテ置キマスガ、斯様ナル重大ナル問題ヲ黨派ノ爲ニ葬リ去ルガ如キハ、是ハ諸君ガ其責任ヲ負ハナケレバナラヌ、殊ニ農商務大臣ハ之ニ對シテ重大ナル責任ヲ負ハナケレバナラヌト云フコトヲ斷言シテ此壇ヲ降ルノデアリマス

三土政府委員ノ所見陳述

只今議題ニナツテ居リマスル所謂取引所法ノ改正案ニ付キマシテ、此際政府ノ所見ヲ簡單ニ申述ベテ置ク必要ガアラウト思フノデアリマス、取引所ノ改正——言換ヘレバ限月短縮問題ナルモノハ、我國ノ財界ニ於キマシテ二十幾年ノ長イ問題デアッタノデアリマス、大正十一年法律改正ノ際ニ、此問題ハ主題トナツテ論議サレタノデアリマス、即チ大正十一年ニ政府ガ改正法律案ヲ提案致シマスルマデニ、數年間ニ互リマシテ斯道ノ專門學者竝ニ權威者ヲ集メテ十分ニ其意見ヲ徵シ、政府ニ於キマシテ嚴正公平ニ考ヘテ最モ適當ト信ズル所ニ依テ改正案ヲ提案致シタコトハ、諸君ノ御承知ノ通りデアリマス、其當時ニ於キマシテ、隨分此改正案ハ根本ニ互ツタ改正デアリマシタガ、他ノ部分ハ全部大正十一年ヨリ實施致シマシタガ、唯限月ニ關スル此條項ノミハ非常ナ重大ナル問題デアリマシテ、取引ノ商習慣ニ激變ヲ來サシメル問題デアリマスルカラ、相當ニ準備期間ヲ與ヘル必要アリト致シマシテ、殊ニ三箇年間ノ猶豫ヲ與ヘ——本年即チ大正十四年ノ四月一日ヨリ之ヲ實施スルト云フコトニ致シテ居ッタノデアリマス、然ルニ實施間際ニナリマシテ、營業者ノ間ニ限月短縮ノ延期ノ運動ヲ起シマシテ、色ミナル理由ヲ述ベテ居リマスガ、私共ノ耳ニ

達シテ居リ、且ツ吾々共直接承リマシタ所ニ依リマスト云フト、主トシテ限月其モノガ宜シクナ
 イト云フ議論ガ多イノデアリマス、即チ現在ノ三箇月ガ我國ノ經濟界商習慣ニ最モ適當シモノ
 デアツテ、二箇月ニ短縮スルト云フコトハ其宜シキヲ得ナイ、斯ウ云フコトヲ論ズル人ガアリマ
 スルガ、左様ナル問題ハ既ニ大正十一年ノ法律改正ノ前ニ論ジ盡サレタ問題デアリマシテ、殊ニ
 我が帝國議會ニ於テモ、上下兩院共此問題ニ付テハ寧ロ三箇月ヲ二箇月ニスルヨリモ、尙ホ一歩
 進メテ一箇月ニシタラドウカト云フ議論サヘアツタノデアリマス、斯様ナ問題デアリマスカラシ
 テ今更ニ三箇月ガ宜イ、二箇月ガ惡イト云フコトヲ論ズル必要ハナカラウト思ヒマス、ソコデ政府
 ガ最初提案致シマシタ通り、即チ豫期致シマシタ通り、三箇年ノ猶豫ガ滿了シマシタ此時機ニ於
 テ、之ヲ實行スルノガ其時機ヲ得タルヤ否ヤ、即チ豫想致シタヨリモ特殊ノ事情ガ起ツテ、之ヲ實
 施スレバ、不都合ガ生ズルカ否ヤト云フコトガ煎ジ詰メラレタ問題トシテ起ルノデアリマス、之
 ニ對シマシテ當事者ノ申ス所ハ、一昨年ノ大震災ガアツテ經濟界ハ沈衰状態ニ陥ッテ居ルカラ、
 此際之ヲ實施スルコトハ其當ヲ得ナイト、斯ウ言フ、只今私ノ尊敬スル若尾君ノ提案理由ヲ承リマ
 シテモ、同様ナ事ヲ言ハレルノデアリマス、而シテ此限月短縮問題ヲ此際實行致シマスト云フト、
 財界ニ非常ナ打撃ヲ與ヘル、明治三十五年ノ限月斷行ノ際ニ於ケル程ナ打撃ハナイカモ知レマ
 セヌケレドモ、餘程ノ打撃ヲ與ヘル、是ガ爲ニ單リ有價證券ノミナラズ商品ニ迄打撃ヲ與ヘル、
 金融業者ニ非常ナ苦痛ヲ與ヘ、財界ヲ混亂スルカラシメテ此際暫ク延スコトガ適當デヤナイカト
 云フ御議論ト承ツタノデアアル、然ルニ限月問題ハ三年前カラ覺悟致シタ問題デアリマシテ、堅實
 ナル實業家ハ勿論其用意ヲ致シテ居ルノデアリマス、現ニ此問題ニ對シテ運動致シテ居リマス
 取引所ノ内情ヲ聽キマシテモ、實際他ノ取引所ノ人々ハサウ熱心デナイノデアリマス、獨リ東京
 ノ取引所ノ人々ガ稍熱心ノヤウニ思フノデアリマス、財界ニ影響ガ非常ニ大キイ、即チ限月短縮
 斷行ト同時ニ非常ニ打撃ヲ及ボスト云フコトガ、確カナ事實ト致シマスナラバ、考慮スル餘地モ
 アリマスケレドモ、政府ノ調査致シタ所ニ依リマシテモ、且又具眼者ノ意見ヲ徵シマシテモ左様
 ナ憂ハ少シモ無イト考ヘマス、即チ限月短縮問題ガ議會ノ問題トシテ起ラウト云フ場合ニナリ

マシテ、多少希望ヲ持ツタ人ガアリマシテ、波動ガアリマシタケレドモ、今日ニ於キマシテハ大體
 ニ於キマシテ、現實ニ取引所ノ相場ニ於キマシテ、所謂短縮相場ナルモノガ現ハレテ居ルノデア
 リマス、若シ之ヲ四月一日カラ斷行致シマシタ際ニ影響ガアルト致シマシテモ、只今ノ短縮相場
 ノ現ハレテ居ル上ニ、更ニ何カ現ハレルナラバ、當所株ノミデアリマス、當所株ニ致シマシテモ
 最早限月短縮ヲ豫期シタ相場ガ現ハレテ居ルト思フノデアリマス、他ノ事業株ニ付キマシテハ
 更ニ影響ハアリマセヌ、現ニ株式取引所ニ於ケル最モ花形株ト稱セラル、所ノ鐘紡新株ノ如キ
 ハ、少シモ動イテ居リマセヌ、是等ノ狀況ヲ以テ考ヘテ見マシテモ、經濟界ニ非常ナ打撃ヲ與
 ルト云フヤウナ御心配ハ、全ク私ハ御無用デアルト考ヘルノデアリマス、其上政府ハ既ニ此準備
 ヲ急ギマスル爲ニ即チ三箇月ヲ二箇月ニ致スデアリマスカラシテ、或ハ一箇月限ノ二本建ニ
 スルカ、或ハ二十日限ノ二本建ニスルカ、十五日限ノ四本建ニスルカト云フコトハ、此移リ變リ
 ト云フモノハ非常ナ複雑ナ關係ヲ生ジマスルガ故ニ、之ヲ圓滑ニ移リ變ラシムルト云フコトガ、
 寧ロ限月ノ斷行ニ依ル影響ヨリモモット心配シナケレバナラヌ問題デアリマス、故ニ豫メ政府ハ
 當業者ニ注意ヲ與ヘマシテ、此用意ヲ怠ルコトナキコトヲ注意致シタノデアリマス、幸ニシテ當
 業者モ其覺悟ヲ致シテ、限月斷行ノ際ニ於ケル、即チ限月ヲ二箇月ト致シマシタ結果ト致シマシ
 テ、其取引ノ方針ニ付キマシテ段々協議致シテ居ルノデアリマス、是ガ最早一日モ緩ウスベカラ
 ザル状態デアルノデアリマスカラ、若シ茲ニ此案ガ通ルヤウナ事ガアルト假定致シマスナラバ、
 非常ナ騒ギガ起ルノデアリマス、又貴族院ノ此前ノ改正案ノ通過ノ時分ノ關係ヲ見マシテモ、貴
 族院ハ限月短縮二箇月、即チ二箇月程度ニスルコトハ長過ギル、寧ロ一箇月ニスベシト云フ議論
 ガ多クアリマシテ、委員會ハ正半數デアリマシタノヲ、幸ニ當時ノ委員長奧平伯爵ガ政府案ニ贊
 成致シマシタ爲ニ、原案ハ通ツタヤウナ次第デアリマシテ、斯様ナ歴史ヲ有スル貴族院ニ於テ、斯
 様ナ案ガ通ル譯ガナイト思フ、サウ致シマスト斯様ナ望ムベカラザルモノニ望ヲ囑シテ、事情ニ
 通ジナイ者ガ此爲ニ却テ財界ヲ亂サヤウナ結果ヲ來スモノト思フノデアリマス、故ニ私ハ成ル
 ベク速ニ此問題ヲ解決シテ、サウシテ徒ニ望ムベカラザルモノニ希望ヲ附シテ、財界ヲ騒ガサヤ

ウナコトハセヌヤウニ致シタイト思ヒマス、此趣意ニ於テ此案ガ成ルベク速ニ否決セラレンコトヲ政府ハ希望スルノデアリマス

次テ本案ノ第二讀會ヲ開クヤ否ノ採決ニ付テハ若尾璋八君外二十八名ヨリ無名投票、井本常作君外五名ヨリ記名投票ノ要求アリシニ依リ議長ハ其ノ何レニ依ルヘキカヲ起立表決ノ結果起立者少數ニテ無名投票ノ要求ハ否決セラル依テ記名投票ニ依リ採決ノ結果ハ二百十九ニ對スル三十六ノ少數ニテ本案ハ第二讀會ヲ開カサルニ決セリ

三〇 日本勸業銀行法中改正法律案

日本勸業銀行法中ノ通改正ス

第十五條第四項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

都市計畫法ニ依リ土地區劃整理ヲ施行スル場合ニ於テ土地區劃整理組合若ハ其ノ聯合會ヨリ借用ヲ申出タルトキ又ハ共同施行者カ連帶責任ヲ以テ借用ヲ申出タルトキハ抵當ヲ徴セスシテ定期償還貸付若ハ年賦償還貸付ヲ爲スコトヲ得

三一 北海道拓殖銀行法中改正法律案

北海道拓殖銀行法中左ノ通改正ス

第八條第四項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

都市計畫法ニ依リ土地區劃整理ヲ施行スル場合ニ於テ土地區劃整理組合若ハ其ノ聯合會ヨリ借用ヲ申出タルトキ又ハ共同施行者カ連帶責任ヲ以テ借用ヲ申出タルトキハ年賦若ハ定期償還ノ方法ニ依リ無抵當貸付ヲ爲スコトヲ得

三二 農工銀行法中改正法律案

農工銀行法中左ノ通改正ス

第六條第五號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

六 都市計畫法ニ依リ土地區劃整理ヲ施行スル場合ニ於テ土地區劃整理組合若ハ其ノ聯合會ヨリ借用ヲ申出タルトキ又ハ共同施行者カ連帶責任ヲ以テ借用ヲ申出タルトキハ無抵當ニテ本條第一號、第二號ノ貸付ヲ爲スコト

第七條ノ四中「第六條第三號乃至第五號」ヲ「第六條第三號乃至第六號」ニ改ム

右三案ハ執レモ十四年三月十日砂田重政君外二名之ヲ提出ス三月十四日三案ヲ一括シテ其ノ第一讀會ヲ開キ提出者(砂田重政君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本案ハ都市計畫ヲ實行致シマスル都會地ニ於ケル隣接町村ガ、區劃整理組合ヲ設ケマシタ際ニ

於キマシテ、之ヲ耕地整理組合ト同様ニ取扱フテ、此組合若クハ組合ノ聯合會ニ對シテ無擔保貸付ヲ許スト云フ趣旨ニ、現行ノ法律ヲ改正ヲ致シタイト云フ趣旨デ、三案共同一ノ趣旨ニ依テ提案ヲ致シテ居ルノデゴザイマス、詳細ハ委員會ニ於テ説明ヲ致シマスカラ、何卒御賛成ヲ希望致シマス

次テ三案ハ政府提出日本銀行手形割引ニ因ル損失ノ補償ニ關スル法律案(本項第一(四五)委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ハ審査ノ末第一案及第三案ハ修正、第二案ハ之ヲ可決スヘキモノト決シ三月十九日報告書ヲ議長ニ提出セリ

(第一案委員會報告書)

(小字ハ委員會修正)

日本勸業銀行法中左ノ通改正ス

第十五條第四項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

都市計畫法ニ依リ土地區劃整理ヲ施行スル場合ニ於テ土地區劃整理組合若ハ其ノ聯合會ヨリ借用ヲ申出タルトキ又ハ共同施行者カ連帶責任ヲ以テ借用ヲ申出タルトキハ抵當ヲ徵セスシテ定期償還貸付若ハ年賦還償貸付ヲ爲スコトヲ得

第十五條ノ二中「第十五條各項」ヲ「第十五條第一項乃至第四項」ニ改ム

(第二案委員會報告書)

(ハ委員會修正)

農工銀行法中左ノ通改正ス

第六條第五號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

六 都市計畫法ニ依リ土地區劃整理ヲ施行スル場合ニ於テ土地區劃整理組合若ハ其ノ聯合會

ヨリ借用ヲ申出タルトキ又ハ共同施行者カ連帶責任ヲ以テ借用ヲ申出タルトキハ無抵當ニ

テ本條第一號第二號ノ貸付ヲ爲スコト

第七條ノ四中「第六條第三號乃至第五號」ヲ「第六條第三號乃至第六號」ニ改ム

三月二十日三案ヲ一括シテ其ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長柵瀬軍之佐君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

只今議題ニ供セラレマシタ三案ノ中、先以テ日本勸業銀行法中改正法律案ノ委員會ノ經過結果ヲ申上ゲマス、此勸業銀行法中ノ「第十五條第四項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ」ト云フコトデ、一ツ項目ガ加ハルノデアリマス、所ガ之ヲ加ヘマスルト云フト、割増金附ノ勸業債券ニ依テ得タル資金ヲ、之ニ貸付ケネバナラヌト云フ結果ニナルト云フコトデアリシテ、委員會ニ於キマシテハ政府ト種々交渉ノ結果、斯クシテモ差支ナイカト云フ政府ノ意見ヲ徵シタノデアリマス、所ガ政府ハ此項目ヲ加ヘルコトニハ異議ハ無イノデアリマスルガ、斯様ニ修正シテ戴ケバ贊成ガ出來ルト云フコトデアリマス、即チ「第十五條ノ二中」「第十五條各項」ヲ「第十五條第一項乃至第四項」ニ改ム、斯様ニ致シマスルト云フト、第十五條ノ二ノ中ニハ、今マデハ現行法ニ依リマスルト云フト四項アリマス、此四項ニ對シマシテハ全部割増金附ノ債券ノ資金ヲ貸得ルコトニナツテ居ルノデアリマスルガ、此今度差加ヘマスル一項ヲ其儘ニ致シテ置キマスルト云フト、自ラ矢張農業資金ノ性質ヲ持ッテ居ル割増附ノ債券ノ資金ヲ貸サネバナラヌコトニナルノデアリマス、斯様ニナリマスコトハ甚ダ困ルト云フノデ、茲ニ今現在ノ各項トアリマスモノヲ、第一項乃至第四項ト制限致シ

テ、今回追加致シマスル第五項ト云フモノヲ除外スルコトニ致シタノデアリマス、其結果除外例ト致シタノデアリマス、此事ニ付テハ委員諸君ト政府ト種々意見ヲ交換シマシタ結果、別段政府ノ主張ニ異議ガ無イト云フコトデ、又提案者モソレデ宜シイト云フコトデアリマシテ、政府ノ主張通り斯様ニ決定致シタ次第デアリマス、北海道拓殖銀行法中改正法律案、是ハ全部原案ノ通り承認ヲ致スコトニ致シマシタ、可決致スコトニナリマシタ、農工銀行法中改正法律案、是ハ矢張只今申上ゲマシタ趣旨ニ基キマシテ、此改正案ノ中ニ規定シテアリマスル第七條ノ四中、第六條第三號乃至第五號「ヲ」第六條第三號乃至第六號「ニ」改ムト云フ其末項ヲ削除致シマスルト云フト、自ラ割増金附債券ニ依テ得タル資金ノ貸付ヲ爲シ得ナイコトニナリマスルノデ、是ハ大口喜六君ヨリ削減ノ動議ガ出マシテ、其通り決定致シマシタ、右御報告申上ゲマス

院議異議ナク三案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ委員會報告ノ通第一案及第三案ハ修正議決ヲ爲シ、第二案ハ可決即日三案全部ヲ貴族院ニ送付シタルモ同院ハ議決ヲ爲スニ至ラサリキ

三三 刑餘者ノ資格ニ關スル法律案

第一條 左ニ掲クル者ハ人ノ資格ニ關スル法令ノ適用ニ付テハ將來ニ向テ刑ノ言渡ヲ受ケサリシモノト看做ス

- 一 死刑又ハ無期ノ懲役若ハ禁錮ニ處セラレタル者ニシテ其ノ執行ノ免除ヲ受ケ又ハ六年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ處セラレタル者ニシテ其ノ執行ヲ終ヘ又ハ執行ノ免除ヲ受ケタルトキ

ヨリ十年ヲ經過シタル者

- 二 六年未滿ノ懲役若ハ禁錮、罰金、拘留、科料ニ處セラレタル者ニシテ其ノ執行ヲ終ヘ又ハ執行ノ免除ヲ受ケタル者

第二條 刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタル者ハ其ノ猶豫期間中刑ノ執行ヲ終ヘタルモノト看做ス
前項ノ場合ニ於テ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消サレタルトキハ其ノ取消サレタル時刑ノ言渡アリタルモノト看做ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
他ノ法令ニ於テ罪ヲ犯シタルノ故ヲ以テ一定ノ期間人ノ資格ニ制限ヲ爲シタルモノハ本法施行後ト雖仍其ノ效力ヲ有ス

右ハ十四年三月十日禱苗代君外二名之ヲ提出ス三月十四日本案ノ第一讀會ヲ開キ提出者(禱苗代君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

只今上程サレテ居リマスル法律案ノ提出ノ理由ヲ極ク簡單ニ申述ベテ見タイト思ヒマス、刑罰ノ目的ハ御承知ノ通り、一般豫防ト致シマシテハ勸善懲惡デアリマス、特別豫防トシテハ改過遷善デアリマス、既ニ刑罰ニ處セラレマシテ改過遷善ノ實ガ舉リマシテモ、尙更ニ其以上ニ懲戒ヲスルト云フ必要ハ無イノデアリマス、是ガ即チ刑罰ヲ行フ所ノ其目的ノ大體デアリマス、古語ニ曰ク

「之道クニ政ヲ以テシ之ヲ齊シクスルニ刑ヲ以テスル」ニ換ヘテ、之ヲ道クニ德ヲ以テシ之ヲ齊シクスルニ禮ヲ以テスルナラバ、是ガ即チ刑事政策ノ根本義デアルト思ヒマス、此意味ニ於キマシテ既ニ刑辟ニ觸レタ者デアリマシテモ、其改善ノ實ガ舉リマシタナラバ、其人ノ資格ト云フモノヲ即時之ヲ回復スルト云フノガ、即チ刑事政策ノ今日ノ要求デアリマス、ケレドモ總テノ此刑餘者ニ對シテ、直ニ其資格ヲ回復スルト云フコトハ、是ハ尙ホ尙早ノ感ガアリマスノデアリマスカラ、漸進的ニ先以テ重罪ヲ犯シタル者ニ對シテハ、其改心致シマシタ後相當ノ期間其資格ニ制限ヲ附シテ、其他ノ者ニ對シテハ即時ニ此資格ヲ回復セシムルト云フコトガ、即チ刑事政策上竝ニ社會政策上ノ緊要ナル事デアルト信ズルノデアリマス、故ニ今日存在シテ居リマスル所ノ各種法律ニ對シテ、其資格ガ制限セラレテ居リマスルガ、之ヲ只今申上ゲマシタ趣旨ニ於キマシテ、改正ヲ加ヘントスルノガ、即チ本案提出ノ趣旨デアリマス、何卒滿場ノ御賛成ヲ願ヒタイノデアリマス

次テ本案ハ關直彦君外四名提出法律事務取扱ニ關スル法律案(一四)委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ハ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月二十四日報告書ヲ議長ニ提出セリ

三月二十九日本案ノ第一讀會ノ續會ヲ開ク

岩崎勳君ハ此ノ際委員長ノ報告ヲ省略シ第二讀會ヲ開クヘシトノ動議ヲ提出シ院議異議ナク之ニ決ス次テ作間耕逸君ハ本案ノ第二讀會ハ定規ノ日數ヲ經テ之ヲ開クヘシトノ動議ヲ提出シ院議之ヲ採用スルニ決シタルモ翌二十日會期終了セルニ依リ終ニ議決ヲ爲スニ至ラサリキ

三四 借家法中改正法律案

借家法中左ノ通改正ス

第三條第一項及第二項ヲ左ノ如ク改ム

賃貸借ノ存續期間ハ營業店舗ニ使用スルモノニ付テハ五年、其ノ他ニ使用スルモノニ付テハ三年トス

當事者カ前項ニ規定スル期間ヨリ長キ期間ヲ定メタルトキハ其ノ定ニ從フ

期間ノ定ナキ賃貸借ノ賃貸人ノ解約申入ハ第一項ノ期間ヲ經過シタル後ナルコトヲ要ス

第五條ノ二 賃貸人ハ建物ノ借賃、借賃ノ保證、造作代金ノ外權利金其ノ他特殊ノ利益ヲ收受スルコトヲ得ス但シ賃借人カ其ノ建物ニ付特殊ノ利益ヲ收受シ得ヘキ情況アリテ賃借人カ裁判所ノ許可ヲ得タル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十一條但書ヲ左ノ如ク改ム

但シ賃貸借ノ期間及賃貸人ノ解約申入ノ猶豫期間ニ付テハ既ニ經過シタル期間ヲ算入ス

右ハ十四年三月十日作間耕逸君外二名之ヲ提出ス三月十四日本案ノ第一讀會ヲ開キ提出者(作間耕逸君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

提案ノ理由ヲ簡單ニ説明致シマス、都市ノ住宅難ニ伴ヒマスル借家爭議ハ、勞働爭議竝ニ地方ニ於ケル小作爭議ト共ニ、近時大ナル社會問題ノ一ツト相成リマシタ、政府ハ曩ニ借地借家法ヲ制

定シ、又其借地借家ノ調停法ヲモ制定致シマシムガ、未ダ以テ爭議ヲ根本ニ解決スルニ至リマセ
 ス、又固ヨリ爭議ヲ未然ニ防止スルト云フニモ至ラナイノデアリマス、現行借家法中不備ノ點ハ
 家賃ノ定率ニ關シ、或ハ又家賃ノ値上ノ率ニ關シ、或ハ又家賃ノ保證、即チ敷金ノ制限等ニ關シ、
 或ハ又借家人ノ交替シタル場合、即チ借家權ヲ讓渡ス場合ニ於ケル家主ノ承諾關係等ニ關シテ、
 何等ノ規定ノ無イ點デアリマスガ、尙ホ其他ニ借家機關ノ定メノアラザルコト、竝ニ權利金等ノ
 不當要求ヲ禁ジテナイコトガ、借家人ト致シマシテ最モ忍ビ難キ事トナツテ居ルノデアリマス、
 本法案ハ差當リ專ラ此二點ヲ補助セントスルモノデアリマシテ、現行法ニ依リマスト、期限ノ定
 メノ無イ場合ニ於テハ、家主ハ何時ニテモ僅ニ六箇月ノ猶豫ヲ以テ貸借借ヲ解約シテ、明渡シヲ
 要求スルコトガ出來得ルコトニ相成ツテ居リマス、借家人ガ自己ノ義務ヲ履行シナイ場合ニ於テ
 ハ、是ハ自ラ招ク所ノ罪デアリマスルカラ致方アリマセヌケレドモ、借家人ガ家賃ノ支拂、其他
 ノ義務ヲ完全ニ實行致シテ居リマシテモ、尙且ツ家主ノ自由意思ヲ以テ何時デモ解約ヲスルコ
 トヲ得ルコトニナツテ居リマスルノハ、往々家主ガ眞ノ必要ニ迫ラレタルニ非ズシテ、唯不當
 ナル家賃ヲ値上ゲシタイ、若クハ不當ノ雜作ヲ高ク賣リ付ケタイト云フヤウナ場合ニ、其解約ヲ
 濫用セラレルコトガアルノデアリマス、斯ノ如キ狀態デハ、借家生活ノ安定ヲ害シマシテ、殊ニ
 ソレガ營業店舗デアリマスル場合ニハ、延テ都市ノ商工業ノ發展ヲ阻害スルコトニ相成ルノデ
 アリマス、解約權ハ家主ノ權利ニ屬シマスル一ツノ武器デハアリマスケレドモ、一部ノ横暴ナル
 家主ノ爲ニハ之ヲ兇器ニ善用セラレル場合モ尠カラヌデアリマス、又權利金ハ多クハ不當ノ
 請求ニ係ルモノデアリマスルカラ、茲ニ其解約權ヲ善用スル者ノ爲ニ、其兇器ヲ家主ヨリ取上ゲ
 タイト存ジマスルシ、又權利金等ハ特殊ノ事情カラ致シマシテ、裁判所ノ許可ヲ得マシタ場合ハ
 格別、原則ト致シマシテハ之ヲ廢セント致シマスル趣旨ヲ以テ、本案ヲ提出致シタルノデアリマ
 ス、即チ借家人ト致シマシテハ、家主ノ地位ト利益トハ十分ニ考慮致シマシタル所ノ最小限度ノ
 要求デアリマシテ、諸君ニ於カセラレマシテハ何卒此市民生活ガ即チ商工生活デアル、而シテ又
 市民生活商工生活ハ即チ借家人生活デアル、而シテ借家人生活ノ反映ハ廳テ家主其者ノ爲ニモ

利益ヲ均霑セシムル關係ニアル事ニ思ヒ及ボサレテ、一段ノ御理解御同情ヲ以テ、本案ニ對シテ
 然ルベク御審議アラシコトヲ希望致ス次第デアリマス
 次テ本案ハ議長指名(九名)ノ委員ニ付託スルニ決シ即日議長之ヲ指名ス委員ハ同月十六日委員會
 ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末原案ヲ修正スヘキモノト決シ三月二十四日報告書ヲ議
 長ニ提出セリ

(委員會報告書)

(小字及一ハ委員會修正)

借家法中左ノ通改正ス

第三條第一項及第二項ヲ左ノ如ク改ム

貸借借ノ存續期間ハ營業店舗ニ使用スルモノニ付テハ五年、其ノ他ニ使用スルモノニ付テハ
 三年トス

當事者カ前項ニ規定スル期間ヨリ長キ期間ヲ定メタルトキハ其ノ定ニ從フ

三、且期間ノ定ナキ貸借借ノ貸借人ノ解約申入ハ第一項ノ期間ヲ經過シタル後ナルコトヲ要ス但シ
 改築其ノ他已ムラ得サル事由アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五條ノ二、貸借人ハ建物ノ借賃、借賃ノ保證、造作代金ノ外權利金其ノ他特殊ノ利益ヲ收受ス
 ルコトヲ得ス但シ賃借人カ其ノ建物ニ付特殊ノ利益ヲ收受シ得ヘキ情況アリテ賃借人カ裁判

所ノ許可ヲ得タル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十一條但書ヲ左ノ如ク改ム

但シ賃貸人ノ解約申入ノ猶豫期間ニ付テハ既ニ經過シタル期間ヲ算入ス

三月二十五日本案ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長廣瀨德藏君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

借家法中改正法律案ノ委員會ノ顛末ヲ御報告申上ゲマス、本案ハ其趣旨トスル所ニ點デアリマス、第一點ハ賃貸借ノ存續スル期間ノ最短期ヲ定メタイト云フ事デアリマス、即チ營業店舖ニ使用スルモノニ付テハ其最短期ヲ五箇年ト致シ、其他ノ使用ヲ目的トスルモノニ付テハ二年ト致シタイト云フコトガ第一點デアリマス、第二點ハ賃貸人ヲシテ不當ノ利益ヲ取ラセナイヤウニシタイト云フノデアリマス、即チ敷金トカ、造作代金ト云フヤウナ事ヲ禁止致シタイト云フノガ謂權利金ト稱スルガ如キ名前ノ下ニ、莫大ナル金額ヲ取ルヤウナ事ヲ禁止致シタイト云フノガ第二點デアリマス、本案ハ條文洵ニ簡單デアリマス、其内容ハ物ヲ所有スル者ト、之ヲ借りル者トノ間ニ於ケル利害ノ牴觸ニ關スルモノデアリマス、社會政策的立法ニ關スルモノデアリマス、其議論トナリマシタル點ハ、第一ハ餘リ借家人ヲ保護スルト云フト、家ヲ貸ス者ガ無クナリハシナイカ、少クトモ敷金ヲ多ク取ルト云フ結果ヲ生ジテ、却テ借家人ニ取テ不利益デハナイカト云フコト、家ヲ貸ス者バカリヲ取締ツテモ、地主ヲ取締ラナケレバ何ニモナラヌデハナイカト云フヤウナ點ガ第二、家主ニモ惡イ者ガアルガ、借家人ニモ随分酷イ者ガアルノデアルカラ、是モ取締ラナケレバイケナイデハナイカ、ト云フヤウナ點ニ付テ周到ナル論議ガ戦ハサレタノデアリマス、又横山委員ト政府委員トノ間ニハ種々ナル質問應答ガアリマシタガ、其中デ注意スベキモノハ、借家法ノ第三條ニハ解

約申出ハ六箇月ト云フコトニナツテ居ルケレドモ政府ノ原案ハ一年デアツテ貴族院ニ於テ六箇月ニ修正サレタノデアルガ、政府ハ斯様ナル六箇月ト云フ短イ期間ヲ以テ正當ナルモノト認ムルヤ、之ヲ改正スルノ意思ハナイカト云フ點デアリマス、政府ハドウモ六箇月デハ短イヤウニ思フガ、併シ今ソレヲ何年ニシテ宜イカト云フコトハ即答ヲスルコトハ困ル、併シ斯様ナル法律ハ尙ホ調査ヲ致シテ、改正案ヲ提出スルノ意思ハ持ツテ居ルガ、何時提出スルカハ今明言スルコトハ出来ナイト云フ點デアリマス、斯ノ如キ賃貸人ノ立場ニ立チ、或ハ反對ニ賃借人ノ立場ニ立チ、色々議論ノアツタ末討論ニ移ツタノデアリマス、政友本黨側ノ筒井民次郎君ヨリハ、原案ノ營業店舖ニ使用スルモノ五年トアルノヲ一年ト致シ、其他ノモノハ現行法ノ如ク六箇月ニシテ置キタイト云フ主張デアリマス、政友會ノ宮崎三之助君ハ、改正案ノ五年三年ト云フコトハ、今マデ世間ニ認メラレ來ツタ所デアルカラ之ヲ是認スルガ、權利金ノ條項ハ地主トノ關係モアルコトデアルカラ、暫ク之ヲ削除シテ置キタイト云フ意見デアリマシタ、即チ宮崎君提案ノ修正ノ趣意ヲ具體的ニ申上ゲマス、本案ノ第三項ニ但書ヲ設ケテ、改築其他已ムヲ得ザル事由ノアル場合ニ於テハ年限ニ拘ラズ家主ニ於テ明渡ノ請求ヲ爲シ得ルト云フコトヲ入レル、サウシテ第五條ノ權利金ニ關スル規定ヲ削除シタイト云フノガ宮崎君ノ意見デアリマス、尙ホ宮崎君ハ第三項ニ字句ノ修正ヲ加ヘテ、「期間ノ定ナキ賃貸借」ト云フ十字ハ無用ノモノデアアルカラ削リタイ、斯ウ云フ意見デアリマス、先ヅ政友本黨側ノ筒井君ノ意見ヨリ採決ヲ致シマシタガ、此修正案ハ少數デ否決トナリ、殘ル修正案ハ宮崎君ノ提案トナツタノデアリマス、此場合ニ於テ憲政會ノ委員ハ尙ホ原案ヲ支持スル考デアツタノデアリマシタガ、其時ノ狀勢ニ於テ固ク原案ヲ支持スルト云フコトハ、此案ノ成立ヲ妨グル虞アリト考ヘ、改善ヲ取リマシテ總テ宮崎君ノ提案ニ賛成ヲ致シマシタガ爲ニ、宮崎君ノ提案ハ多數ヲ以テ可決ヲ致シタト云フ次第デアリマス、此宮崎君ノ提案ニ依ル修正、只今申上ゲマシタ結果ニ付キマシテハ非常ニ道理モアルコト、存ジマス、願クハ此修正案通り、可決アランコトヲ希望致シマス

院議異議ナク本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開ク

筒井民次郎君ハ右ニ對シ修正案ヲ提出シ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

只今委員長ヨリ御報告ニナリマシタ借家法中改正法律案ハ、極メテ重大ナル案ト思フノデアリ
マス、茲ニ私ノ修正ノ意見ニ對スル理由ヲ此機會ニ申述ベタト思フノデアリマス、第一委員長
ノ御報告セラレマシタ宮崎案ノ即チ修正案ハ、却テ私ハ改惡デアルト思フノデアリマス、何トナ
レバ五年又ハ三年ト云フ期間ヲ延長スレバ、富豪ハ率知ラズ、以下ノ家主ハ必ズ敷金ヲ少クトモ
一箇年位ヲ要求スルコトニナル、又家賃等モ自然ニ高クナルコトハ是亦火ヲ賭ルヨリモ明ナ理
由デアルト思フノデアリマス、又第二、先年借地法ノ實施ニ對シテ私ノ聞ク所ニ依リマスルト、
地主ガ其後土地ヲ一切貸サヌト云フコトヲ聞クノデアリマス、地主自ラ貸家ノ經營ヲ爲シ、以テ
家屋ノ建設ヲシテ、サウシテ借家人ニ貸與ラスルト云フ有様デアルト云フコトヲ聞クノデアリ
マス、又自己ガ永久住ム所ノ家屋ヲ建設致シタト思ウテ土地ノ借入ヲ申込ミ、又ハ借家ノ經營
ヲ爲サントシテ、是亦地主ニ土地ノ借入ヲ申込シテ、甚ダ不便不利尠カラザル狀況デアアル、故ニ私ハ
却テ是等ノ多數ノ者ガ迷惑ヲシテ居ルト云フコトヲ聞クノデアリマス、第三、家主ガ家屋ノ明渡
ヲ要求スル場合ハ、最モ必要ニ依リ事情已ムヲ得ザル場合デアルト思フノデアリマス、然ラバ左
様ナ場合ハ、私ハ家主ニ於テ老舖料ト云フカ、又ハ立退料ト云フカ、若クハ移轉料ト云フカ、何レ
ノ名義ヲ問ハズ、家主ニ於テ相當支拂ツテヤルト云フコトガ私ハ時代ノ要求デアアルマイカト思フ
ノデアリマス、徒ニ期限ノミ長ク附シテモ、借家主ニ於テハ何等ノ利益ニナラザルノミデアアル、
又此期限内營業ヲスルノミデアアツテ、他ニ何等ノ利益ガ無イノデアリマス、ソレヨリ一年カ若ク
ハ六箇月間ニ此家屋ノ明渡ニ應ジテ、サウシテ右申上ダタ老舖料カ又ハ移轉料、或ハ立退料ヲ家
主ヨリ申受ケ、一日モ早ク家屋ノ明渡ヲスルト云フコトガ、即チ家主モ其目的ヲ達シ、又借家主
モ住居ノ安定ヲ得ルト云フコトニナラウト思フノデアリマス、雙方右申上ダタヤウナコトニ大
レバ利益ニナルカト思フノデアリマス、是ガ即チ私ハ社會政策ノ一デアアルマイカト思フノデア
リマス、又大阪方面ノ裁判所ノ調停ニ於テハ、私ノ申上ダタヤウナ事ハ幾多モ行ハレテ居ルノデ

アリマス、故ニ家主ト借家主ト争フト云フヤウナコトハ比較的少イノデアリマス、又第四、公益
ニ關スルコトヲ申述ベタト思ヒマス、既ニ六大都市ニ於テモソレゾレ都市計畫法モ行ハレ又
道路ノ擴張或ハ區劃整理、或ハ學校新設及交通機關、其他有ユル公共事業ノ施設ニ當リ、本案ノ
如キ五年又ハ三年ト云フヤウナ長イ期間ヲ附スルト云フコトニナレバ、必ズ支障ノ起ルト云フ
コトハ明デアルト思フノデアリマス、假ニ此修正案ノ只今委員長ノ申サレマシタ宮崎案、即チ此
但書ニ依テ、特別ノ事情アル場合ハ期限ニ拘ラズ明渡スト云フヤウナ事ガアリマスルガ、決シ
テ左様ナ事ハ私ハ無イ筈ト思フノデアリマス、茲ニ家主ト借家主ニ於テ類々ト争ノ起ルト云フ
コトハ、是亦火ヲ賭ルヨリモ明デアアル、又提案者ハ左様ナ場合ハ土地ノ收容法ヲ適用スレバ宜イ
ト言ハレルカモ知レマセヌガ、此收容法ガ一年ヤ半期テ決シテ行ハレルモノデナイノデアリマ
ス、又斯ノ如キ實例ハ今日マデ屢見ル所デアリマス、第五、私ハ此所謂店舖ヲ所有スル所ノ營業
者ニ對シテ一箇年、其他ハ六箇月ト云フコトヲ以テ最モ適法ナリト思フノデアリマス、又萬一家
主ト借家主トガ意見ノ相違ガアレバ、茲ニ此結構ナル調停法ニ依テ最モ公平ニ、而モ圓滿ニ解
決ガ出來ルノデアリマス、故ニ以上ノ理由ニ依テ本員ハ修正案ヲ提出シマシテ、尙ホ理由ヲ述
ベ、更ニ委員長ノ修正案ニ對シテ反對ヲスル所以デアリマス

右修正案ハ起立採決ノ結果起立者少數ニテ否決スルニ決ス次テ委員會報告ニ付起立採決ノ結果起
立者多數ヲ以テ委員會報告ノ通修正議決ヲ爲シ引續キ第三讀會ヲ開キ第二讀會議決ノ通修正議決
ヲ爲シ即日之ヲ貴族院ニ送付シタルモ同院ニ於テハ議決ヲ爲スニ至ラザリキ

三五 東京市ニ關スル法律案

第二章 議事 第四節 議案 第二款 議案ノ討議 第四項 法律案

第一條 東京市ハ從來ノ區域ニ依リ之ヲ府縣ノ區域外トス
 第二條 東京市ハ法人トス官ノ監督ヲ承ケ法令ノ範圍内ニ於テ其ノ公共事務並從來法令若ハ慣例ニ依リ府若ハ市ニ屬スル事務及將來法律勅令ニ依リ市ニ屬スル事務ヲ處理ス
 第三條 市制中市稅ノ賦課ニ關スル規定ノ外府縣稅ノ規定ヲ準用ス
 從來府ニ於テ賦課スル賦金ノ徵收ニ付テハ市稅ニ準シ市ニ於テ之ヲ賦課シ其ノ支辨ハ從前ノ規定ニ據ル

第四條 東京市ハ內務大臣之ヲ監督ス

第五條 市制中府縣知事又ハ府參事會ノ權限ニ屬スル事項ハ內務大臣之ヲ行フ

第六條 市制中監督官廳ノ裁定決定裁決又ハ處分ニ關シ出訴シ得ヘキ事項ニ付テハ直ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第七條 市制中府參事會ニ於テ市會又ハ市參事會ニ代リテ處置スヘキ事項ハ內務大臣ノ許可ヲ經テ市長之ヲ處置シ次ノ市會又ハ市參事會ニ報告スヘシ

第八條 本法ニ規定スルモノノ外總テ市制ノ規定ニ據ル

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

右ハ十四年三月十三日賴母木桂吉君外十二名之ヲ提出ス三月十九日本案ノ第一讀會ヲ開キ提出者(作間耕逸君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

提案ノ理由ヲ簡單ニ説明致シマス、帝國ノ首都デアリ、廣袤五方里、人口二百四十萬、經常費年額二億五千萬圓ニ上ッテ居リマス所ノ規模廣大、經營多端ナル我ガ東京市ヲ、地方邊陲ノ小都市ト同一ノ制度ノ下ニ律シテ參ラウト云フコトノ不合理デアリ不適切デアリ、是ガ帝都ノ進運ヲ阻害シ、延イテハ帝國國運ノ消長ニモ關係スル問題デアリマスルト云フコトハ、獨リ東京市民ノ熱烈ナル輿論デアリマスルバカリデナク、近來ハ國民大多數ノ希望トナッテ參リマシタ、故ニ本院モ殆ド毎回此趣旨ノ建議ヲ可決セラレマシテ、又貴族院モ同一趣旨ノ院議ヲ表明セラレマシタコトガ、實ニ一再ナラズデアリマス、政府ハ曩ニ大都市制度調査會ヲ設ケマシテ、東京市ヲ初メ、帝國ノ大都市ニ通ズル所ノ制度ヲ研究調査サレル特別ノ機關ヲ設置セラレマシテ、既ニ其調査ヲ終ヘ、大體ノ成案ヲ、東京市ノ分ハ出來上ッテ居ル筈デアリマス、吾々ハ定メシ政府ハ今期議會ノ劈頭ニ於テ得々トシテ此大東京都制案ヲ提出セラレルモノデアラウト期待シテ居リマシタ所ガ、豫期ニ反シマシテ今日マデ未ダ其提案ヲ見マセヌノハ頗ル遺憾ト存ズルノデアリマス、恐ラク是ハ都制ヲ布キマスル地域ノ問題トカ、或ハ都長選定ノ問題トカニ關シマシテ、何等カノコダハリガアルノデアラウト察セラレマスルガ、併ナガラ今ヤ都市ノ住民ト致シマシテハ、同様な問題ニコダハッテ居リマスルガ、其爲ニ此都市制度ノ制定ヲ長ク遷延セシムルコトヲ許ス譯ニハ參リマセヌ、即チ其大都市制度ノ施設ト云フモノハ、頗ル緊急ヲ要スルモノガアルノデアリマス、仍テ此所ニハ唯其都市制度ノ一端ヲセメテハ此際實現致シタイト云フ趣旨ヲ以チマシテ、即チ過渡的立法、暫定法律トデモ申シマセウカ、本案ヲ提出致シマシテ、サウシテ何レ近キ將來ニ於テ都制ノ完全ナル執行ヲ見マスルマデノ間、差當リ現在ノ市ノ地域ヲ以テ此法律ノ適用地域ト致シマシテ、此地域ニ於ケル所ノ府ヲ廢シ、府ノ現在ノ事務ヲ市ニ合セマシテ、府ノ府下ヲ市ニ移シマシテ、是ガ行政監督ノ二重制ヲ完全ニ撤廢致シマシテ、サウシテ內務大臣直接監督ノ自治

體ト致シマシテ、府知事、府參事會ノ權限事項ヲ內務大臣ニ於テ行ヒ、又直接行政裁判所ニ對スル出訴ヲ許シマス等ノ規定ヲ設ケ、以テ急切ナル當面ノ時代ノ要求ニ應ゼントスル趣旨デアリマス、尙ホ本案ノ内容ニ關シマスル詳細ノ説明ハ、之ヲ委員會ニ讓ルコトニ致シマスガ、何卒本案ニ對シマシテ十分ノ御諒解ト十分ノ御同情トヲ以テ、速ニ協贊ヲ與ヘラレンコトヲ御願ヒ致シマス

次テ本案ハ議長指名(九名)ノ委員ニ付託スルニ決シ即日議長之ヲ指名ス委員ハ翌二十日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月二十二日報告書ヲ議長ニ提出セリ

三月二十五日本案ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長吉川吉郎兵衛君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

只今上程サレマシタル案ハ、東京市ニ關スル法律案デアリマス、此委員會ノ經過及結果ノ大要ヲ御報告申上ゲマス、此趣旨ハ東京市ハ二百萬以上ノ人口ヲ有シテ居ルニ拘ラズ、他ノ五萬トカ六萬トカ云フ小都市ノ制度ト、同一ノ制度ヲ以テ律セラル、コトハ洵ニ迷惑デアルノミナラズ、大ニ自治ノ圓滿ナル向上發展ヲ妨グルガ故ニ、府縣ノ中ヨリ東京市ヲ分離シテ獨立ト爲シ、二重監督ノ弊ヲ除却シテ、事務ノ進捗ヲ圖リ、大ニ自治ノ圓滿ナル向上發展ヲセシメンガ爲ニ、此法律案ヲ提出シタト云フ理由デアリマス、之ニ依リマシテ委員、提出者、當局者ノ間ニ於キマシテ質問應答ヲ數回重ネラレタノデアリマスガ、當局ノ意嚮ハ、只今臨時大都市制度調査會ニ付シテ居ル所ノ其案ニ依リマシテ、其案ヲ土臺トシテ今專ラ調査研究ヲ致シテ居ッテ、都制案、之ヲ來期ノ議會ニ是非提出シタイト思ッテ居ル、故ニ其案ト是トハ、牴觸ヲ爲シ、或ハ衝突ノ箇所ガアルガ故ニ、今直ニ之ニ同意ヲ與ヘルコトハ出來得ナイト云フヤウナ意嚮デアリマシタ、然ルニ委員ハ最

早本年此議會ニ其都制案ガ提出サレルモノト信ジテ居ッタニ拘ラズ、未ダ提出ノ運ビニ到ラズ、來期ニ於テ出スト言ハレテモ、今日迄ノ狀態ヲ考ヘルト、俄ニ是亦信ズル譯ニ參ラヌノデ、兎ニ角此案ハ來年出スト云フ都制案ヲ、是非共來年ハ提出シテ貫ヒタイト云フ請求ノ意味ニ於テモ、此案ヲ可決シナケレバナラヌト云フ原案贊成者ノ意見デアリマス、之ニハ反對ノ意見モアリマシタガ、要スルニ此以上詳細ノコトハ速記録ニ讓リマシテ、大體ヲ茲ニ御報告致シマシテ結論ニ移リマス、而シテ採決ノ結果ハ大多數ヲ以テ原案ヲ可決致シタノデアリマス、何卒滿場ノ諸君ニ於カセラレテモ、滿場一致委員長報告ノ通り可決セラレンコトヲ切望致シマス

院議異議ナク本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ委員會報告ノ通可決確定シ即日之ヲ貴族院ニ送付シタルモ同院ハ議決ヲ爲スニ至ラサリキ

三六 關稅定率法中改正法律案

關稅定率法別表輸入稅表中左ノ通改正ス

第二百七十二號第一項及第二項ヲ左ノ如ク改ム

一 單撚ノモノ及雙撚ノモノ		
甲 生ノモノ(瓦斯燒シタルモノヲ含ム)	無	稅
乙 單ニ漂白シタルモノ	每百斤	一、〇〇
丙 其ノ他	同	三、〇〇
其ノ他		無
		稅

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

右ハ十四年三月十四日砂田重政君外二名之ヲ提出ス三月十八日本案ノ第一讀會ヲ開キ贊成者(山本芳治君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本案ハ綿絲ノ輸入關稅ヲ廢止致シタイト云フ法律案デアリマス、國民生活ノ上カラ考ヘマシテモ、我國ノ産業政策ノ上カラ申シマシテモ、重要ナル法案ト考ヘマスカラ、一應提案ノ理由ヲ説明スルコトヲ御許ヲ得タイノデアリマス、提案ノ第一ノ理由ハ既ニ綿絲ノ輸入關稅ハ今日十分ニ其目的ヲ達成致シテ居ルノデアリマス、御承知ノ如ク我國ハ安政條約以來所謂條約改正ニ成功スル迄ノ間ハ、外國トノ協定稅率ニ拘束セラレマシテ、國定稅率ヲ定メルコトノ自由ヲ有シナカッタノデアリマス、然ルニ改正條約ニ成功致シマシテ、即チ明治三十二年以來今日ニ至ルマデ此綿絲ニ對シテハ所謂保護政策ヲ採リマシテ、輸入關稅ノ制度ヲ採リ來テ居ルノデアリマス、而シテ此二十數年ノ間ニ於キマシテ此政策ノ偉大ナル成績ヲ舉ゲタコトハ、恐ラク東西古今ニ互ッテ其類例ヲ見ナイノデアリマス、今此紡績鍾數ヲ見マスルト云フト、關稅政策ヲ樹立致シマスル當時ニ於テ、我國ノ紡績鍾數ハ五十萬内外デアッタノデアリマス、然ルニ今日ニ於キマシテハ四百萬鍾以上ニ達シテ居リマス、又是ガ消費スル所ノ棉花ノ高ハ英吉利ノ二百七十萬俵ニ對シテ、我國ハ内地ニ消費スルダケガ二百三十萬俵、之ニ支那ニ於ケル分工場ノ分ヲ合セマスト云フト、優ニ英吉利ヲ凌駕シテ居ルノデアリマス、其生産高ヲ申シマスルト、御承知ノ如ク綿絲、綿布共我國民ノ全部ニ對シテ供給致シマシテ、尙ホ年々綿絲、綿布ヲ合シテ四億萬圓内外ノ輸出ヲ致シテ居ルノデアリマス、資本關係ヲ申シマスルト、明治四十年ニハ拂込資金ガ五千五百萬圓デアッタノデアリマスガ、大正十二年ニハ約六倍ニ達シマシテ、即チ二億九千九百萬圓ニ達シテ居ルノデアリマス、積立金ハ明治四十二年ニハ一千九百萬圓デアアル、大正十二年ニハ其十倍以上、即

チ二億七百萬圓ニ達シテ居ルノデアリマス、營業狀態ハ御承知ノ如ク大正六年以後ノ上景氣時代ハ暫ク例外ト致シマシテ、大正九年ノ恐慌以來ハ我國ノ工業ハ一般ニ不振ヲ極メテ居リマス、然ルニ紡績事業ニ於キマシテハ過去三年間ノ平均利益、是ガ紡績聯合會五十五社ノ平均ハ二割五分デアリマス、併シ此中ニ所謂泡沫會社ガ入ッテ居ルノデアリマスカラ、之ヲ除外致シマシテ、所謂有力會社、即チ紡績鍾數ニ於テ四分ノ三ヲ占メテ居リマス所ノ十ノ會社ノ平均利益ヲ申シマスルト云フト、三割八分ニナッテ居ルノデアリマス、鐘紡ノ如キハ御承知ノ如ク此平均利益ガ約九割ニ及ンデ居リマス、此純利益金ノ中ニハ勿論重役ノ功勞金、社員ノ賞與金ハ含ンデ居リマセヌ、デ武藤山治君ガ此議場ニ於テ是等ノ利益ト云フモノハ通常ノ利益デアッテ、決シテ暴利デハナイ、突飛ナル利益デハナイ、斯様ニ申サレルノデアリマスガ、併ナガラ會社ノ每期ニ於ケル重役ニ對スル功勞金、此金額ガ突飛ニ多イ所カラ見マシテモ、會社自身ニ於テ之ガ突飛ナル利益デアルト云フコトヲ承認致シテ居ルノデアリマス、是ガ普通ノ會社ノ利益デアリマシタナラバ、重役ノ功勞金モ普通デナケレバナラヌ管デアアル、武藤君ハ會社ノ重役トシテ功勞金ヲ受ケテ居ル際ニハ、會社ノ利益ヲ以テ突飛ナル利益ト致シ、本議場ニ於テ會社ノ利益ヲ論ズル時ニハ之ヲ通常ノ利益ナリト言ハル、吾々ハ會社ノ暴利ヲ非難スルガ爲ニ此數字ヲ舉ゲタノデアアリマセヌ、元來國家ガ保護政策ヲ執リマシタノハ、即チ此紡績事業ノ隆昌ヲ希望スルガ爲デアアル、ソレ故ニ今日此事業ガ斯ノ如ク隆盛ニ赴キマシタコトハ、國家ノ爲ニ慶賀スベキコトデアアル、併ナガラ此程度マデ發達シ、既ニ保護政策ノ目的ヲ十全ニ達シマシタ以上ハ、此以上續イテ此關稅ヲ繼續スル必要ハナイモノト考ヘルノデアリマス、ノミナラズ、今日以後此保護政策ヲ繼續スルト云フコトハ、却テ紡績事業ノ健全ナル發達ヲ害スルモノト認メマス、我國ノ紡績事業ハ獨リ國內事業ニ止メズシテ、進ンデ國際事業、少クトモ東洋ノ綿絲界ヲ支配スルト云フ程度迄健全ナル發達ヲ爲サシメナケレバナラナイノデアリマス、其爲ニモ此溫室政策ヲ長ク繼續スルト云フコトハ甚ダ不利益デアルト考ヘルノデアリマス、第二ノ提案理由ハ國民生活ノ必需品即チ綿織物ノ價格ヲ低クシタイ、此希望ノ爲ニ此關稅ノ廢止ヲ希望スル者デアリマス、今日綿絲ノ輸入關稅

ヲ廢止致シマスレバ、此關稅ノ額ダケ綿絲ノ價格ノ下ルト云フコトハ極メテ見易イ事實デアアル、
 ノミナラズ今日我國ニ於キマシテ綿絲ノ價格ノ決定セラレル事情ヲ見マスルト云フト、甚ダ不
 愉快ナル事情ガアル、先般當議場ニ於テ武藤金吉君ガ説明セラレタルガ如ク、紡績聯合會ナルモ
 ノハ所謂「トラス」ヲ組織致シマシテ、公式或非公式ノ申合ヲ以テ操業短縮ヲ致シテ居ル
 デアリマス、而シテ生産高ヲ限定致シマシテ、人為的ニ綿絲ノ價格ノ吊上ヲ行ッテ居ル、武藤山治
 君ハ當議場ニ於テ今日ハ即チ近年ハ紡績會社モ操業短縮ハヤッテ居ナイ、斯様ニ言ハレルノデア
 リマスガ、成程近年ニ至リマシテハ此操短ハ巧妙ニナリマシタ、公式ノ決議ハ致シテ居リマセ
 ヌ、併ナガラ現ニ大正十二年以後ニ於キマシテモ、所謂紳士協約ヲ以テ依然トシテ此操業短縮ヲ
 實行致シテ居ルデアリマス、其當時ニ於キマシテ我國ノ紡績機械ノ生産能力ハ二十二萬梱デ
 アル、然ルニ實際ニ生産致シテ居リマス高ハ十五六萬梱以上ニ達セナイ、最高ガ十七萬梱デア
 ル、ソレガ爲ニ綿絲ガ暴騰致シマシテ國民ガ生活ヲ脅サレタコトガアル、斯ノ如ク公式ノ操業短
 縮ハ止メテ居リマスガ、非公式ノ操業短縮ハ依然トシテ行ハレテ居ル、武藤君ハ當議場ニ於テ帝
 國議會程能率ノ惡イモノハナイ、斯ウ言ハレルノデアリマスガ、吾々國民ハ紡績機械ノ能率ガ惡
 イ爲ニ屢生活ヲ脅サレテ居ル、是ガ今日ノ現狀デアリマス、兎ニ角我が國民ト致シマシテハ無産
 階級ニ至ルマデ綿絲ト云フモノハ必需品デ、此國民ノ必需品ニ人為的ノ價格ノ釣上ヲ行ハシメ、
 獨占事業的ノ術數ヲ施サシムル餘地ノアルコトハ、社會政策ノ上カラ申シマシテモ甚ダ忌ムベ
 キコトデアアル、其原因ハ何處ニ在ルカト言ヒマスレバ、即チ關稅ト云フ城壁アル爲メデアリマ
 ス、此城壁ト云フモノヲ一日モ早ク撤廢致シタイト思フノデアリマス、第三ノ提案理由ト致シマ
 シテハ、我が産業政策ノ上カラ論ジマシテ之ヲ廢止致シタイ、大正十二年ノ輸出ノ成績ヲ調ベマ
 スト云フト、綿絲ノ輸出高ハ七千八百萬圓デアリマシテ、綿布其他ノ綿製品ノ輸出高ハ三倍餘
 リ、即チ二億六千萬圓ニ達シテ居ルデアリマス、此數字カラ見マシテモ我國ノ輸出工業ノ中心
 ヲ綿絲ニ置カズシテ綿布ニ置クベキコトハ、自明ノ理デアリマス、殊ニ我國ノ如ク原料ガ乏シク
 シテ人口ノ多イ國柄ニ於キマシテハ、綿絲ノ如キ粗製品ニ中心ヲ置カズシテ、綿布ノ如キ比較的

勞力ヲ多ク要スル所ノ精製品ヲ中心トシナケレバナラナイコトハ申上ゲルマデモアリマセヌ、
 斯ノ如クニシテ初メテ我國ノ商品ヲ通ジテ我國ノ勞働ヲ外國ニ輸出スル所ノ途ガ開ケルノデア
 リマス、斯ノ如ク致シマシテ此關稅ヲ撤廢致シマスト云フト、綿絲ノ價格ハ安クナリ、操業短縮
 ニ依ル原料ノ不足ト云フモノモ無クナル、又一方ニ於テ支那ノ太物ナリ、英吉利ノ優良ナル細物
 ナリ、是等ノ物ヲ自由ニ吸收スル途ガ開ケルノデアリマスカラ、綿布類ノ工業ガ俄ニ發達スルト
 云フコトハ極メテ見易イ事實デアアル、武藤金吉君ノ御意見ニ依リマスレバ、數年ナラズシテ今日
 ノ三億萬圓見當ノ輸出ガ、六億萬圓ニナルト云フ御見解デアリマスガ、本員ニ於キマシテモ全然
 同感デアアル、今日ハ御承知ノ如ク輸入超過ノ不運ノ爲ニ、我が國民ハ上下ヲ通ジテ是ガ挽回ノ爲
 ニ腐心シツ、アル際デアリマス、斯様ナ際ニ於キマシテ此輸出政策ノ根本的方策ヲ樹テマシテ、
 而シテ今日ノ頽勢ヲ挽回スルト云フコトハ、極メテ機宜ニ適シタモノト考ヘルノデアリマス、武
 藤君ノ説ニ依リマスレバ、此關稅ヲ撤廢スレバ、日本ノ綿絲業者ガ支那ニ移轉スルト云フコトヲ
 言ハレルノデアリマスガ、今日ノ實狀ヲ見マス、支那ニ於キマシテモ、日本ニ於ケルト綿絲ノ
 生産費ニ於テ變リハナイ、ソレ故ニ此輸入關稅ヲ廢止致シマシテモ、俄ニ日本ノ紡績業者ガ支那
 ニ移轉スルト云フコトハ想像出來得ナイノデアリマス、假ニ一ニ會社ガ移轉致シマシテモ、之
 ニ代ルベキ新會社ガ出來マスルカラ、ソレガ爲ニ綿製品業者ガ原料ノ不足ニ困ルト云フコトハ
 決シテアリマセヌ、最後ニ此關稅ハ元來保護政策ノ爲ノ關稅デアリマシテ、收入政策ノ關稅デハ
 アリマセヌ、ソレ故ニ此關稅ヲ廢止致シマシテモ、我國ガ收入ノ上ニ蒙ル損害ハ僅ニ十三四萬圓
 デアル、而シテ此收入ハ將來ト雖モ決シテ増加スル見込ハナイノデアリマス、何故ナレバ我國ノ
 紡績聯合會ハ此關稅ヲ巧ニ利用致シマシテ、外國ノ綿絲ニ此關稅ヲ盛リ掛ケタ、其金額ヨリカモ
 幾分カ安イト云フ所ヲ狙ッテ相場ヲ決定致シテ居リマス、ソレ故ニ此關稅ガアル以上ハ如何ニ安
 イ外國ノ綿絲デモ之ヲ乘越エテ我國ニ侵入スル餘地ハナイ、斯様ナ有様デアリマスカラ將來ニ
 互リマシテモ、決シテ此關稅ヲ存續致シテ收入ヲ圖ルト云フ途ニナルコトハナイノデアリマス、
 要スルニ國家ハ十三四萬圓ノ收入ヲ棄テレバ數億萬圓ノ輸出工業ノ促進ヲスルコトヲ得ルノデ

アリマスカラ、其利害得失ハ深ク論ズルマデモアリマセヌ、以上ヲ以チマシテ提案ノ理由ノ大要ノ説明ニ致シマス、詳細ハ委員會ニ於テ申上ゲマス

次テ本案ハ武藤金吉君外一名提出綿絲關稅撤廢ニ關スル建議案(第五項第二(六七))外七件委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ハ審查ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ二月二十日報告書ヲ議長ニ提出セリ

即日議事日程ヲ變更シテ本案ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長武藤金吉君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

關稅定率法中改正法律案、即チ綿絲輸入關稅撤廢ノ改正法律案デアリマス、其内容ハ關稅定率法ノ二百七十二號ノ第一項及第二項ヲ修正スルノデアリマス、是ヨリ此案ヲ議スルニ先立チマシテ、當衆議院ヨリ建議案二案ガ、吾々委員ニ付託サレテアリマシテ、此二案ニ付キマシテ、數回ニ互リマシテ質疑應答ヲ試ミマシテ、政府ノ所見モ承ツタノデアリマス、其中ノ主ナル箇條ニ付キマシテ、茲ニ御報告ヲ致シタイト思ヒマス、綿絲ノ關稅ノ課稅ハ僅ニ二十四萬圓デアリマスケレドモ、此關稅ノアル爲ニ優良ナル外國ノ綿絲ガ入ッテ參リマセヌ、優良ナル綿絲ノ入ッテ參リマセヌノハ、綿製品ノ製造及綿製品ノ輸出ニ付キマシテ障リガアルカラ之ヲ撤廢ヲ致シテ、外國ノ日本デ出來マセヌ優良ナル綿絲ヲ輸入スルト云フコトモ一ツノ目的デアリマス、又此案ノ提出ノ時分ニ、提案者ヨリ説明サレタ趣旨、即チ國民生活ノ安定ヲ期スル爲ニ綿絲ノ輸入關稅ノ撤廢ヲ致シマシテ、國民多數ノ必需品タル木綿ヲ安ク國民ニ供給スルト云フノモ一ツノ目的デアリマス、又綿絲ノ儘デ外國ニ只今賣ッテ居リマスモノハ、七千八百萬圓、綿製品ニシテ賣ッテ居リマスモノハ、多イ時ハ三億三千萬圓ニナッテ居リマスガ、ソレヨリ下ラナイノデアリマス、此關稅ヲ撤廢致シマシテ、門戸ヲ開放シテ優良ノ絲ヲ入レ、サウシテ原價ヲ安クシマスレバ、我國ニ於キマシ

テノ綿製品及「メリヤス」等ノ工業ハ、非常ニ國內ニ發達ヲ致シマシテ、或ハ輸出貿易ノ大宗ト唱ヘラレテ居ル所ノ生絲ヲ凌駕スルコトハ易々タルモノデアリマス、試ニ數年間ノ綿製品ノ輸出額ヲ調べテ見マスレバ、大正五年ニ於キマシテハ僅ニ六千萬圓デアリマシタモノガ、大正六年以降大正十三年マデハ累次増進ヲ致シマシテ、今日ハ約七倍ノ増加ヲ致シテ居リマス、大正十二年ニハ二億六千四百四十九萬圓餘ノ輸出ニナッテ居ルノデアリマス、故ニ此綿製品ハ販路先ハ世界中ニ賣ラレテ居ルノデアリマス、而シテ世界ニ於ケル綿製品ノ一番ノ製造高ヲ持ッテ居ルノハ英吉利デアリマスガ、只今申ス通りニ、優良ナル綿絲ガ入り、綿絲ノ關稅ヲ撤廢致シマスレバ、世界ニ於ケル所ノ英國ノ販路、即チ「マンチエスター」ノ工業ノ何分カラ全然蠶食ヲ致シマシテ、我國ハ此纖維工業ト綿織物ノ工業トガ竝ンデ參リマシテ、我國ノ輸出ノ主ナルモノニナルト云フコトハ、既往數年間ノ實績ニ徴シテモ明デアルシ、又將來ニ於テ必ズ此見込ハ立ツト云フコトハ、當業者ニ於テモ往々認メテ居ルノデアリマスシ、政府當局ニ於キマシテモ、是ハ否認シナイノデアリマス、委員會ニ於キマシテハ、是等ニ付キマスル所ノ疑義ニ付キマシテ詳細ナル説明ガアリマシタ、又關稅撤廢ノ建議案ノ當時、武藤山治君ヨリ御質問ノアツタ點ニ付キマシテハ、革新俱樂部ノ馬場君ヨリ政府ニ質問ヲ致シマシタ、其要旨ハ機械ヲ安ク買入レテ、土地ヲ買入レテ、サウシテ紡績會社ガ今日ノヤウニ大キクナッタノハ、果シテ武藤山治君ノ言ハレル通りデアアルカト云フ質問ニ對シマシテハ、政府ハ武藤山治君ノ意見ハ誤リデアルト云フコトヲ斷言セラレマシタ、又操業短縮セザリシコトハドウダト云フコトノ質問ニ付キマシテハ、特ニ説明ヲ致サレマシタ、更ニ支那ト日本トノ此工場ノ關係ニ付キマシテハ質問ヲ致シマス、綿絲ノ關稅ヲ撤廢スルモ、支那ニ工場ガ移ッテ恐惶ハ無イト云フコトヲ政府ハ言明サレタ、是亦武藤山治君ノ意見ハ誤リデアルト云フコトヲ政府ハ明ニ聲明サレタノデアリマス、是ハ事實デアリマスカラ、私ハ委員長トシテ事實ヲ報告スルノデアリマス、ソレカラ綿絲關稅撤廢ニ付テ、紡績會社ノ立場ガドウカ、紡績會社ハ今日ハ基礎ガ鞏固ニナッテ居ルカラ、此新シク出來タ小サイ幾多

ノ會社ハ幾分影響ヲ被リマセウガ、既往出來テ居ル所ノモノ、大體ニ於テハ、決シテ綿絲ノ關稅ヲ撤廢シテモ、此工業ニ影響スルコトハナイト云フコトモ政府ハ言明セラレタノデアリマス、而シテ是等ノ改正ニ付キマシテ政府ハ更ニ、是ハ原内閣ノ當時デアリマスルガ、經濟調査會ニ於キマシテ調ベマシタトキニハ、紡績ノ當業者デアツテ經濟調査會ノ該委員タル所ノ亡クナリマシタ和田豐治君ハ、經濟調査會ノ委員トシテ綿絲ハ二十四番手以上ノモノハ、無稅ニシテ差支ナイト云フコトヲ經濟調査會ニ於テ意見ヲ立テラレテ、明ニ公ノ會ニ於キマシテ此免稅ノコトヲ證明サレテ居ルト云フコトモ政府ハ言明サレマシタ、其他憲政會ノ武内君ヨリ逆轉ノコト、又綿絲救濟ノ途、配當率ノコトニ付テ詳細ナル質問ガアリマシタガ、是等ノ點ニ付テモ速記録ニ詳細記載サレテアリマスカラ、速記録ヲ御覽ヲ願ヒタイ、之ヲ要スルニ此案ハ丁寧親切、各方面カラ委員會ハ審査ヲ致シマシテ、政府ノ聲明ヲ得マシテ、更ニ委員諸君ヨリモ質問應答ヲ重ネタ結果、滿場一致ヲ以テ原案ノ通りニ可決スルト云フコトニ決定ヲ致シマシタ、此段大要ヲ報告申上ゲマス

院議異議ナク本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ委員會報告ノ通可決確定シ即日之ヲ貴族院ニ送付シタルモ同院ハ議決ヲ爲スニ至ラサリキ

三七 道府縣會及市町村會ノ議員選舉ニ關シ衆議院議員選舉法中一部ノ規定準用ニ關スル法律案

北海道會府縣會及市町村會ノ議員選舉ニ關シテハ衆議院議員選舉法中選舉運動、選舉運動ノ費用、罰則及選舉運動ノ爲ニスル通常郵便物ノ無料取扱並公立學校其ノ他勅令ヲ以テ定ムル營造物

ノ使用許可ニ關スル規定ヲ準用ス但シ選舉事務所、選舉委員及選舉事務員ノ數並選舉運動費用ノ額ニ關シテハ勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

附則

本法ハ大正十四年ニ於テ行フ總選舉ヨリ之ヲ施行ス

本法施行ノ際大正十四年ノ改正ニ係ル衆議院議員選舉法未タ施行セラレサル場合ニ於テハ本法ノ適用ニ付テハ同法ハ既ニ施行セラレタルモノト看做ス

右ハ十四年三月十八日森田茂君外三名之ヲ提出ス三月十九日本案ノ第一讀會ヲ開キ提出者(森田茂君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

諸君、只今上程サレマシタル問題ハ、實ニ諸君ノ御注意ニ値ヒシマスル重要ナル法律案デアルト云フコトヲ考ヘルノデアリマス、提案ノ要旨ハ道府縣會及市町村會ノ議員選舉ニ關シマシテ、將ニ改正セラレントスル衆議院議員選舉法中選舉運動、選舉運動ノ費用、罰則及選舉運動ノ爲ニスル通常郵便物ノ無料取扱、法律學校其他是等ノ營造物ノ無料使用ヲ許スコトニ關スル其規定ヲ準用セントスルモノデアリマス、即チ近來ノ選舉ニ付キマシテ或ハ買収ト云ヒ、又戸別訪問ト云ヒ、有ユル選舉ニ付キマシテノ弊害ヲ助長致シマシテ、一面又選舉費用ト云フモノガ非常ニ嵩ムト云フコトニ付キマシテハ、是ハ一般ニ苦ミシク考ヘテ居ル所デアリマス、是等ノ弊害ニ鑑ミマシテ、今回衆議院議員選舉法モ改正セラレント致シマシテ、本院ヲ既ニ是ガ通過シタト云フコトハ、是ハ言ウマデモナイコトデアリマス、而シテ道府縣市町村會ノ議員選舉ニ付キマシテモ、是亦從前ヨリ衆議院議員選舉法ヲ準用セラレテ居ルコトハ洵ニ明デアリマス、然ルニ今ヤ此地方自治團體

ノ選舉ニ付キマシテ、就中此大都市ニ於キマス所ノ市會議員ノ選舉ニ付キマシテハ、其有權者ノ數ガ非常ニ激増致シマシテ、今日ニ於キマシテハ殆ド普通選舉ヲ行フノト違ヒナイ感ガアルノデアリマス、ノミナラズ私共ガ此提案ヲ急ギマス理由ハ、本年ノ五月ニ於キマシテハ京都市ニ於キマシテ、又六月ニ於キマシテハ近接町村ヲ編入致シタル所謂大阪府ニ於キマシテ、市會議員ノ總選舉ガアリマス、又十月頃ニナリマス、名古屋ニ於キマシテ此選舉ガアルノデアリマス、斯様ナ工合デアリマシテ、此選舉權ノ場合ニ於テ、改正セラルベキ衆議院議員選舉法ナルモノハ未ダ施行セラレザル場合ナリト雖モ、本法ノ適用ニ付キマシテハ、既ニ是ガ施行セラレタモノト看做シマシテ、サウシテ初ニ申上デマシタルガ如ク、或ル部分ノ準用ヲ見ルト云フコトハ蓋シ洵ニ其機宜ノ處置デアルト云フコトヲ信ジテ疑ハヌノデアリマス、殊ニ選舉ニ關シマシテハ戶別訪問ヲ禁止スル、或ハ事務所ノ數ヲ制限スルト云フヤウナコトヤ、又今マデ見ナイ所ノ通常郵便物ニ付キマシテ、或ル制限ノ下ニ無料取扱ヲスル、學校其他營造物ノ使用ヲ許可スルト云フヤウナコトハ、是ハ著シク諸君ノ御注意ヲ引ク點デアラウト私ハ信ズルノデアリマス、此案ニ付キマシテ非公式デアリマスルケレドモ、政府ノ意向ヲ承ツテ見マスルト、政府ニ於キマシテモ、ドウシテモ、矢張此選舉ニ付テ衆議院議員選舉法ノ準用ヲ見ルト云フコトハ、是ハ必要ナ事デアラスウ云フコトノ考ガアリマシテ、私ノ提出致シマスル案ニ付テモ、大體ニ於テ異議ノ無イト云フコトハ、私ハ非公式ニ承ツテ居ル所デアリマス、但シ大ナル市ト極ク小サイ町村トノ間ニ於キマシテ、同一ノ適用ヲ見ルト云フヤウナコトニ付キマシテハ、是ハ多少取捨センナラヌコトガアルカモ知レマセヌガ、私ハ是等ノ點ニ付キマシテハ、自分ノ考慮致シテ居ルコトモアリマスカラ、尙ホ委員會等ニ於テ詳シク説明スル機會ガアルト云フコトヲ考ヘテ居ルノデアリマス、右様ナ次第デアリマシテ、此問題ハ諸君ノ耳ニ達シマシタ以上ハ、別ニ諸君ニ於キマシテ大シタ御反對モアラレヌカノ如ク考ヘルヤウナ案デアリマスカラ、ドウカ満場一致ヲ以テ御贊成アラントヲ希望スル次第デアリマス

次テ本案ハ賴母木桂吉君外十二名提出東京市ニ關スル法律案(三五)委員ニ併セ付託スルニ決ス委

員會ハ審查ノ末原案ヲ修正スヘキモノト決シ三月二十二日報告書ヲ議長ニ提出セリ

(委員會報告書)

北海道會、府縣會、市會及勅令ヲ以テ指定シタル議會ノ議員選舉ニ關シテハ大正十四年ノ改正ニ係ル衆議院議員選舉法第九十一條、第九十二條、第九十八條、第九十九條、第一百條及第十二章ノ規定ヲ準用ス

附則

本法ハ大正十四年四月二十日以後ニ於テ行フ總選舉ヨリ之ヲ施行ス
 本法施行ノ際大正十四年ノ改正ニ係ル衆議院議員選舉法未タ施行セラレサル場合ニ於テハ本法ノ適用ニ付テハ同法ハ既ニ施行セラレタルモノト看做ス

三月二十三日本案ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長吉川吉郎兵衛君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

只今議題トナリマシタ本案ハ可ナリ重大ナル法律案デアリマス、故ニ委員會ノ經過ヲ詳細ニ報告スルノガ當然デアルト考ヘマスガ、愈會期モ切迫致シマシテ、餘ス所ノ案ガマダ堆積シテ居ルヤウデアリマスカラ、議事ノ進行上唯表題ト、之ニハ修正ノ動議ガ出マシテ修正動議ガ可決ニナッタノデアリマスカラ、修正動議ノ箇所ダケヲ御報告申上ゲタイト思ヒマス、是ハ今ヤ改正セラレントスル所ノ衆議院議員選舉法ノ一部ヲ地方ノ選舉界ニモ準用シタイト云フノデアリマス、提案ノ表題ハ道府縣會及市町村會ノ議員選舉ニ關シ衆議院議員選舉法中一部ノ規定準用ニ關スル法律案、此法律案デアリマス、此委員會ノ審議ニ付キマシテ色々質問應答ノ最中ニ於キマ

シテ、中ニ是ハ大問題デアリマシテ、之ヲ相當ニ取締ラントスル條文ヲ拵ヘマスニハ、約百條位ノモノガナケレ、バイケナイト云フコトモ段々出來マシテ、非常ニ彼方此方ニ差障リガ出來マシタガ故ニ、茲ニ政府ノ意見ヲ略參酌致シマシテ、委員作間耕逸君ヨリ修正動議ガ提出サレタノデアリマス、此修正動議ハ全會一致ノ贊成デアッタノデアリマス、直ニ之ヲ議題ト致シマシテ審議ヲ致シタノデアリマス、質問應答ノ全部ハ速記録ニ讓リタイト思ヒマスガ、唯此表題ガ變リマシタノト、附則ノ第一項ノ變リマシタ點ダケ申上ゲマス、初ハ「道府」トアリマシタノガ、此度ノ改正ハ「北海道會府縣會市會及勅命ヲ以テ指定シタル議會」ノ議員選舉ニ關シ衆議院議員選舉法中一部ノ規定準用ニ關スル法律案」斯ウ云フ風ニ表題ガ變ッテ居ルノデアリマス、ソレカラ附則ハ「本法ハ大正十四年四月二十日以後ニ於テ行フ總選舉ヨリ之ヲ施行ス」ト適用ノ期日ヲ明ニシタノデアリマス、ソレデ衆議院規則ノドレヲ適用スルカト云フ箇條ハ九十一條、九十二條、九十八條、百條、ソレカラ罰則ノ十二章、之ヲ準用スル、斯様ナコトデアリマス、之ニ就キマシテ審議ノ結果大多數ヲ以テマシテ修正動議ガ可決確定シタノデアリマス、右御報告申上ゲマス

清水市太郎君ノ反對演說

本案ハ只今委員長カラ報告ノアリマシタ通り、衆議院議員選舉法ノ改正セラレタルモノヲ、道府縣會及市町村會議員ノ選舉ニ、此取締又ハ罰則等ニ關スルモノヲ適用シヤウト云フ極メテ重大ナル法案デアリマス、而シテ斯ノ如キ取締ノ必要デアルコトハ、政府委員ニ於テモ認メラレマシテ、又私共モ認ムル者デアリマス、即チ本案提出者ノ趣意ニ於テハ贊成デアリマスガ、併ナガラ斯ノ如キ未定稿ノ案デハ贊成ヲ致シ兼ネルト云フコトニナルデアリマス、政府委員モ此點ニ於テハ私共ト意見ヲ同ジウシタノデアリマス、最初政府委員ノ反對セラレマシタ理由ハ、原案ノ如キ郵便物ノ無料取扱ヲ爲ス如キコトハ贊成ガ出來ナイ、ソレハ衆議院議員ノ選舉ノ場合ニ一回限リ郵便物ヲ無料取扱フト云フコトヲ政府ニ於テ認ムル時ニハ、其損害ガ百五六十萬圓ト云

フコトニナル、斯ノ如キコトヲ市町村會議員ノ選舉ニ於テモ郵便物無料扱ヲ認メテ重大ナ損害ヲ受ケルコトハ、政府ニ於テハ堪ヘナイ、又モウ一ツハ此運動員ノ數、費用ノ額、選舉事務所ノ數等ノ制限ニ付テハ、之ヲ勅令ヲ以テ定メル、斯ウ云フ原案ニ對シマシテ、政府ハ斯ノ如キコトヲ勅令デ定メルコトハ不穩當デアアル、即チ選舉費用ガ衆議院ノ場合ニハ投票一票ニ付テ四十錢ト云フ制限ガアル、其制限ヲ超エタトキニハ其投票ガ無効ニナル、或ハ選舉事務所ノ數ガ七箇所ヲ超エルコトヲ得ナイ、其數ヲ超エタトキハ選舉ハ無効ニナルト云フヤウナ、重大ナ當選ガ無効ニナルカナラヌカト云フヤウナコトヲ決メル所ノ條件タル事務所ノ數ノ制限、運動員ノ數ノ制限、費用額ノ制限等ヲ勅令デ決メルト云フコトハ、法律ノ規定ニ依ルヘキコトヲ勅令ヲ以テヤルコトニナルカラ、贊成ガ出來ナイ、斯ウ云フヤウナ趣意ノ反對ガ述ベラレタノデアリマス、ソレハ御尤ナ事デアリマス、是ニ於テ提案者ハ、サウ云フヤウナ箇條ヲ取ッテシマハレテ、只今委員長ノ報告ノ如ク單ニ衆議院議員選舉法中ノ第九十一條、九十二條、九十八條、百條、此四箇條ノミヲ適用スルコトニセラレ、サウシテ此四箇條ト云フモノハ如何ナル箇條デアアルカト申シマス、九十一條ハ選舉ノ當日ニ於キマシテ投票所カラ三町以内ニ選舉事務所ヲ置クコトヲ得ズト云フ規定デアアル、第九十二條ハ休憩所ヲ選舉當日ニ設ケテハイカヌ、ソレカラ百條ハ宣傳「ビラ」ハ内務大臣ノ監督ヲ受クルコト、九十八條ハ戶別訪問ノ禁止、此四箇條ヲ府縣會、市町村會議員ノ選舉ニ適用スル、是デ果シテ提案者諸君ハ御満足デアアルカト云フト、決シテ私ハ御満足デナイト思フ、即チ提案者ガ最初原案トシテ出サレタコトハ選舉ノ事務所ノ數、運動費ノ額ノ制限、斯ウ云フ衆議院議員選舉法ノ全體ニ互ル箇條ヲ適用シヤウトセラレタ御方ガ、唯簡單ニ只今申上ゲタヤウナ四箇條ノミヲ適用シテ満足スルコトハ出來ナイノデアリマス、故ニ此修正案ハ洵ニ不徹底デアルト云フコトニナルノデアアル、ソレカラ又衆議院議員選舉法ノ第十二章ハ即チ罰則デアリマス、此罰則ヲ準用ストゴザイマス、十二章ノ罰則全體ヲ準用スルト云フ嫌ガアル、十二章ノ罰則全體ハ即チ種々雜多ナ違反者ヲ罰スル規定デアリマス、只今申上ゲタ四箇條ダケノ罰則ニ止ラヌノデアリマス、假ニ是ガ探シ當テラレマシテ、十二章ノ箇條デ此箇條ト此箇條ヲ府縣會議員ノ選舉ノ場

合ニ適用シヤウト云フコトヲ見出シマシテ、適切ニ適用スルコトニ致シマシテモ、茲ニ甚ダ不釣合ノ事ガ起ルノデアリマス、ソレハ何デアルカト申シマスレバ、所謂衆議院議員選舉法ノ違反者ヲ罰スル罰則デアリマスカラ、極メテ重大ナル刑罰ヲ設ケテ居ルノデアリマス、即チ五年ノ禁錮若クハ懲役、二千圓以下ノ罰金ト云フヤウナ重イ刑ガ設ケテアルノデアリマス、之ヲ市町村會議員ノ選舉違反ニ適用シタナラバ、餘リニ重キニ失スル虞ガアルノデゴザイマス、非常ナ輕イ事柄ニ對シテ斯ウ云フ事ヲ規定スルト云フヤウナ不法ナコトハ、吾々ハ贊成スルコトガ出來ナイノデアリマス、要スルニ本案ハ極メテ未定稿案デアアル、原案ヲ撤回セラレテ、サウシテ衆議院議員選舉法ノ此ノ箇條此箇條トノ適用ガ出來ルダラウト云フコトヲ一時間バカリ御考ニナッテヤラレタノデアアル、故ニ提案者自身ガ不満足デナケレバナラス、只今ノ運動員ノ數、費用額ナゾヲ制限スルコトハ當然デアルト思ヒマス、唯勅令ニ依テ之ヲ決メルト云フコトハ不法デアルト云フコトニナルノデアリマス、會期切迫ノ場合ニ臨ンデ突如トシテ斯ノ如キ重大ナル選舉法案ヲ多數ヲ以テ直ニ通過シヤウト云フコトハ、不法モ甚シイモノト思ヒマス、加之諸君ノ本體トセラレル所ノ衆議院議員選舉法ナル其母法ハ、未ダ貴族院ニ於テ審議未了デアリマス、ドウナルカ分ラナイ、斯ノ如キ未定ノモノヲ捉ヘテ來テ、サウシテ母法トシテ之ニ倣ッテ直ニ此法ヲ衆議院ヲ通過サレタラ何トナル、此修正セラレタルモノヲ更ニ修正、斯ウ云フ不都合ガ起ル、此二三ノ不當ナル理由ガアリマスカラシテ、斯ノ如キ未定稿ヲ會期切迫ノ際ニ突如トシテ修正可決セラレテ通過スルト云フコトハ、甚ダ私ハ不穩當ト思ヒマス、如何ニモ國民ノ權利義務ニ重大ナル關係ノアル法案ヲ、斯ウ云フ方法ヲ以テ通過スルト云フコトハ絕對ニ反對デアアル、斯ノ如キコトガ私共ノ反對ノ理由デアリマス

院議異議ナク本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ委員會報告ノ通修正議決ヲ爲シ即日之ヲ貴族院ニ送付シタルモ同院ハ議決ヲ爲スニ至ラサリキ

三八 大阪市ニ關スル法律案

第一條 大阪市ハ從來ノ區域ニ依リ之ヲ府縣ノ區域外トス

第二條 大阪市ハ法人トス官ノ監督ヲ承ケ法令ノ範圍内ニ於テ其ノ公共事務竝從來法令若ハ慣例ニ依リ府若ハ市ニ屬スル事務及將來法律勅令ニ依リ市ニ屬スル事務ヲ處理ス

第三條 市制中市稅ノ賦課ニ關スル規定ノ外府縣稅ノ規定ヲ準用ス

從來府ニ於テ賦課スル賦金ノ徵收ニ付テハ市稅ニ準シ市ニ於テ之ヲ賦課シ其ノ支辨ハ從前ノ規定ニ據ル

第四條 大阪市ハ内務大臣之ヲ監督ス

第五條 市制中府縣知事又ハ府參事會ノ權限ニ屬スル事項ハ内務大臣之ヲ行フ

第六條 市制中監督官廳ノ裁定決定又ハ處分ニ關シ出訴シ得ヘキ事項ニ付テハ直ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第七條 市制中府參事會ニ於テ市會又ハ市參事會ニ代リテ處置スヘキ事項ハ内務大臣ノ許可ヲ經テ市長之ヲ處置シ次ノ市會又ハ市參事會ニ報告スヘシ

第八條 本法ニ規定スルモノノ外總テ市制ノ規定ニ據ル

附 則

第二章 議事 第四節 議案 第二款 議案ノ討議 第四項 法律案

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

三九 京都市ニ關スル法律案

第一條 京都市ハ從來ノ區域ニ依リ之ヲ府縣ノ區域外トス

第二條 京都市ハ法人トス官ノ監督ヲ承ケ法令ノ範圍内ニ於テ其ノ公共事務竝從來法令若ハ慣

例ニ依リ府若ハ市ニ屬スル事務及將來法律勅令ニ依リ市ニ屬スル事務ヲ處理ス

第三條 市制中市税ノ賦課ニ關スル規定ノ外府縣税ノ規定ヲ準用ス

從來府ニ於テ賦課スル賦金ノ徵收ニ付テハ市税ニ準シ市ニ於テ之ヲ賦課シ其ノ支辨ハ從前ノ

規定ニ據ル

第四條 京都市ハ内務大臣之ヲ監督ス

第五條 市制中府縣知事又ハ府參事會ノ權限ニ屬スル事項ハ内務大臣之ヲ行フ

第六條 市制中監督官廳ノ裁定決定裁決又ハ處分ニ關シ出訴シ得ヘキ事項ニ付テハ直ニ行政裁

判所ニ出訴スルコトヲ得

第七條 市制中府參事會ニ於テ市會又ハ市參事會ニ代リテ處置スヘキ事項ハ内務大臣ノ許可ヲ

經テ市長之ヲ處置シ次ノ市會又ハ市參事會ニ報告スヘシ

第八條 本法ニ規定スルモノノ外總テ市制ノ規定ニ據ル

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

四〇 名古屋市ニ關スル法律案

第一條 名古屋市ハ從來ノ區域ニ依リ之ヲ縣ノ區域外トス

第二條 名古屋市ハ法人トス官ノ監督ヲ承ケ法令ノ範圍内ニ於テ其ノ公共事務竝從來法令若ハ

慣例ニ依リ縣若ハ市ニ屬スル事務及將來法律勅令ニ依リ市ニ屬スル事務ヲ處理ス

第三條 市制中市税ノ賦課ニ關スル規定ノ外縣税ノ規定ヲ準用ス

從來縣ニ於テ賦課スル賦金ノ徵收ニ付テハ市税ニ準シ市ニ於テ之ヲ賦課シ其ノ支辨ハ從前ノ

規定ニ依ル

第四條 名古屋市ハ内務大臣之ヲ監督ス

第五條 市制中縣知事又ハ縣參事會ノ權限ニ屬スル事項ハ内務大臣之ヲ行フ

第六條 市制中監督官廳ノ裁定決定裁決又ハ處分ニ關シ出訴シ得ヘキ事項ニ付テハ直ニ行政裁

判所ニ出訴スルコトヲ得

第二章 議事

第四節 議案

第二款 議案ノ討議

第四項 法律案

第七條 市制中縣參事會ニ於テ市會又ハ市參事會ニ代リテ處置スヘキ事項ハ内務大臣ノ許可ヲ經テ市長之ヲ處置シ次ノ市會又ハ市參事會ニ報告スヘシ
第八條 本法ニ規定スルモノノ外總テ市制ノ規定ニ據ル

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

右第一案ハ十四年三月二十日廣瀨德藏君外五名、第二案ハ三月二十日森田茂君外一名、第三案ハ三月二十二日小山松壽君外一名之ヲ提出ス三月二十三日三案ヲ一括シテ其ノ第一讀會ヲ開キ提出者(廣瀨德藏君、田崎信藏君、小山松壽君)ハ各々其ノ案ニ付左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ
廣瀨德藏君ノ第一案趣旨辯明

本案ハ大阪市ニ特別市制ヲ布カントスル法律案デアリマス、會期切迫ノ折柄デアリマスカラ、其理由ハ此法案ニ添付致シマシタ理由由書ニ總テヲ讓リマシテ、茲ニ申述ベヌコトニ致シマス、要ハ大阪市ハ東京市ト對立シテ居ル所ノ我國ノ大都市デアアル、其人口ノ多キ、其自治組織ノ大ナル、到底他ノ小都會ト同一ノ法制ノ下ニ律セラルベキモノデハナイ、普通ノ法制ノ下ニ律セラレルト云フコトニナルト云フト、到底自治ノ圓滿ナル發達ヲ期スルコトハ出來ナイカラ、茲ニ特別ナル法制ヲ設ケテ、大阪市ヲシテ府縣ノ外ニ獨立セシメ、所謂二重監督ヲシテ、以テ自治ノ機能ヲ圓滿ニ發揮セシメ脱ントスルノガ此案ノ趣旨デアリマス、滿場諸君ノ御贊成ヲ求メル譯デアリマス
田崎信藏君ノ第二案趣旨辯明

本案ハ只今大阪市ニ關スル法律案ト同様ノ趣旨デアリマス、我が京都市モ皇居ノ地ト致シマシテ、輒近ノ發達ハ非常ニ地域ヲ擴大サレマシテ、且ツ其他百般ノ施設モ現在ノ法律ニ依リマシテハ、其施設ヲ行ヒマス上ニ於テ非常ニ不便デアリマス、今ヤ監督者ト被監督者ノ間ニ於テ其知識ノ程度又其他ノ點ニ於テ相違ガアルノデアリマス、願クハ斯様ナ監督者ト被監督者ノ地位ノ顛倒シテ居ル際ニ於キマシテハ、此大都市ノ建設ノ爲ニ特ニ法律ヲ設ケラレンコトヲ希望スルノデアリマス、而モ其法律案ハ曩ニ建議案トシテ數回本院ヲ通過致シテ居ルノデアリマス、願クハ政府ニ於カセラレマシテモ、特ニ此法律案ヲ御同意下サレマシテ、滿場ノ御贊同ヲ乞フ次第デアリマス

小山松壽君ノ第三案趣旨辯明

本案ハ第六大阪市ト、第七京都市ト同様ナ立法ノ趣旨デアリマス、説明ヲ省略致シマシテ御協贊ヲ乞ヒマス

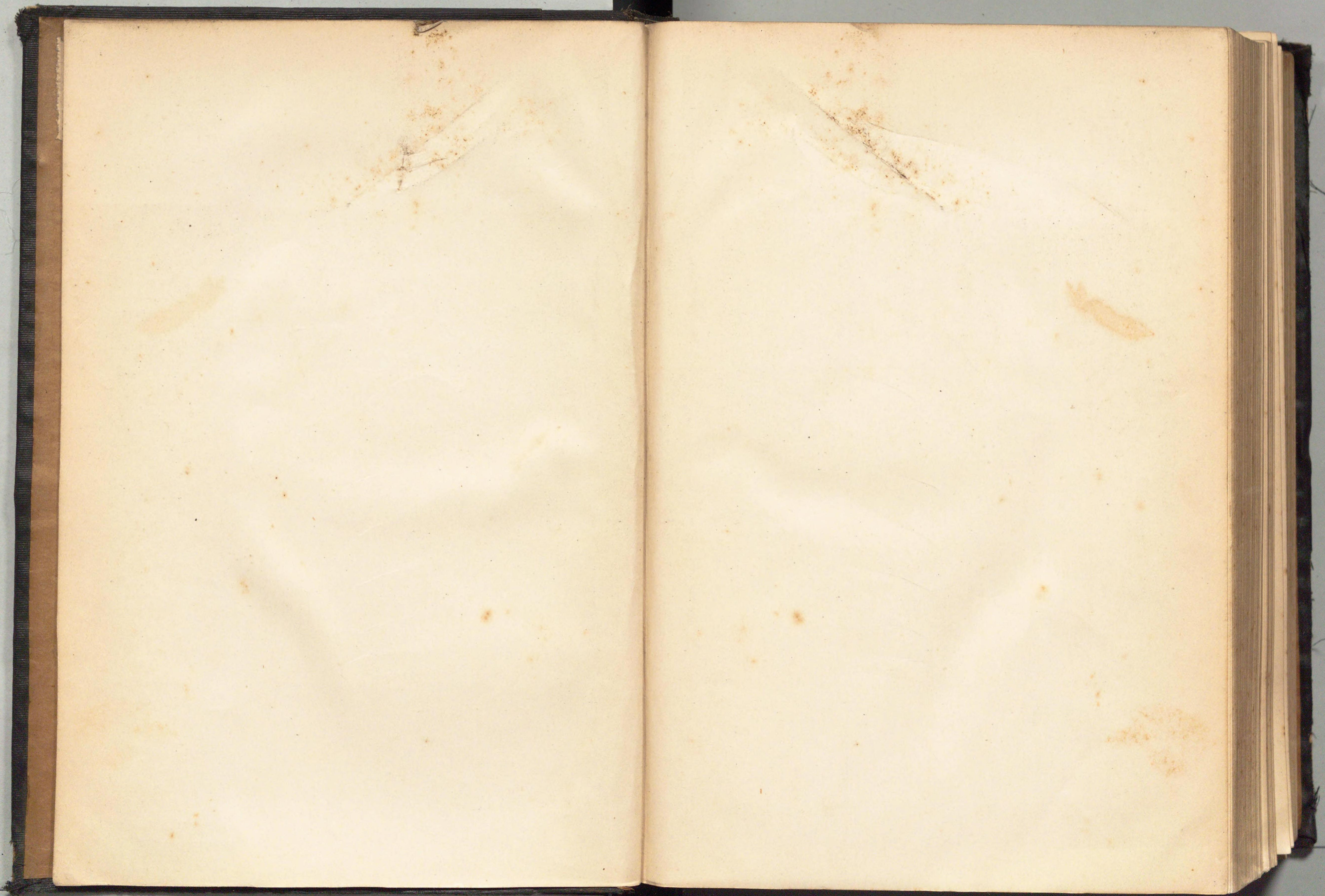
次テ三案ハ之ヲ一括シテ議長指名(九名)ノ同一委員ニ付託スルニ決シ即日議長之ヲ指名ス委員ハ翌二十四日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末各原案ヲ可決スヘキモノト決シ即日報告書ヲ議長ニ提出セリ

三月二十五日三案ヲ一括シテ其ノ第一讀會ヲ開キ委員長森田茂君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

只今議長ヨリ御宣告ニナリマシタ三案ニ付キマシテハ、委員會ニ於キマシテモ同一性質ノモノデアリマスカラ、三案ヲ一括シテ議題ト致シタノデアリマス、大阪市ニ關スル法律案ニ付キマシテハ、廣瀨德藏君ヨリ提案ノ趣旨ヲ辯明セラレマシタ、殊ニ廣瀨君ト致シマテハ、大阪市ガ近來

非常ナル發達ヲ爲シマシテ、其人口ニ於テモ又經濟力ニ於キマシテモ、或ハ大阪市ノ財政ノ上カラ考ヘマシテモ、殆ト東京市ト讓ル所ハナイ、サスレバ東京市ニ都制ヲ布クト云フ上ニ於テハ、矢張大阪市ニモ同様之ヲ布カナケレバナラヌト考ヘルノデアアルガ、政府ニ於テハ此事ニ關シテドウ云フ考ヲ持ッテ居ルカト云フヤウナ、深刻ナル御質問モアッタノデアリマス、併シ此點ニ關シテハ、矢張東京市ニ關スル法律案ニ付テ政府ノ辯明致サレマシタト殆ト同一ノ答辯デアリマシテ、私ガ改メテ此案ニ付テ絮説スル必要ハ無イコトヲ考ヘルノデアリマス、京都市ニ關スル法律案ニ對シマシテハ、田崎信藏君ガ提案ノ趣旨ヲ辯明サレマシタ、同君ハ曩ニ市會議員ト致シマシテ、特別市制ノ促進ニ關スル問題ニ付キマシテハ、度々内務當局及衆議院ト交渉ヲ持ッテ居ッタ方デアリマスカラ、其事ニ付キマシテモ中々要領ヲ得タ深刻ナ質問ガアッタノデアリマス、名古屋市ニ關シマスル法律案ハ、加藤鏝五郎君ガ委員トシテ出席ニナリマシテ、矢張田崎君、廣瀬君ト同様ノ質問ガアッタノデアリマス、併ナガラ政府ノ答辯ト致シマシテハ、先刻申上ゲマスル通り、東京市ニ關スル法律案ノ答辯ト同様デアッテ、東京市ニスラ未ダ都制案ヲ布クト云フコトハ政府ハ是ハ考慮中デアアル、又此案ニ依リマシテ内務省ノ直接監督ニ移シ、府縣ノ監督ヲ離脱スルト云フ意味ノミデナクシテ、區域ヲ市ト府縣トノ間ニ於テ劃然ト區別ヲスルト云フコトニナレバ、茲ニ又之ニ關シテ色々ノ問題ヲ惹起スルコトデアルカラシテ、今直ニ東京市ニ於テ、又大阪、京都、名古屋、其外横濱ニ於テ希望スルガ如キ特別市制ナルモノヲ布クトハ、今ノ所政府ト致シテハ如何トモ答辯スルコトガ出來ナイト云フコトニ歸着スル答辯ヲセラレタノデアリマス、併ナガラ此案ニ付キマシテモ、東京市ニ關スル法律案ト同ジ事デアリマシテ、委員會ニ於キマシテハ出席委員ノ一致ヲ以チマシテ、此案ヲ可決致シタノデアリマス、其經過ト結果トニ付キマシテ、簡略ナガラ左様御報告致シテ置クノデアリマス

院議異議ナク三案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ各原案ノ通可決確定シ即日三案全部ヲ貴族院ニ送付シタルモ同院ハ議決ヲ爲スニ至ラサリキ



1

14.3
51=

